

第21回 **NHK**

全国短歌俳句大会

NHK Zenkoku Tanka Haiku taikai

入選作品集

ジュニアの部

Junior



もくじ

ごあいさつ	1
NHK全国短歌大会ジュニアの部	3
NHK全国俳句大会ジュニアの部	47
選考について	97
学校の取り組み	98
参加校名・団体一覧	100



「NHK全国短歌・俳句大会」ジュニアの部は、NHK学園が平成元年から開催してきた大会を前身とします。平成十一年からはNHKも主催者に加わり、二十一回目を迎えました。

今回も多くの作品をご投稿いただき、誠にありがとうございました。全国から寄せられた作品は、幼児、小・中学生あわせて短歌は一四、一四五首、俳句は三六、六六七句を数えました。

日々の生活の中での気づきや感動を詠んだ作品、大切な仲間や家族をジュニア世代ならではの視線で瑞々しく切り取った作品、世界での事象を詠みこんだスケールの大きな作品など、自分ならではの言葉で表現した作品をお寄せいただきました。

全国の小学校、中学校では、短歌・俳句を詠む取り組みが益々増えています。子どもたちの感性を育もうと熱心に努める先生方や、保護者のみなさまに、心から敬意を表します。

新しい時代を生きるジュニア世代のみなさんが伝統的な短詩型文芸に取り組むことで、日本語の持つ美しさや、「五・七・五」、「五・七・五・七・七」という定型のリズムを受け継ぎ、新たな文化を創造していくことを心から願っています。

NHKEテレで毎月第四日曜に放送している「短歌de胸キュン」「俳句さく咲くー」など、若い世代の方々に短歌・俳句を通じて日本語の魅力に触れていただける番組をお届けしています。これからもNHKのさまざまな放送番組を活用し、短歌・俳句に親しんでいただければ幸いです。

最後に、大会の開催にご尽力、ご支援を賜りました全国の学校関係者や保護者のみなさま、選者のみなさま、各団体のみなさまに厚く御礼申し上げます。

令和二年一月二十五日

NHK会長 前田 晃 伸

NHK学園理事長 浜田 泰 人

第21回NHK全国短歌大会

ジュニアの部

もくじ

ジュニア大賞	4
学校大賞・学校優秀賞・特別賞	5
●幼児・小学生の部	7
選者のことば 東 直子	9
特選・秀作	10
入選	16
●中学生の部	27
選者のことば 大松 達知	29
特選・秀作	30
入選	36

ジュニア大賞

幼児・小学生の部

なつさがしへびのぬけがらみつけたよつるつるしててひらべったいよ

岐阜県 郡上市立大和西小学校 1年

山田 彩愛

げん界だ組体そうで土台するこし・かた・首でふんばっている

岡山県 倉敷市立琴浦北小学校 4年

貫井 涼央

ラムネのみあわがのどを通りぬけおなかの中で夏が広がる

東京都 八王子市立鹿島小学校 6年

松本 美咲

ジュニア大賞

中学生の部

サイダーのあわをじつとながめれば差し込んできた光と出会える

東京都 国立市立国立第一中学校 2年

阿部 真結

公園でシュートを決めたその音がずいぶん昔のことに感じた

鹿児島県 湧水町立栗野中学校 2年

田代 宗伸

裏道で夜中の影と帰る時あいつはだれでわたしもだれか

東京都 海城中学校 3年

高島 有希

学校大賞



岡山県

新見市立野馳小学校

愛媛県

大洲市立新谷中学校

特別賞



岐阜県

郡上市立大和南小学校

愛知県

長久手市立北中学校

学校優秀賞



東京都

八王子市立鹿島小学校

岡山県

倉敷市立琴浦北小学校

東京都

葛飾区立金町中学校

・ジュニア大賞は学年順の掲載です。

短歌

幼児・小学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

なんでもないことの中に……

東 直子

家族でどこかへ旅行に行ったら、記念に写真を撮りますよね。きれいだなと思った景色や、着ていた服、みんなの笑顔。写真は、いろいろなものを光とともに記録してくれます。それをあとで見ても、あのときは楽しかったなあ、なんて思います。そして、その場に一緒にいなかった人も、写真を見ると、楽しかったんだろうなあ、景色、きれいだな、なんて同じように感じることができるのです。

短歌の場合は、それぞれの思い出を言葉で組み立てるようなものです。ただし、五七五七七という言葉の枠があります。枠に収まるもの、収まりきれないものがあるので。そのとき見たもの、聞いたものの他に、心の中に思ったことや考えたこと、うれしかったこと不安に思ったことなどを、言葉を選んで組み立てることになります。

心も生き物のように、どんどん姿を変えるので、短歌でまとめることのできた心は、のちのちきつと、なつかしくて、貴重なものになるでしょう。

この作品集には、みんなの心の記録が集まっています。一首一首読んでいくと、いろいろな時間の、様々な思いが感じられますよね。でも、できごととしてはなんでもないことが多いのに気づくかもしれません。ラムネを飲んだこと、一人で勉強したこと、雨が降っていたこと、エスカレーターに並んだこと、夜の道に月が光っていたこと、一輪車に乗ったこと、など、わざわざ記念写真を撮るほどのこともないことが多いです。でも、一首の中には、その作者ならではの発見や感覚、想像力が必ず生かされています。なんでもないことの中に、見つけ出す何か。短歌の秘密は、実はそこにあるのです。

たくさんさんの時間の中の、たくさんさんの心を短歌で読むことができ、幸せです。すてきな作品を送ってくれて、ありがとうございます。



● 東 直子
ひがしなおこ
昭和三十八年広島県生まれ。
「かばん」同人。

特選

東 直子 選



なつさがしへびのぬけがらみつけたよつるつるしててひらべったいよ

岐阜県 郡上市立大和西小学校 1年 山田 彩愛

「へびのぬけがら」を、とつてもていねいにかんさつしていますね。てぎわりや形がよく伝わり、新鮮な気持ちでそれを見ている作者の目が見えます。まるで、となりに一緒にいるみたい。 「なつさがし」というのはじまりにも、わくわくしました。

夏の日にきらりと光る海の中いわしの家族はひっこし中だ

埼玉県 西武学園文理小学校 3年 原田 将希

いわしは、群れになって海の中を移動します。どこかでその姿を目撃したのでしょうか。無数のいわしたちが、きらきら光りながら新しい場所をめざして泳いでいる様子が美しく、気持ちよいです。「ひっこし中」という擬人化が物語的な楽しさを加えています。

一列に家族で並ぶエスカレーターストローすすむタピオカみたい

富山県 富山市立堀川小学校 4年 中田 うた

エスカレーターに家族で並んで運ばれていることと、タピオカドリンクのタピオカがストローをのぼっていく様子を重ねあわせるなんて！ 思ってもいなかったことですが、言われてみれば納得できる、絶妙な比喻ですね。旅行中なのかな。楽しい気分が伝わってきます。

げん界だ組体そうで土台するこし・かた・首でふんばっている

岡山県 倉敷市立琴浦北小学校 4年 貫井 涼央

「組体そう」で一番下の「土台」になった人の身体感覚が、たつぷりと伝わります。一生懸命身体に力を入れ、顔を赤くして、汗をかいている、そんな姿が見えてくるようでした。思わず「かんばって、あともうすこし」と応援したくなります。

オレンジにマリーゴールド輝くよ閉校になる校舎のすみに

青森県 黒石市立中郷小学校 5年 石澤 真生

閉校になることが決まって、淋しいですね。もうすぐ子どもたちがいなくなる学校に、そんなこととは関係なく、あざやかなオレンジのマリーゴールドが光を帯びて咲いていたのを見つけました。なにげない景色の中に希望と切なさを感じ取っています。

ラムネのみあわがのどを通りぬけおなかの中で夏が広がる

東京都 八王子市立鹿島小学校 6年 松本 美咲

ラムネという炭酸水を飲むと感じる、パチパチと泡がはじける独特の刺激。暑い日に飲むと、目がさめるような感じがして、気持ちがいいですね。その感覚の表現が独特です。「おなかの中」までたどりついた炭酸たちが走り回って夏を楽しんでいるようです。

消しゴムとえんぴつ一本動いてる勉強机に私が一人

神奈川県 カリタス小学校 6年 松本 明莉

もう一人の自分が、自分を見つめているようですね。一步引いて見つめ直している冷静さが印象的で、勉強に集中していることが伝わります。物が先で、最後に人間である「私」が出てくる語順にもはっとさせられました。勉強することに対する問いがあります。

しとしとと地面に水がしみこむとぼくの心に静けさがくる

広島県 ぎんがの郷小学校 6年 植木 創士

雨が降ると地面がしっとりとして、見ている景色も、聞こえてくる音も、少し変化しますよね。そのことを繊細に感じ取って、自分の身体と心で雨を受け止め、雨と一体化したような、みずみずしい一首になりました。

秀作

東直子選



おひさまねいけをてらしてきらきらだやねにはんしゃしやまもひかった

岐阜県 郡上市立大和南小学校 1年 遠藤 瑠南

おつきさますつとわたしについてくるもうだいじょうぶいえについたよ

静岡県 静岡大学教育学部附属浜松小学校 1年 大家 凜恋

あさがおはあさはやくさくよきれいだなさわってみたよしつとりふわふわ

岡山県 新見市立野馳小学校 1年 井上 敬康

ぜったいにすてたくないよお人形もうくにやくにやでわたがでたけど

北海道 美瑛市立中央小学校 2年 岸本 凜

川の中はつるつるするふと見るとおたまじゃくしがたくさんいたよ

奈良県 奈良市立椿井小学校 2年 和田龍之介

虫さされかゆみと共にきえて行くぼくの休みは後何日だ？

富山県 富山市立堀川小学校 3年 須藤 凌平

一りん車で手をはなすときぐにやぐにやとするから足に力を入れる

岡山県 倉敷市立琴浦北小学校 3年 藤原 快吏

金魚さんぽーっとしている目はむこうひれだけ動くしっぽだけ動く

岡山県 新見市立野馳小学校 3年 播摩 菜陸

おんせんでひとりひとりとふえてくる入ってきては水があふれる

広島県 ぎんがの郷小学校 3年 奥村 遙

家たてる前に植えたよさくらんぼ上の方の実真っ赤に光る

青森県 黒石市立中郷小学校 4年 種市 絢

しゃぼん玉中の空道きになるな大人になったら実験しよう

東京都 八王子市立鹿島小学校 4年 小串 直久

せみおもうきれいな声でうたいたいだけどうたえず悲しんでいる

岐阜県 郡上市立那留小学校 4年 前田美咲樹

ゆうぐれとほのおをまぜてあきのいろもみじがかおをあからめている

京都府 ノートルダム学院小学校 4年 小西 紗愛

ごうごうと特別警報雨が降る地球はいま泣いているのかな

京都府 ノートルダム学院小学校 4年 山下 耀

満月の横にぼつんと金星が互いに向いて何を話すか

京都府 ノートルダム学院小学校 4年 芥川 陽嶺

妹と毎日来ている学校のプールついに泳げた8月21日

青森県 黒石市立中郷小学校 5年 藤田 美蘭

しゅんわりとラムネの中に飛びこんだそんな気分で夏に飛びこむ

長野県 長野市立南部小学校 5年 西 瑠生斗

いねの芽は白く細いよヒヨロヒヨロともやしに似てて食べちゃいそうだ

岐阜県 郡上市立大和西小学校 5年 横山 紗来

自転車のかごにつかまるセミの子に「いよいよだよ」とそつとささやく

兵庫県 小林聖心女子学院小学校 5年 山本 佳歩

つくしんぼスギナに生まれ変わるころ鳥のさえずり聞こえ始める

青森県 黒石市立中郷小学校 6年 工藤 栄心

秋なのにまだ咲いているひまわりが笑って見えてちょっと怖いな

東京都 にしみたか学園三鷹市立井口小学校 6年 加藤あずみ

運動会母が来るのが少しいやなのに私は探してしまう

東京都 にしみたか学園三鷹市立井口小学校 6年 中村 愛音

スイカわり初めてわった喜びを砂つけたまま食べかみしめる

京都府 ノートルダム学院小学校 6年 津田昌之介

妹と歩いていたら見つけたよパンジーさいてる小さな不思議

京都府 ノートルダム学院小学校 6年 小森 愛紗

海の駅ソーダアイスを食べいて「あ」という文字が見えたしゅん間

京都府 ノートルダム学院小学校 6年 稲岡 佑莉

ギリギリと輝く太陽まぶしくて黒糖パンになりそうな僕

京都府 ノートルダム学院小学校 6年 廣瀬 遼

夏のある家でご飯を食べていて遠くに見える小さな花火

兵庫県 小林聖心女子学院小学校 6年 辻 優子

楽しいな最後のすいか腐ってた腐ってないのは硬い皮だけ

岡山県 倉敷市立連島南小学校 6年 白田 和真

見学でみんなが泳ぐの見ていたら足元だけが泳いだ気分

広島県 ぎんがの郷小学校 6年 喜多村香里

夏が来た山がむくむく太ったよ空の神さまわらったみたい

広島県 庄原市立比和小学校 6年 田口 来夢

テーブルはごはんを食べる話するべんきょうもする弟かけまわる
 「まちがえた」まってましたその言葉ぼくの出番だしっかり消すよ
 土の中そだてているよカブト虫黒くひかって生まれてきたよ
 ミニトマト色が黄色になっているせわをがんばる赤くなつてね
 おとうとがたいこをたたきよドンドンドンおうえんしてるおとうとのかお
 おかあさんとなすカレーライス作ったよ弟につこりおかわりしたよ
 算数の時間に $0 \div 6$ をやったわからないあ一人べんきょうする
 弟と母さんと食べるかき氷メロン味がさっぱりするよ
 アキアカネなかごうしょうのこうていのてつぼうのうえとまっているよ
 青い空外であそぶのきもちいい上をながめて日ざしがビカビカ
 満開のさくらの花がさいたあとちった花びらもきれいに思う
 海行つてカニをたくさんつかまえた友達いっぱいカニもいっぱい
 公園でバーベキューだね友だちと長いウインナーとてもおいしい
 カメの水きれいにしたようれしそうさん歩もさせたよ大満足そう
 マリーゴールド黄やオレンジに咲いている緑の花芽つぎつぎ出てる
 キャンドルのほのおがてらす顔があるちかいの言葉ひびいているよ
 消しゴムが今日も小さくなってゆく毎日大変私と似ている
 くり拾いセミの声しておどろいた気がつく者は悲しいだろう
 バット振り血豆が出た手を見つめ自分に自信ついた気がする
 まるぼうず父ととこやに行つたからなだめる母にないておこるぼく

2年	北海道	安口ひびき
6年	北海道	佐藤幸偉知郎
2年	青森	岡崎 葵
2年	青森	兼平陽飛樹
2年	青森	工藤 源市
2年	青森	寺口 果凜
3年	青森	工藤 遥翔
3年	青森	佐藤 愛華
3年	青森	中村 真梨
3年	青森	松山敬太郎
4年	青森	相内 結衣
4年	青森	井澤 晃真
4年	青森	石澤 勇斗
4年	青森	工藤 徠暖
5年	青森	唐牛 未憂
5年	青森	北山 葵
5年	青森	佐藤 文菜
5年	青森	佐藤 瑞姫
5年	宮城	斉藤 拓也
3年	群馬	小林 蒼空

シャリシャリとすすしい雪を作りだすかき氷機は夏のアイドル

りようさきかんばんねことごあいさつところがはずむなつのおもいで

東京に来てみてびっくり夏休みぎじゅつがたっぷりつまったタウン

あじさいはどくがあるけどきれいだなねっこのところにかたつむりいた

ご先祖にお花をそなえ空みあげあつてみたいな空のご先祖

空を飛ぶくわがた虫の上にのりちきゅう一周できたらしいな

ふうりんや風にふかれて音が鳴るうちゅうにとどけ夏の音色だ

貝がらをみんなで集め山作りそのあとみんな海へ飛びこみ

ゴーグルのあとがついてるおかお見てみんなわらったタヌキみたいね

たんざくにねがいをこめてささの葉^はへねがいをまわすリレーのようだ

ひまわりはたいようがあると日にむくよいきてるみたいにうごいているよ

代かきで足を取られて転びそうだけどがんばりしゅうかくするよ

代かきで体全体どろまみれおいしいお米ができますように

ほたるいかひかりをだしておよいでるほしぞらのようかがやいている

あさがおにおはよう言えてもおやすみはもう消えていて言えないんだな

ひっそりとやみ夜にまぎれしのびよる血を盗みゆく夏のどろぼう

風涼し虫の音^ねの中街熱し支持するひとと支持しないひと

すいかわりめかくしされてあやふやだまぎやくにすすみうみにどほん

真夏の日真赤なスイカ食べてみるするとつぜん暑さはじける

おとうとの手のひらいっぱいコロコロと木の実のようなダンゴムシだな

4年 群馬 鈴木 咲愛

1年 埼玉 霜田 悠斗

2年 埼玉 武藤 俊裕

3年 埼玉 園田悠一郎

3年 埼玉 田村虎太郎

3年 埼玉 原 史恩

3年 埼玉 松下 聖和

6年 埼玉 島田 桜花

2年 千葉 荒堀 優月

4年 東京 山中 快志

5年 東京 井出 広希

5年 東京 越智 穂美

5年 東京 世古 春菜

5年 東京 前川 惺成

6年 東京 浅野 琴胡

6年 東京 浅野 ティモテ

6年 東京 植松 輝心

6年 東京 加藤 心桜

6年 東京 日下部 菜帆

6年 東京 坂本 光司

夏休み海はガラガラまぶしいなごぼうのようにやけてしまった
盆休み祖母の喜ぶ顔思いひと目ひと目に力がこもる

すすきがねしゃべっているよざわざわと夕日とともに消えていくよう
ぶっこわすそうゆうことを言うよりもたいせつなのはつくりだすこと

忘れ物ポツンと僕だけ残されて僕の存在忘れてないよね？

忘れ物ほくは水とう持ち主の急いで来てねびびく足音

あまがえる雨にうたれた背の甲は緑のペンキきれいにぬられた

マスカットプクツとまん丸つめたいなプチッとはじけて笑顔はじける

しわしわな祖母の手つなぐせまい道二つのかげがゆっくり動く

うずまきのさきとおしりに火をつけて私を守れ蚊取り線香

バイオリンかかえて急ぐ帰り道上手くなったよすずしい風さん

海の家氷をけずるおじさんと小銭をにぎる日焼け少年

雲達は青空という海の中波に流され世界一周

始業式見知らぬ顔がいっぱいだ仲良くなる人想像つかぬ

すなはまによせてはじけるなみたちがきれいなかいをわすれていった

アリさんの触角とれて暴走だ空気をぬいてる風船みたい

魚たち右右左動いてるジグザグもようすいかのように

棒おれた丈夫な西瓜に負けました支柱でたたきみんなで食べた

光の尾濃紺の布を切り裂いてハッとその時花火が咲いた

ミシミシと聞こえる木の場所みてみてもみつけれないわたしの負けだ

6年	東京	篠澤	花音
6年	東京	進藤	奏乃
6年	東京	高田	愛理
6年	東京	田中	総
6年	東京	西田	昊立
6年	東京	堀江	雄太
6年	東京	両角	玲香
5年	神奈川	滝瀬	菜々美
5年	神奈川	志水	栞奈
5年	神奈川	村上	うらら
5年	神奈川	吉玉	愛
6年	神奈川	岩田	明莉
6年	神奈川	岡田	紗依
6年	神奈川	櫻井	良太
6年	神奈川	清水	柚衣
6年	神奈川	スーヨン	ナターシャ
6年	神奈川	千田	莉音
6年	神奈川	松尾	倭
6年	神奈川	山田	璃乃
5年	新潟	坂井	音迦

下の道黄色い葉っぱでうまつた月の光がうつたみたい
新潟花火橋の上から見たけれど大きなビルにかくれていたよ

こうえんでラジオたいそうするけれどきもちはいつもむしとりのこと

一限目黒い板みて書く子ども白い紙みて見守る大人

心臓は休みたくても休めないでも休んだら死んでしまうよ

ザクザクとはまべで食べるかき氷夏の終わりが近づいてくる

雪がふり静かに積り雪げしょうけれど明日はなみだの水だ

友達の朝日に光るピンどめがダイヤモンドの宝石みたい

はじめてねうみにいったよぎっぶーんあせとおなじでしょっぱかった

にじさんはあめがやむとねでてくるよはやくみたいなあめはやくやめ

つめたいないわのうえからとびこんだぴかぴかないしがかわにあったよ

えいがかんこえをだしちゃだめなのにドキドキしたらおもわずこえが

あさがおはちいさかったよでもきれいあめがふつたらもつときれいだ

あまごがねすごいはやさでおよぐんだつかまえたいなすばやくにげる

じでん車ではじめて行ったよばあちゃんちきゅうりとトマトすごくうれしい

ありさんがぎょうれつ作ってうちに来たようじはぼくのこぼしたおかし

ブラシをねやさしくクルクルうごかして色でそめるよわたしの手さげ

せんそうを知らないぼくが手を合わせ平和をねがう八月六日

おかあさんとおまつりいったおどったよしらないおどりもすぐにおぼえる

川あそびいきおいつけてとびこんだ魚いっぱいにげていったよ

5年 新潟 堀内 架那

6年 新潟 早川 友彩

1年 富山 下崎 圭輝

5年 福井 北川 乃愛

5年 福井 手賀 将晴

5年 福井 服部 音寧

5年 長野 山崎 敦仁

5年 長野 山田 朱莉

1年 岐阜 岩川 瑠那

1年 岐阜 大澤 椿

1年 岐阜 大塚 弘翔

1年 岐阜 島崎 更紗

1年 岐阜 角 明花莉

2年 岐阜 小澤 歩生

2年 岐阜 田中 佑篤

2年 岐阜 日置 大瑚

2年 岐阜 山内 咲凜

3年 岐阜 井上 尊仁

3年 岐阜 遠藤 月華

3年 岐阜 山田 秀弥

足もとの道をたどれば花ばたけいろとりどりの春のパレード

雨上がりふと見た空ににじがでたようせいたちのつうろができた

米の苗ずんずんのびる不思議だなさわってみたくすぐったいな

ドキドキだ初めてつくるオムライスケチャップでかく君のイニシャル

スイカわり当たったところ石だったしよんぼりしたがスイカは美味い

ゆうき出し水しぶきたて飛びこんだお姉ちゃんがだきしめてくれた

白い波おそいにかかるべくたちに砂浜までものみこまれそう

マスつりに家族で行った父さんが二ひきつったよぼくは三びき

そうめんが流されていくとらないとつゆにつけたらチュルツと食べる

まきわりをおのを構えてトントンとわれたしゅん間力がぬけた

くるくるとゆっくり回すふかふかのバームクーヘンこんがり焼けた

小さな手ばくの小指をにぎりしめにつこり笑う小さな顔が

農民を千手観音は救うため千の手の上斧・槍・稲穂

初めてのバードコールを作ったぞキーキ鳴らすと返事が来たんだ

夏野菜緑に赤にカラフルだ白いお皿にきれいなならぶ

水族館人、人、人だ魚もねすごいフラフラ気持ち分かる

うなぎつり竿先の鈴リンリンリン当たりがきたぞさあ引きあげろ

宿題の短歌をよもうとペンをもつ出番が多い私のケシゴム

たのしみだあきのおわりにあえるってママのおなかをけるあかちゃん

すなはまでねっころがるときもちいいつくったしろがながされていく

4年 岐阜 佐藤 絆平

5年 岐阜 長谷川 想乃

5年 岐阜 石井 想来

5年 岐阜 石動 友唯

5年 岐阜 伊藤 翼

5年 岐阜 大坪 美優 緩

5年 岐阜 中山 耕輔

5年 岐阜 植生 幸輝

5年 岐阜 早川 乃音

5年 岐阜 春田 尋斗

5年 岐阜 三島 美輝

5年 岐阜 山内 悠生

6年 岐阜 垣見 萌々那

6年 岐阜 金子 滉平

6年 岐阜 桑田 理史

6年 岐阜 鷺見 さくら

6年 岐阜 旗 文也

6年 岐阜 三島 陽菜

1年 静岡 横井 湊

2年 静岡 渥美 啓太郎

奈良のみちたくさん道くさ楽しいなひみこの古ふんでタイムスリップ

赤ちゃんは八さい下のいもうとだ小さいお手で小さいおしり

かぜきつてうまの背なかで見上げたよあおいのそらもつとちかくに

はりきるぞドッジボールでとるなげるよけるあてるぞ真けん勝負

夏休み合格目指した回泳はよゆうで笑顔の三十分間

ようふくのむねにリボンが五つあるわたしはあおいいろがだいすき

しろくまはわたしのしゃつでわらってるはなしかけるとうれしそうだよ

たのしみは年に一度のたん生日ろうそくふいて火が消える時

夏休みおじいちゃん家で食べ物を一分たらずで食べつくす

お出かけで車の窓から見えたのは太陽みたいなひまわりばたけ

たのしみは朝日差しこむ部屋の中目覚まし時計に勝利したとき

楽しみは体ほかほかおふろの魔法キンキンアイスで魔法とく時

たのしみはシャワー片手に迷わく一人お風呂で熱唱する時

お月見でおもち頬ばりのどにくるよい子はまねをしたらあかんで

本読めば眠気をさそう文字の数気づいてみれば文字がにじんでる

帯しめてところをつよくいさましく強い相手に勝利をつかむ

たのしみは出川イングリッシュ見てるときぼくの英語もめちゃうかな時

たのしみは学校終わりがんかんでねこが自分を待っていたとき

夏休み短く長い一日で宿題おわれおいつめられる

たのしみは留守番中に夢の中ねことわたしとじゃまされないうとき

2年 静岡 川嶋 咲奈

2年 静岡 原野 伊吹

3年 静岡 鈴木 悠日

3年 静岡 鈴木 伶旺

5年 静岡 鈴木 藍珠

1年 愛知 佐々木 萌乃

2年 愛知 今井 唯未佳

6年 滋賀 浅野 優介

6年 滋賀 荒谷 修平

6年 滋賀 上田 結菜

6年 滋賀 卯路 彩音

6年 滋賀 大村 千賀

6年 滋賀 茂見 百合子

6年 滋賀 土本 紗耶

6年 滋賀 橋本 華凜

6年 滋賀 廣瀬 慶

6年 滋賀 松下 大輝

6年 滋賀 松永 朋也

6年 滋賀 室井 葉月

6年 滋賀 森 菜々美

うるさいし窓を閉めたら別の事考えちゃってまた開けちゃったのしみは部屋で勉強していたらご飯できたよの声ひびく時

並木道いそいで走るぼくのあとおいかけてくるセミの合唱

「早よせい」と毎日何度言われてもぼくの行動いつも変わらず

お盆の日はじめて作ったおみそしるご先祖様の口に合うかな

夏の夜空に浮かぶ雲の重量感にげようとしてもにげ道はなし

ゆかたはね花火の日まで待っている夢の中ではリボンをつけて

始業式夏の思い出語りたいみんなの顔がすこいまっ黒

帰り道木々のすきまのセミたちが知らない歌を合唱してる

目をさます空はかがやいて見えるのに電車の窓はびしょびしょだ

かもがわにしかのおやこがてくてくとおもしろそうにさかなをみてる

苦労ばかりかけている自分いやなんだ弟妹までもまきこんだから

真っ暗な夜空の中に光る花バツと咲いてゆっくりちつてく

まどの下新大陸が待っているつばさ広げてかたむく飛行機

いねかりはくつがぬげて大変だあとのジューズめちゃうかわいいな

にげなきやとバツタ三びきぼくのむねいねをかったら大さわぎした

白い雲いろんな形色までも大きな空はまだ見あきない

お父さん仕事おわりにより道し帰れば母のせつきょうタイム

ユーチューブ動画をみてるぼくを見てお母さんまで動画にはまる

みんなから「たこやきみたいでおいしそう」ぼくの髪型バリカン仕上げ

6年	滋賀	森崎 翔大
6年	滋賀	和久田咲良
4年	京都	武村 柊十郎
4年	京都	酒井 綜佑
4年	京都	藤田 さら
6年	京都	石川 大雅
6年	京都	岡田みつる
6年	京都	小倉和香菜
6年	京都	黒木 真唯
6年	京都	芝 悠一郎
6年	京都	谷村 優心
6年	京都	橋場遼太郎
6年	京都	山田 正宗
3年	大阪	神長 龍飛
4年	大阪	松村 陽平
4年	大阪	吉田 維月
5年	大阪	小松 愛咲
6年	大阪	浅尾 希彩
6年	大阪	榎 勇貴
6年	大阪	川戸 鈴

恋をした二人でいると楽しいが友達だから言えない気持ち

かばんにはいつも入れている紙とペンいつでも夢が描けるように

くらやみでドキドキこわいめをつぶるきゅうとにぎるポップコーン

きのこぐもはじめて知ったせんそうのきょうふとかなしみへいわをちかう

大の字の昼寝の父の右上に蚊取り線香犬の字になる

海深く遊ぶイルカと見るために同じヒレつけ必死な私

えさをつけさおを入れるたびあじつれる家族でおいしくいただきました

平和のかねみんなそつと心こめおじぎしながらかねをつくぼく

今年もねおねがいごとはひみつだよ七夕のよるドキドキするね

おきなわのしずかな海で風がふきマンタがゆっくりおよいできたよ

袋かけた桃の実が色づいて甘い香りでぼくらをさそう

すいぞくかんだおるをふるといるかきためとめがあつたともだちになれたよ

かんらんしゃのるとくるくるこわいけどみえるけしきはすつごくきれい

白いくも青空一つもくもくと大じゃのくもだかつこいいなあ

すいかはねひいばあちゃんのはたけだようちょうで切ってガブガブたべる

夏休み毎日プール通ったよかいきんしょうとまつ黒なはまだ

琴北の全校でする運動会九人するのはこれが最後だ

ふうりんのきれいな音がこだまするずっと聞きたいやさしい音色

組体で中ごしになりできたかとなりを見たらまだ乗ってない

秋になる何をしようかなやむんだ気がつけばもう雪がふるころ

6年 大阪 徳田 晶

6年 大阪 野村 華奈

1年 兵庫 杉浦 由依

2年 兵庫 守安 結菜

3年 兵庫 岡本 凜

6年 兵庫 古山 綾友里

2年 奈良 岡田 克己

2年 奈良 高田 直輝

2年 奈良 豊川 結唯

2年 奈良 山本 和佳奈

5年 鳥取 前田 真輝

1年 岡山 沖津 真菜

1年 岡山 柴田 彩加

2年 岡山 櫛木 風雅

2年 岡山 羽場 千晃

3年 岡山 澁川 明佳

3年 岡山 白髪 芽依

4年 岡山 植野 沙穂子

4年 岡山 藤原 有来

4年 岡山 逸見 緋里

夏の初め空を見上げて大三角もう一度見るよかがやく光を

ばあちゃん家ピアノと勉強させられて一息つくときせみの合唱

夏休み久しぶりだね萌依奈ちゃんびっくりしたよ身長いっしょ

えんぴつを持つ手が止まる甲子園の試合の流れがとても気になる

山の日に人生初の山登り木を使いいざ投入堂へ

家帰る真っ赤なトマト切るよりも丸かじりしておいしさがます

友達とえいがかん見に行っただけだれもいなくてさけびほうだい

なつやすみあゆややまめをとったんだびくびくうごきおちそうだった

ゆうごはんたべたしおやきおいしいなきのうつかんだげんきなあゆが

ミニトマトみどりと黄色赤になり赤はおいしくほかはなりかけ

雨がふるぽつぽつとふってくる小さな音がすずしく聞こえる

学校におはようという学校も明るいこえでかえしてくれる

ひこうせんぼくものせてよのりたいよおねがいだからなかせてよ

おかあさんみんなのお世話大へんそうつかれたときはわたしのでばん

なつのよるまん月かがやくたからものとうとしてもとれないたから

耳ふさぐそらいつぱいにうちあがるきれいな花火くびいたすぎる

やまのぼりたかいところはこわいよねやまびこさんがはねかえってくる

海ぼたるきらきら光り夏の海夜になっても光りつつける

ひかる花つぼみができたらさきはじめさいこの花はいのちをつなぐ

グランドで遊んでた日にひらひらと黄色のものが空飛んでいく

5年	岡	山	岡崎	涼
5年	岡	山	加藤	康介
5年	岡	山	三好	結華
6年	岡	山	浅井	健佑
6年	岡	山	加藤	美羽
6年	岡	山	土屋	実由
6年	岡	山	三宅	颯稀
1年	広	島	平岡	悠吾
1年	広	島	渡邊	翔太
2年	広	島	小早川	義昊
2年	広	島	佐藤	信水
2年	広	島	佐藤	茉那
2年	広	島	廣岡	舞
2年	広	島	藤川	寛大
2年	広	島	源	海和
3年	広	島	山岡	史拓
3年	広	島	川口	栄進
3年	広	島	小林	天
4年	広	島	今田	瑠海

夏になり木の葉が緑になってきた風がそわそわ葉っぱをゆらす
 ふろの中むされた部屋で歌いますあふれる声はオペラか手かも
 神社でねにじ色トカゲこんにちはすぐに草にすいこまれてく
 歩いて走ってもまだひまわりの野原にポッシンわたしはまいご
 学校の茶どうのけいこで外を見る木の葉が落ちてまた花がさく
 ぺろぺろと風にまぎれてアイスたべすずしいソーダは風の味だよ
 かき氷口に入れたらこごえるぞ足をかかえて食べてみよう
 遠くから私を呼んでる友の声すぐいくからと真っ赤なかおで
 真夏の日カレー作りで火の前にしゃがんでいたらなみだが出て来た
 見上げればたくさん光集まるよ私の目の中なつの日ざしが
 ひび割れるコップの水をながめると南極の水も割れていた
 つかれても休みもらえぬせん風機あせも流さずクルクルまわる
 台風がドアをたたいてよんでいるみんな無視してテレビ見ている
 ドキドキが聞こえる位きんちようし「お伊勢まいり」を先生とおどる
 夏の夜カーテンにつく虫たちに気をとられつつプリントを見る
 おいしいなわたしがつくったかるびすをおじいちゃんごくごくのんでくれたよ
 たてにのびふたつのみちにわかれます。おおきくなあれぼくのあさがお
 夏休みみんなで楽しく遊んだらだれか一人がわすれ物した
 走り出す夜道の歩道つまずいてころんで気付く一輪の花
 つめたいな岩からとびこむ川遊び底までしずむとコイを見つけた

4年	広島	岩倉	伊吹
4年	広島	北田	碧
4年	広島	坂口	碧
4年	広島	佐藤	結子
4年	広島	瀬尾ベンジャミン	豊
4年	広島	関本	壮汰
4年	広島	高畠	慎
5年	広島	奥村紗也加	
5年	広島	小森山朝飛	
5年	広島	中尾仁智夏	
6年	広島	藤井	克輝
6年	高知	岡本	風香
6年	高知	矢野安祐俐	
6年	福岡	大橋	凜音
6年	福岡	寺崎	陽登
1年	佐賀	関	紗亜弥
1年	佐賀	山口丈太郎	
6年	佐賀	池田	優聖
6年	大分	山下	姫希
6年	大分	小田原大翔	

石コロをカバンに入れる小さい子ほくも昔は持つて帰ったな

みかんの実日ざしがしみこみだんだんと服そうかわるよ私も変えよう

白い風小さな冷たさ乗せてゆくその行く手には春待っている

お地藏さんおそなえ物を見えますかあなたののおかげよ元気であるの

木のジュースペロペロなめるそこの君ほくもいっしょになめてもいいかい

あの雲は飛行機残した努力の跡ほくも足あと残したいんだ

くだものがいっぱいのったばふえたべたおかあさんにもたべさせたいな

家づくりようあつきたいさくよびかける今日はわたしが水分かかりちよう

空いっぱいアイスにみえるきらきらとみどりとピンクの大きな花火

きょうりゅうのかせきはかたくつよそうだいまにもがたがたうごきそうだな

6年 大分 川野 凌空

6年 大分 黒枝 蕾

6年 大分 篠田 怜央

6年 大分 曾根崎 歩花

6年 大分 新名 桜晟

6年 大分 吉水 琢真

1年 宮崎 海野 輝陽

2年 宮崎 柏田 佳波

2年 宮崎 佐藤 光桜

2年 宮崎 三浦 侑莉

短歌

中学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

よく見ているものから



大松 達知

短歌は「ふだんからよく見ているもの」を素材にするのが良い作品、つまりシンプルながら深い作品になることが多いようです。あるときは見過ごし、あるときは気になる、そしてその大切な部分が見えそうなものは身近にありませんか？

そう。その代表は〈自分〉です。離れたくても離れない、見たくなくても見てしまう〈自分〉こそが、一番いい素材なのです。

・性別のどちらかにマルつけるとき男と女なぜか迷う

藤巻悠太郎

・友人にもらった定規なくした日はかる心の距離十四歳

田代陽平

・わたしはねもやしが好きでたまらないたべるとなぜかとまらなくなる

石澤歩美

「秀作」に選んだ中にもとびきり好きな歌がたくさんありました。藤巻さんは、性別を超えた「人」としての自分の存在を見てしまったようです。田代さんは、寂しさとも悲しさとも後ろめたさとも残念さとも、なんとも言えない気持ちを描いています。言葉でうまく言えないからこそ、短歌でその状況を切り取って、読者に提示するわけです。石澤さんは、一首全体をとらえどころないモヤシのようにして、ストレートに述べているのがいいですね。何かへの愛を強く言うのは素敵なことですよね。

一方、良い歌になりにくい素材の代表は〈旅行〉です。日常を離れた高揚した気持ちはあるでしょう。でも、よく見ていないものですから、表面的になりがちです。そして、〈夏休み〉も同様に特別な時間ですから。素材としては実はハードルが高いのです。生徒のみなさんも指導される先生方も、〈夏休み〉にとらわれずに、ふだんから見ている周囲の事物や自分自身をテーマのひとつにぜひとも加えていただきたいです。そうすればきっと、深い作品が生まれるはずですよ。



大松 達知

おおまつ たつはる

昭和四十五年東京都生れ。

「コスモス」選者・編集委員。

「COCOON」発行人。

特選

大松達知 選



電卓はあつというまに答え出すどうして僕は答えが出ない

長野県 塩尻市立塩尻中学校 1年 平澤 拓実

あつさりとユーモラスに詠まれているけれど、鋭い哲学的視点がある。いくら機械が進化し手軽になったところで、人間は人間。悩み、苦しみ、ゆつくりと成長するのみ。人間存在の根本に触れると言うと大きすぎるかもしれないが、かなり近い考察だ

サイダーのあわをじつとながめれば差し込んできた光と出会える

東京都 国立市立国立第一中学校 2年 阿部 真結

光源である太陽の方には顔を向けない。代わりにサイダーの中の揺れ動く泡に反射する光を眺める。そして光と通じ合う。二句目の字足らずを含めて、繊細な十代の心を描写しているように感じた。

公園でシュートを決めたその音がずいぶん昔のことに感じた

鹿児島県 湧水町立栗野中学校 2年 田代 宗伸

高速で成長してゆく中学生。バスケットボールだろうか。一瞬前のことでさえ、ふと遠い昔のことに思えるときがあるのだろう。自分から離れていく自分。置き去りにされる過去の自分。そのあたりの感覚を的確に捉えているようだ。

裏道で夜中の影と帰る時あいつはだれでわたしもだれか

東京都 海城中学校 3年 高島 有希

暗くて寂しい夜道。いくつもの街灯に照らされて伸び縮みする自分の影。それが心の揺れのように見えたのか。ふとその影が別人格のように思え、ひるがえって自分が何者なのかわからなくなる。十代のアイデンティティーの確認をよくとらえた秀作。

目覚しを止めるゆめ見るゆめ見たことを娘に報告するゆめを見た

東京都 八王子市立第四中学校 3年 川村 周

言葉遊びも絡めながら、不可思議な世界を作る。後半に「娘」が登場するのは、親子や性別の入れ替わりや輪廻転生までも無意識のうちに察知したからだろうか。こういう奇想の歌は意図して作れるものではない。とても貴重だ。

ボールペンの先に付いてる樹脂玉が今日はなんだかうまく取れない

長野県 塩尻市立広陵中学校 3年 藤森 寛生

人はどうでもいいことに強く囚われてしまうことがある。新品のボールペンの先を保護している小さな玉がきれいに剥がれなかった。そのシーンをわざわざ言うことで生きている作者の存在を確かめているのだ。短歌の根本はそんな生きていることの証明にある。

せみの鳴く大和の寺でただ一人ここに今ない都市の騒音

愛知県 長久手市立北中学校 3年 増田 幹大

奈良の夏。蟬は精一杯に鳴いていたはずだ。たったひとつの音が占める世界。ひとり佇むと自分が異空間にいるような気持ちになったのだろう。そして雑多なノイズに囲まれる都市生活との対比を思ったにちがいない。

鏡見て自分を見つめる十五歳心と語る朝の数秒

愛媛県 大洲市立新谷中学校 3年 大盛 結人

十代のころは自意識が強い傾向にあるだろう。髪型や体型が気になり、もちろん自分の顔や体に対してコンプレックスを持つのはふつうのことだ。しかし作者は数秒だけでも自分の顔を凝視して自分と語る。その強さが力強い文体に宿っている。

秀作

大松達知 選



父さんの教えてくれた中学の校歌全然音程違う

千葉県 市川市立第七中学校 1年 河村のどか

珍しく君が笑顔になったからこの落書きはもう消せないよ

宮崎県 日向学院中学校 1年 時任 正樹

家で作るトマトが一つ売れたとき育ててないのにちよつとうれしい

福島県 白河市立五箇中学校 2年 鈴木 里歩

山奥に忍び寄る影イノシシの姿見たさに身を潜めつつ

茨城県 江戸川学園取手中学校 2年 中道 清太

音ゲー中誰もあたしを動かせないワタシはS極スマホはN極

千葉県 専修大学松戸中学校 2年 財前日穂子

親戚が集まる夜の手料理は練習重ねた父のラザニア

千葉県 専修大学松戸中学校 2年 野村 有吾

屋上の夜風に当たり観た花火動画のようになり返される

東京都 江東区立深川第五中学校 2年 木野 茜

文鳥と一緒に遊ぶ弟がくしゃみをする文鳥はばたく

東京都 江戸川区立瑞江第三中学校 2年 細井 托人

夏になりふと思い出すじいちゃんの伊豆の子になるかという言葉

東京都 江東区立深川第五中学校 2年 北村 玲乃

わたしはねもやしが好きでたまらないたべるとなぜかとまらなくなる

神奈川県 平塚市立山城中学校 2年 石澤 歩美

にらめっこ負けてしまったコブダイと友とウツボがそっくりだった

神奈川県 横浜市立豊田中学校 2年 田中 慧伊

ウミニイキシゼントフレテハナビミタイキモカエリモアシオトヒトリ

神奈川県 平塚市立山城中学校 2年 勝俣 馴平

俺の愚痴あれやこれやを聞く母がふと空を指す遠くの花火

富山県 高岡市立国吉中学校 2年 中島 幸太

性別のどちらかにマルつけるとき男と女なぜか迷う

山梨県 駿台甲府中学校 2年 藤巻悠太郎

暑い日に文句も言わずキリッと立つ信号みたいに僕はなれない

愛知県 名古屋市立鳴海中学校 2年 水野 晴仁

スズムシと錆のにおいの遊園地静かに眠るパンダの車

愛知県 長久手市立北中学校 2年 角田 天音

なつやすみてんてんつけてなつやすみまるはつけても変わらなかった

愛知県 名古屋市立鳴海中学校 2年 吉原 幸汰

人の手で植えても枯れるそれなのに知らぬ間に咲くマリーゴールド

広島県 福山市立福山中学校 2年 中根 菜美

ニュース見て全国各地の猛暑日が映ったときの子どもの笑顔

広島県 安芸高田市立向原中学校 2年 石見 正道

真夜中に道頓堀を歩いたら人であふれて真昼のようだ

広島県 呉市立郷原中学校 2年 藤島 悠華

おはようと心でさけぶ私にはかわいい顔も素直さもない

愛媛県 砥部町立砥部中学校 2年 廣瀬 一花

夏の空遠くのほうに梅雨の雲もうすぐ母が機嫌悪くなる

福岡県 筑紫野市立筑紫野南中学校 2年 落合真夕佳

テスト中鉛筆の音響いてるあせるけれどもこの時間好き

鹿児島県 鹿児島市立坂元中学校 2年 新福 梨乃

友人にもらった定規なくした日はかる心の距離十四歳

東京都 海城中学校 3年 田代 陽平

アフリカの木彫りのキリンすらりとしつや消しの目をしてゐたるかな

東京都 海城中学校 3年 東口 怜弘

私の手何かにひかれてついていく橋を渡るとそこは秋だった

東京都 海城中学校 3年 後藤 智怜

日焼け止め使いきらずに夏終わりまた来年もそのくりかえし

東京都 富士見丘中学校 3年 石塚美海鈴

スズムシやハンダのにおいかながら深夜一人で配線つなぐ

東京都 海城中学校 3年 小杉 恵周

水鳥の群れを映したコーヒーにシュガーとミルクを混ぜて飲み干す

東京都 海城中学校 3年 阿部 叶夢

風ふけば波立ち香る夏の空ブータン王のあくびの匂い

東京都 海城中学校 3年 岸本 力哉

旭岳先へと急ぐ登山道私を止めるチングルマたち

すいか畑横から見れば深い森虫になってすいかを探す

カタツムリアジサイの下雨宿りこのまま一晚ここで泊り

たくさんの昨日を過ぎ誰を待つ戦ぐ風にはなつかしい匂い

書初めで大きな夢を語っても年ごと年ごと忘れてしまう

なつのよるねこにはさまねむるひびねこのぬくもりあついかんじない

「ヨソロー」田んぼの海原自転車でかけぬける我は夏のかいぞく

早く起き缶を拾った土曜日の朝の日ざしに照らされる自分

ブンブンと電球のまわり舞っているカメモシ軍団今日も眠れず

そらの下輝き放つ大仏様美しく見え微笑み返す

夏の昼窓からのぞく積乱雲課題の檻に閉じ込められる

星月夜海辺で光る夜光虫上にも下にも広がる光

幼い日海は青いと教わって僕は空指し「うみ」だと言った

打たれたら打ち返すだけのこの競技でもシャトルにはそれぞれの思い

冬の雪ちらちらとふるまるで星きらきらとしてみとれてしまう

白サギが田んぼの上空飛び回り着地の姿神秘なるかな

背後から感じる視線振り向けばかまってほしいと見つめる愛犬

あなたとの共通点を探すけど一つもないから逆にひかれる

緊張の感覚はしる八秒間気持ちこめた強気のサーブ

弟が修学旅行で留守にして気づいた一人欠けるとさみしい

1年	北海道	瀧川	芽生
1年	北海道	藤井久瑠実	
2年	北海道	田中	美妃
2年	北海道	中川	久遠
2年	北海道	山崎	勇氣
3年	北海道	山口	樹生
2年	青森	小野	美南
2年	青森	須藤	彩羽
2年	青森	見崎	楓汰
2年	青森	柳	萌花
2年	岩手	菊池	将矢
3年	岩手	花沢	千那
3年	岩手	吹切	啓祐
2年	宮城	佐藤	羽衣
2年	宮城	菅原	結依
2年	宮城	千葉愛結実	
2年	宮城	三浦穂奈美	
2年	山形	小関	梨央
2年	山形	佐野	寛亮
2年	山形	中條陽心香	

部屋の中勉強中にセミ入るおどろきすぎてゆかに倒れる

ごみ箱に投げたティッシュが入らずに夏の想いとともに残って

「じいちゃん」と知っているのにつぶやいてもう会えないの会いたいんだよ

君の声胸が高なるこの瞬間シュワツと弾けるソーダのように

ゴロゴロと入道雲が鳴る夕に逃げるは子供よろこぶは花

交差点何億という人々と過ぎ去ってゆくひと夏の夢

雨戸うつ青いしずくの向こうにはなみだの色のあじさいが咲く

朝起きて犬はよろこび母怒こるさあにぎやかな今日がはじまる

夏の日の夕暮れ時の町は皆黄金の服に装飾をする

春が来た少しすっぱい味がしたレモンのような君の横顔

見上げればかぎりなくあおいそらが在るどこまで行けばたどりつくかな

太陽を追いかけて続ける向日葵を私はずっと眺めていたい

飛びたった入道雲に飛びたった鋼の城に鋼の鳥が

もうすぐでさんまの季節がやってくるさんまおはよう食べてしまうよ

黒と銀輝いているクラリネットどんなときでもこの子と一緒に

モノクロの世界に生きるこの僕にあなたは色を教えてくれた

プールでは上と下とで温度差有り部活でいうなら僕と先生

舞台袖暗がりの中出番まつ音が無くなり舞台へ歩く

みそしるのネギのわっかの連なりになかなか切れぬ愛を感じて

隣の子勉強しない大丈夫か最近掃除頑張っている

2年 福島 伊藤 瞭佑

2年 福島 今川ひなた

2年 福島 鈴木花恵良

3年 福島 浅尾和歌南

3年 福島 千葉 瑞輝

2年 茨城 篠崎 彩果

2年 茨城 高安 玲奈

2年 茨城 田口 優里

2年 茨城 中村 駿佑

2年 茨城 野崎 武尊

2年 茨城 松久保 然

1年 群馬 青木 優奈

2年 群馬 飯塚 健太

1年 埼玉 加藤 来夏

2年 埼玉 上條 蒼夏

2年 埼玉 武井 晴

2年 埼玉 安井 彰吾

2年 埼玉 吉永 滢央

2年 千葉 小川 蘭

2年 千葉 片山 愛美

ねむい朝ただよう私は夢の中いつ起きるのかわからぬままで
先輩と東京タワーへロング走青空の下汗が滴る

梅雨の色かえるの緑葉の緑緑の中で深く息すう

母親がスーパで買った洋なしが僕に思わせる夏は終わりだと

忘れまい最後の夏の景色ファーストベースでひざをつく君

お祭りでゆかた姿の彼見つけでもその横にピンクのゆかた

移動中車の窓の向こうには真夏日示す赤文字光る

石を蹴る学校帰りの小学生道外す彼とつまずく自分

八年前姉を襲ったあの津波姉を探しにあの海目指す

太陽がガンガンに照る校庭で強くなるためかけずりまわる

静かなる瀬戸内の海さわやかに潮風ふいて無になる心

雨上がり空見上げれば一筋の虹という名の光こぼれる

夏休み暇で学校が恋しいなあつたら辛いと分かてるのに

仕事するそう言った母の部屋からは家族支えるいびきが聞こえる

パラパラと雨が鳴る音本進む時計も進む自分の世界

アジサイを横目に見ながらただ走りひたすら走り鎌倉の街

五月雨に打たれて歩く帰り道泳いでいないこいのぼり見る

盆栽の水やりをして思い出す優しい祖父の日焼けした顔

消しゴムをわざと落として拾わせる恋の予感を自作する者

東京に持って帰ろう雪玉を丸めるあなたを写真におさめる

2年	千葉	長谷川乃愛
1年	東京	林 佑衣
1年	東京	原田 千寛
1年	東京	平林 遼太
2年	東京	藍郷浩史郎
2年	東京	石井正太郎
2年	東京	梅原 堇
2年	東京	神作 優志
2年	東京	黒田 奈那
2年	東京	鈴木 央資
2年	東京	長島 香澄
2年	東京	仲嶺ほのか
2年	東京	生田目昊和
2年	東京	半田 美咲
2年	東京	松本 華奈
2年	東京	三宅 真央
2年	東京	村田 響
2年	東京	渡邊 智
3年	東京	穂田進太郎
3年	東京	井上 瑛資

顔をかく猫のしぐさは夕立を知らせてくれる天気予報だ

一年前植えたキャベツを食べているシャキシヤキシヤキと地球の息吹

命日の墓前に涙ひからびて塩の加減が祖母のから揚げ

弓引いて的に3本矢が中たりザクツと塀に外れる1本

ばあちゃんになつたら一人山に住みトマト育ててのんびり暮らす

街灯の床を滑りし一号車見知らぬ駅へ七人降り立つ

思い出が輝いている地平線私はどこに向かうのだろう

とれそうでとれないビー玉とりたくて透ける思い出サイダーのなか

青空の手前を見ると葉はひらり絵画の中で移る季節か

今はもう素手では取れぬアブラゼミ腕をすり抜け青空へ飛ぶ

何事も考えすぎない君だから私に私を教えてくれる

練習で奏でるザイツコンチェルト提琴おさえる指また違う

鹿さんはえさをあげればおそわないと聞いていたがおそわれかけた

憂鬱で気怠いだけの夏休みどうせ明日も寝たくなるだけ

何しても上手くいかないこの僕は先の時代の敗北者じゃけえ

梅雨の夜水路の中に黒い影光当てるとなますが逃げる

無糖なら香りで充分飲めません大人になれず今年もカフェオレ

思いきり走ったあとに風吹いてやっぱり夏が好きだと思う

夏祭り夜空に浮かぶ乳茸刺街にただよう火薬の香り

決め技が一本出れば帰り道重い防具も風船のよう

3年 東京 内田 彩瑛

3年 東京 江口 直希

3年 東京 笠原 健礼

3年 東京 金川 眞士

3年 東京 川上 史乃

3年 東京 小谷 新太

3年 東京 小林 紅彩

3年 東京 斎藤 花凜

3年 東京 高野 耕陽

3年 東京 西村 友樹

3年 東京 長谷川 絢南

3年 東京 三木 彩音

3年 東京 村越 千夏

3年 東京 元吉 拳児

3年 東京 安井 凜太郎

3年 東京 横溝 健

1年 神奈川 越中 香帆

1年 神奈川 江原 正博

1年 神奈川 木津 七海

1年 神奈川 永野 雛子

ちようちよがねヒラヒラ舞ってきれいだよ近くで飛ぶと怖くなるよね

水族館暗い水そうで泳いでる魚たちより浮いていく泡

ガラス越しにとっしんしてくるその姿改めて思うゴリラの怖さ

夏は陰冬は陽だまり寝ころんで猫の近くは過しやすき場

放課後の真っ赤な夕日は大好きなあのこに募る思いと同じ

この道もあのラインまで俺のものツバメ追い抜き風も追い抜き

シャーペン握ったのに机に真っすぐ向かったのに宇宙と交信してしまう

農道の一本道でのあの香りこれは青田の肥料の香り

破砕機が唸りを上げて突き崩すコンクリートに白き粉塵

運休を告げて停止のローカル線復旧の声のんびりと待つ

いつも来る雪に文句を言いつつも「ついに降ったな」と少し喜ぶ

夏休み向日葵とした背比べ小さく感じた二学期のいす

風鈴の揺れる窓辺でソーダ水飲みほした今雨上がりの空

ワイキキの綺麗なビーチを前にしてまだやめられずスマホとゲーム

キンキンに冷えた部屋から外出るとメガネの私は前が見えない

暑いからさっさとプールへ飛びこんだとろけたりんかく戻ってくようだ

ボロボロになった楽譜を胸に抱き仲間と共にいざステージへ

最後までボールを受けた左手に感触残る記憶と共に

新しいノートを使う新学期一ページ目ははいねいにかく

どこまでもつながる海を見ていると私のなやみは小さな貝がら

2年	神奈川	岡本 一輝
2年	神奈川	菊川勢吹生
2年	神奈川	田代 瑠音
2年	神奈川	松本 将直
2年	新潟	村山 奏馬
3年	新潟	島倉 大門
3年	新潟	鈴木 晴
3年	新潟	町澤 美月
2年	富山	今井 英介
2年	富山	内澤 愛美
2年	富山	平田 圭吾
2年	富山	松村あおい
2年	山梨	石原 瑛紗
2年	山梨	三枝佑史郎
1年	岐阜	金子 彩乃
2年	岐阜	赤塚 朔
3年	岐阜	白田 真菜
3年	岐阜	本多駿之介
2年	静岡	和泉 綾子
2年	静岡	伊奈 瑞姫

ぼくの犬家の番犬たのもししいしかもかわいいので二刀流

やせながら寒さにたえるつるし柿ゆらゆらゆれる私と柿と

自転車をかぎ続けても終わらない雨で見えない田んぼの出口

いつ見てもねているだけでつまらないそろそろ起きろそのモモンガ

コロコロと大きいかばんころがしてそうさ私は家出少女さ

花束を君にあげると思っても君の花びんは赤の花束

花がさく黒い舞台に散ってみる人々は僕をきれいと思うか

夏の空入道雲がでかいのはみんなの思いがつまってるから

目の中に星を秘めてる子供たちそれを見守るきれいな大人

久々にあった従兄弟は大人びて私が知ってる従兄弟はいない

牧場でひたすら走る僕の目に映る牛たちお昼寝タイム

スリルあり荒波越えるラフティング輝く水面輝く笑顔

水練会修行のような五日間終わってみればじりつの一歩

夏祭り隣に立ったいもうとの今年の姿ゆかたみじかし

いつもならきらいな君も宿題を手伝うのなら大事な同志

水禪と輝く汗をまとい入る仲間と共に二見の海へ

千年の時巻き戻し国分の地小さな石碑大きな歴史

汗かいてなにかのみたい猛暑日になぜかコップも汗をかいてる

空港の午前と午後の風景はまるでちがった地域のようにだ

夏休み宿題残るルイシャルル下呂の合宿台詞入らず

2年 静岡 大住 斗真

2年 静岡 向後里 沙子

2年 静岡 清水 大雅

2年 静岡 鈴木 一花

2年 静岡 鈴木 優美菜

2年 静岡 高橋 一暉

2年 静岡 高橋 ひなた

2年 静岡 藤江 倖大

2年 静岡 村松 真穂 呂

3年 静岡 堀池 萌華

1年 愛知 安藤 碩将

1年 愛知 池部 貴将

1年 愛知 石田 優悟

1年 愛知 市川 一嗣

1年 愛知 植田 曹介

1年 愛知 内田 優仁

1年 愛知 金光 峻希

1年 愛知 壁谷 慶真

1年 愛知 酒井 正裕

1年 愛知 田中 碧

奥穂高つかれをいやす硫黄の香飛驒牛、岩魚おれの血となれ

水と木と苔が織り成す奥入瀬の葉揺らす風に疲れ吹き飛ぶ

喜びで指が震えた魚釣り手から抜け出す魚の可憐さ

セリフ書き固定電話の前正座友よでくれ手に汗握る

旅のなか本の世界にのめりこみ夢が覚めるとそこは東京

つぎつぎとながれるけしきながめてはガタガタゴトンきもちおだやか

弱い腕射れば射る程強くなる的の真ん中まだまだ遠い

雨だとは知らなかったよ日は暮れて肌に吸いつくぬれたスカート

飛べや飛べ大海原のトビウオの背中に我れの夢を乗っけて

別れ道互いの背中とはなれてくなくなつてまた振り返る

隣人がくれた一つのさくらんぼ僕はそおと笑つてみたり

夏休みさみしそうな制服が早く着てよと僕を呼んでいる

草原で横切る蝶に見とれつつたもふりまわす幸せのとき

参道のうなぎ屋の前通り過ぎ指折り数え土用の丑待つ

沿岸の船のライトに照らされて光り輝く夜の白波

教室の窓から見える中庭に使い古された文房具たち

くだらない茂吉は本当にくだらないしろももごときでどうかしている

全員の音がかさなる瞬間に音楽はじけ大衆とりこ

あの大きな雲はどこまで進むのか姿をかえてまた出会いたい

朝早く大の字ねころぶ武道場息吸い込めば広がる汗臭

1年	愛知	長尾	一嘉
1年	愛知	平澤	邦太
1年	愛知	牧野	紘貴
1年	愛知	松井宏志郎	
1年	愛知	丸山	和馬
1年	愛知	水戸	舞香
1年	愛知	横井	大聖
2年	愛知	稲垣	光
2年	愛知	内山	颯人
2年	愛知	鹿沼	清乃
2年	愛知	川村麟太郎	
2年	愛知	岸	桜介
2年	愛知	小林	大記
2年	愛知	坂上	翔太
2年	愛知	澤飯	雅史
2年	愛知	鈴木	佑太
2年	愛知	仙波	惣太
2年	愛知	高橋	里帆
2年	愛知	辻井ひなた	
2年	愛知	早川	葉歌

新しいメガネを買った次の朝貧血になつてすぐに倒れる

一面の頭上に垂れる藤の花優しさにじみほのかに香れ

ジャンガリアンロシアンブルーの混血児うちのワトソン腹見せて寝る

とりどりの傘にはじかれ飛ぶ雨の湿った香り私をおおう

家を出て意味もないのに街歩く誰かに会える期待しながら

砂浜で死んでしまった白い蟹弟そっと土に戻した

墓参り聞くことのない祖父の声手をあわせながら貴方と笑う

夏休み去年は姉を見上げてた今年は見下ろすヒール履く姉

風吹けばちりんちりんと大騒ぎこれは証明僕は風鈴

新しいバッシュを持って練習へ仲間に足を踏まれ続ける

揺れる髪プールのあとはお団子にいつもと違う姿美し

網戸からこつちを見てるせみのから命が一つ生まれたんだな

母さんとケンカしドアに穴あいた俺の心も穴あいた夜

よれよれの単語帳から目を離しがぶりとあおる H_2O

涼しげな風鈴の音が上空へとけこみながら静かに消える

愛犬は自分が犬だとわかってない座り方とか人間みたい

草むしり残しておくか引き抜くか神でもないのに命を選ぶ

二時間目おなががすいた死にそうだこんな様子でもつのだろうか

指紋なきひとさしゆびで弦にぎる響けマンドラ今日の本番

セミを見て捕まえたいとは思わない何かが変わった中二の夏

2年 愛知 日村 孔明

2年 愛知 前島 琴莉

2年 愛知 榊野 洋子

2年 愛知 三宅 健太

2年 愛知 室田 理貴

2年 愛知 山口 航佑

2年 愛知 山田 結胡

2年 愛知 渡辺 快人

3年 愛知 磯村 夏菜

3年 愛知 川合みひろ

3年 愛知 十川 遙花

3年 愛知 高野 孝太

3年 愛知 原田 政宗

3年 愛知 廣澤麻佑子

3年 愛知 山口ひかり

2年 三重 佐伯 李夢

3年 滋賀 安井 風花

1年 大阪府 吉次 悠人

2年 兵庫 井上 歩実

2年 兵庫 角元 寛幸

向日葵がこうべを垂れて影作る心苦しい子供のよう
 そうめんをつゆしかつけない弟とつゆのアレンジ楽しむ私
 大空の真下に浮かぶうきわたちいつも綺麗な海見てるだろ
 ブランコでくつと飛ばした悩みごと大丈夫って笑いとばした
 ボールを探す僕の手を血に染まらせる自然に生える緑のナイフ
 木の板の壁に刺さったガラス跡今もとれない深い傷あと
 広島でおりづるおって落としたらくるりとまわっていた
 青い海話しかけるとザーザーといつでも味方家族のように
 あの日から七十四年骨だけで寒くないのか原爆ドーム
 布野川を水かき泳ぐ鴨の子はいとこの落とす菓子に群がる
 もうだめだ日本の夏に殺される帰れば部屋は冬のモスクワ
 くねくねとはいつくばって生きているここはどこだよ住宅街地
 コンビニのおでんの容器がすっからかん冬までまてない今この気持ち
 ふと見ればさみし気だったあの山も緑あたたかく命を守る
 夕暮れの空をまう鳥早かった黒かったからたぶんカラスだ
 家族との旅行先でも寝る前に思い出すのは君との会話
 夏野菜水やりをする子供達帽子かぶれとばあちゃんの声
 図書室で彼を見つけてふと思う彼がえらんだ本になりたい
 田んぼより夕暮れ聴こえる大合唱を君に届けるスマートホンで
 朝練にこないとなぜか気にかかるあの転校生不思議な存在

2年	兵庫	勝田	愛美
2年	兵庫	藤原	綾子
2年	奈良	高	優那
2年	鳥取	住友	美雨
2年	島根	古川	優雅
2年	岡山	岸	千尋
2年	岡山	小島	琴葉
2年	岡山	半田	咲来
2年	岡山	吉田	悠汰
1年	広島	滝野口	優羽
2年	広島	旭	遼人
2年	広島	伊原	未空
2年	広島	金川	瑛空
2年	広島	京極	怜子
2年	広島	下谷	直輝
2年	広島	檜垣	優桜葉
2年	広島	森	滯奈
2年	広島	山田	心
2年	広島	吉迫	希美
2年	山口	石田	尚己

スイカわり思いきりわるそのように苦しい恋もわれたらいいのに
白桃はびっくりするほどおいしいが服に落とせば色が落ちない

「関係ない」母との距離が遠くなるまた言っている真逆の言葉

布団の上毛づくろいする猫がいて鈴の音色がその度に鳴る

寝ころんでながめた青のビー玉は夏のしずくを閉じこめた色

そうじ中つくしを見つけてほえんだ一本だけで春を感じる

思い出があなたと出会って増えていき私のフォルダーいっぱいだ

筍の小さな頭弟とかくれんぼするときに似ている

神南山夕立終わり下る道へび苺まだ光りつつあり

ゆっくりとまわり続ける観覧車いつになったらのりにいくのか

くしゃみするいつもみんながふりかえる僕はちよつと恥ずかしいです

土けむりたてると白いくつ下が茶色に染まる夏のコートで

ハムスターエサをやらずに手をだすと穴からおこり妹にっている

花火見て炎色反応おもいだし忘れた所ネットで調べる

暗がりの中で求める一寸の光はすでにとぎれつつある

「ながれぼし」叫んだ君が愛おしい私にとって君が流星

ひまわりが太陽無視して下を向きそれ見て私もうつつむき進む

水の中ゆうゆうと泳ぐ金魚たちよく見っていると寂しげな顔

潮風にふかれてゆれる風鈴よ海の香りに祖父母を想う

空色が茜の瞳に映るたびそれを眺めて時を忘れる

2年 山口 伊藤虎太郎

2年 山口 倉増 寛太

2年 山口 土肥 凜音

2年 山口 松前 実咲

2年 山口 村重 匠泰

2年 愛媛 後藤 芽生

2年 愛媛 新谷 奈々

2年 愛媛 成岡 采音

2年 愛媛 宮岡 優斗

2年 福岡 池田 愛

2年 福岡 清水 元貴

2年 福岡 永光 雛希

2年 福岡 原野 風人

2年 福岡 牧野 晟矢

2年 福岡 三田村海聡

3年 福岡 長崎 功弥

1年 鹿児島 稲留 来羽

1年 鹿児島 寺園穂乃佳

1年 鹿児島 丸野 誉希

2年 鹿児島 日笠山花梨

おいしいのたずねる顔を見ていると答えることがはずかしくなる

夏の朝眠い目こすり体操する首から下げたカードも躍る

暗やみの中から出て来る太陽がいつでもぼくの目覚まし時計

日本にて大きく見える北海道世界で見ると小さいね

このぼくが生まれてきて十五年十五年ってまだ短いな

夏休み塾で弁当食べる日々皆で食べるととてもおいしい

朝早くラジオ体操超ねむい行かなきゃいけない印かん係

夕暮れに照らされ伸びる黒いもの前向く君には見えているかな

ペダルこぎ足の痛みに耐え着いた春の風吹く奥武島の海

2年 鹿児島 松本 匡生

2年 鹿児島 道添 叶望

2年 鹿児島 山元 鉄也

2年 鹿児島 脇 七美

3年 鹿児島 中野 暖

3年 鹿児島 中原 実優

3年 鹿児島 濱田 莉帆

3年 鹿児島 山下 実紀

2年 沖縄 田原 泰斗

第21回NHK全国俳句大会

ジュニアの部

もくじ

ジュニア大賞	48
学校大賞・学校優秀賞・特別賞	49
●幼児・小学生の部	51
選者のことば 阪西 敦子	53
特選・秀作	54
入選	58
●中学生の部	75
選者のことば 堀本 裕樹	77
特選・秀作	78
入選	82

ジュニア大賞

◆◆◆ 幼児・小学生の部 ◆◆◆

ひいじいのはかでうまれたせみがとぶ

滋賀県草津市立老上小学校 1年

清水 奏多

梅干しを食べると口が開かないよ

神奈川県寒川神社少年館 4年

根本 直輝

もぐってはプールの私は水になる

千葉県船橋市立法典東小学校 6年

押谷 優瞳

ジュニア大賞

◆◆◆ 中学生の部 ◆◆◆

夏祭りあふれる人と動かぬ木

東京都海城中学校

2年 住谷 拓明

偏差値よ線香花火の火の玉よ

埼玉県北本市立東中学校

3年 山田 広基

光よりダダダと落ちる男 滝かな

東京都海城中学校

3年 村上 蒼梧

学校大賞

埼玉県

加須市立高柳小学校

広島県

福山暁の星女子中学校

特別賞

愛媛県

鬼北町立泉小学校

山口県

山口県立高森みどり中学校

学校優秀賞

東京都

品川区立京陽小学校

鹿児島県

南九州市立九玉小学校

埼玉県

北本市立北本中学校

大阪府

東大阪市立石切中学校

・ジュニア大賞は学年順の掲載です。

俳句

幼児・小学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

選者のことば

俳句が伝える

◆◆◆◆◆
阪西 敦子

みなさんはどんな時に俳句を作りますか。

「宿題が出ているとき」、それはそうでしょう。わたしも「句会」という集まりに提出するために、いついつまでに何句と決めて作ることがあります。「授業で俳句を作るとき」、そういうときもありますね。わたしも「吟行」といって、みんなで同じ場所で俳句を作ることがあります。では、そんな中で、どんなことが俳句になりましたか。

心に残ること、はっとさせられることはもちろんですが、それほどでもないけれど、何か気になったこと、ちょっと覚えておきたいこと、きっかけはさまざまですが、何か自分にとって大切に思われたことが句になってゆくのではないのでしょうか。

今回もたくさんの方が寄せられました。その数だけの、俳句のきっかけがあったからです。それぞれの小さなきっかけは、俳句になって作った人の中に残っていきます。今度は、冊子になったり、クラスで発表されたのを聴いたりして、その句をほかの人が知ることがあります。すると、その句の景色や音や匂い、味が、句を知った人にも伝わってゆきます。では、それを知ったほかの人が、次に同じものを見たとき、聴いたとき、嗅いだとき、味わったときはどうなるのでしょうか。また少し前とは違う感じ方をするかもしれません。いろいろな人の俳句を知ることとは、いろいろな人のものの見方が、自分に加わって、重なってゆくということだからです。

自分と同じ見方の人があるとわかることも楽しいことですが、まったく違う見方の人がいることも面白いこと。こんなことつまらないんじゃないか、これを知られたらかつこ悪いんじゃないかと思うことでも、ほかの人にとっては新しい発見であることも多いのです。そう思えば、俳句のきっかけは身のまわりに溢れています。ほら、もう作るきっかけが、見つかつてきませんか。みなさんのきっかけが、つぎつぎ俳句になって、人に伝わっていくことを、楽しみにしています。

さあ、みなさんは、次に、どんな俳句を作りますか。



◆
阪西 敦子
さかにしあつこ
昭和五十二年神奈川県生まれ。
「ホトトギス」「円虹」。

◆ 特選

阪西敦子選

かきごおりきらきらのどをとおってく

茨城県 真壁保育園 4歳 市塚 大樹

なつのよるほしがほしいとないたいぬ

東京都 みのり幼稚園 4歳 田中 美空

たんぽぽがいっぱいさいてまっていた

秋田県 八峰町立峰浜小学校 1年 ささもとあん

ひいじいのはかでうまれたせみがとぶ

滋賀県 草津市立老上小学 1年 清水 奏多

口に入ってしまったものは見る事ができないけれど、そののどごしを作者は光のようにとらえました。感覚的だが説得力のある句。

涼くなった夜に少し犬も元気が出ました。空へ向かって遠吠えをして、星をねだっています。そんなお願いも暑さが収まったから。

ひろびろと群れ咲くたんぽぽの原っぱへ、やっと到着しました。「まっていた」にうれしさと、たんぽぽの多さがこめられています。

ひいおじいさんの墓に抜け殻を残して、蟬は飛んでゆきました。新しく育ってゆく命を見守る大きな暖かさが感じられます。

秋のかぜわたしにぎゅつとくつつくよ

広島県 東広島市立東西条小学校 3年 松本和々花

春風にプリントヒューつとうごきだす

高知県 土佐市立高岡第一小学校 3年 吉永 美優

金魚達ふくろの出口さがしてる

埼玉県 所沢市立北秋津小学校 4年 岡 千遥

梅干しを食べると口が開かないよ

神奈川県 寒川神社少年館 4年 根本 直輝

梅雨の朝今日着る服がおいである

岐阜県 関市立倉知小学校 5年 安田 幸祐

もぐってはプールの私は水になる

千葉県 船橋市立法典東小学校 6年 押谷 優瞳

春夏秋冬、吹く風ですが、四季によって少しずつ違っていることに気づきました。言われれば確かに、細やかで、独自の発見です。

新しい学年に配られたプリント、めくれるのでもなく飛ばされるのでもなく、勢いよく動き出す様子を捉えた感動が伝わります。

金魚すくいの金魚が袋のなかで出口を探す、広い水槽から移されたのではもつともです。想像力が新しい発見をもたらしました。

最近では貴重になったすっぱい梅干。あまりのすっぱさに口がすばんで収まるまでは開かない。発見を客観的に表現しました。

連日雨、気分ののらない朝ですが、枕元には今日の服が用意してあります。静かに畳んで重ねられた服の存在感が迫ってきます。

時々水面に顔を上げては、再び水の世界へ戻る作者。水にいる時間が長くなって慣れる様子を自分も水になると生き生き捉えました。

◆ 秀作 阪西敦子選

みずくさにえびのぬけがらみつけたよ

東京都 みのり幼稚園 5歳 佐藤 好美

コスモスがかわいいいうたをうたってる

埼玉県 加須市立花崎北小学校 1年 神谷 日向

おてつだいぱりぱりタオルたたむなつ

埼玉県 西武学園文理小学校 1年 阪本ひなの

するめたべながらざりがにつつます

千葉県 我孫子市立新木小学校 1年 下村 梨太

にじがでたくものきれめもなくなった

千葉県 我孫子市立高野山小学校 1年 高野 紘生

とことことあるいていくよふうせんが

大阪府 高槻市立桃園小学校 1年 水本 采希

あさがおも大きいたねはひとりべや

兵庫県 小林聖心女子学院小学校 1年 持増 優希

たべちゃったおなかにすいかできちゃうの

広島県 東広島市立三ツ城小学校 1年 正木 翔平

かんばんにかまきりぼくとにらめっこ

広島県 東広島市立東西条小学校 1年 吉田 大希

せみのからなかみがみえてはちみたい

埼玉県 加須市立高柳小学校 2年 小川 優

しゃぼん玉くつばこの中入ったよ

埼玉県 加須市立高柳小学校 2年 青木 結愛

はとたちが夏のどうろをけんけんぱ

東京都 江東区立越中島小学校 2年 中里 七海

うんかいで絵手紙出したとどくかな

神奈川県 横須賀学院小学校 2年 白石 きら

なつ休みせんろの先におばあちゃん

兵庫県 明石市立明石小学校 2年 山根 颯馬

たいふうでまどにくつつくあまがえる

愛媛県 鬼北町立泉小学校 2年 佐々木実生

夏の空くもがおならにみえてきた

北海道 遠別町立遠別小学校 3年 長田 侑斗

せん風きじろじろみてるなにみてる

岐阜県 関市立倉知小学校 3年 森 結音

とるなげるドッジボールであせの玉

静岡県 静岡大学教育学部附属浜松小学校 3年 鈴木 伶旺

おばあちゃんつくしがでたころなくなった

滋賀県 草津市立山田小学校 3年 森田 凌牙

世界一大きなねぶた小屋を出る

青森県 黒石市立中郷小学校 4年 葛西 ハル

汗たらたらのはりきったよ男坂

茨城県 稲敷市立古渡小学校 4年 仲内 柚姫

ときよう走ほったゆれる運動会

埼玉県 加須市立高柳小学校 4年 加藤 心陽

バーベキュー町にいつけんけむりたつ

東京都 渋谷区立神宮前小学校 4年 磯田 紋太

かぶとむしおにくやさんでもらったよ

広島県 東広島市立三ツ城小学校 4年 山田 悠貴

川遊び流れていった水でっぽう

広島県 東広島市立三ツ城小学校 4年 宇野 太陽

右側にクーラー目の前のカレー

埼玉県 春日部市立藤塚小学校 5年 久保 涼那

雪だるま大きくすると手がいたい

東京都 新宿区立落合第四小学校 5年 谷 健太朗

足とじてしずかにねむる夏の虫

神奈川県 カリタス小学校 5年 川嶋 南

あたらしい自転車届くせみの声

神奈川県 横浜市中区上末吉小学校 6年 岩崎 咲来

夏至の日に夕飯前のバトミントン

岐阜県 岐阜市立長森西小学校 6年 上村 一心

トロフィーにはこりの少しうるこ雲

愛知県 名古屋市立滝川小学校 6年 水野 結雅

冷水に流すそうめんあわててる

福岡県 麻生学園小学校 6年 山本 凜

選 入 北海道

いいにおいお日さまでたよ夏の雨
夏くぼろりゅうせいの空くもの上でるのびた顔
歩3年くセミ短小平 颯太い命明日の道
ひっこして手紙の中は初夏の風
したたる汁すいか早食5年い種飛仙波 七星ばし
久保 璃瑚
6年

青森県

あついですなはしって向かう青い海
夏休みデイズニールランドがちかくよ
ポカポカの光さしてるうん動会
せみしぐれ夏にしかないパーティーだ
りんご園アップルパイの実そだつ木々
帰り道わたり鳥が空一面
消しゴムを使い果たした夏休み
とんぼからあと一センチでにげられた
うきわから落ちてみんなと笑いあう
台風やつかまえた虫鳴きわめく
のびる背に稲のさざ波広々と
6年
高橋 琥太郎
2年
中村 恵
2年
小山内 愛希
3年
織笠 将人
4年
佐藤 真一
4年
石山 優希奈
5年
大坪 法史
5年
柿野 スミレ
5年
中野 七海
5年
吉本 花
5年
松坂 宥依
6年

岩手県

うさがねつきにいこうととびはねる
ゆずの実のきれいな香りただようよ
秋の朝ふと空みると雨ななめ
3年
5年
5年
大清水 満宝
今井 陽菜
加藤 寅之介

足のうらじわりと感じるふゆのろうか
夏休みなみがスヤスヤおよいでる
5年
山崎 達也
吉光 瑛斗

宮城県

あじさいはちいさいはながたくさんだ
すべり台雪がのつててすべれない
トンボがねけっこんしてておめでとう
花がさきすずしい風もふえてきた
コオロギはコロコロ鳴いてめすをよぶ
くつ下もうすい色だね衣がえ
夏休みきんちょうしたよ始球式
しりとりで必ず出てくるりんごかな
雪の日は足跡たんでい出動だ
下駄の音コンコンコン夏が来た
飲み干して片目でのぞくラムネ玉
弟の天気予報はいつも雨
3年
3年
3年
3年
3年
4年
4年
5年
5年
6年
6年
6年
6年
6年
安部 結衣菜
及川 咲季
佐藤 莉奈
千葉 楓稀
樋口 斗哉
千葉 美琴
宮城 直樹
青木 結愛
村松 玲里
千葉 璃子
新妻 愛理
宮川 琴音

秋田県

うぐいすはみんなをあかるくするまほう
春の風遠くへ気もちのせていく
太陽を背負いプールをそうじする
飛びこんで習う楽しさ夏の川
2年
3年
5年
6年
本多 心愛
佐々木 淳之介
田村 彩葉
今井 眞優

山形県

かまきりがぼくをめがけてとんできた
ながれぼしテントでみたよなつやすみ
こがさずにまきのちょうせいむずかしい

5歳 新野 登唯
5歳 平田 侑愛
5年 加賀山 悠人

福島県

あさがおにみずをかけたらにじできた
いえのまえにやすみにきたよほたるたち
おおきなめとおくをみてるのにおにやんま
あのにじをさわってみたいとおいかける
かぶとむしよるはげんきにたたかいた
えだまめがさやかからするつとだいたっそう
ゆうだちであつい地めんもよろこんだ
あめんぼがプールの上をおよいでる
プールではイルカみたいなお父さん
夏の川さらさらしてる水と石
虹の下七人そろって歌いだす
もぎりたてたくさん食べた夏野菜
魚つり兄とわたし根くらべ
あいけんときく遊べる夏休み
じいちゃん口ポットみたい草を刈る
太陽はみんなをひやけにしよう
金閣寺汗とみだでゆらいでる
にじの橋水たまりにもうつてる

1年 岡本 陽太
1年 折笠 柊人
1年 川島 凜花
1年 蓮沼 駿太
1年 星 寛門
1年 星 莉維人
2年 澤田 莉清
2年 高橋 瑛人
2年 吉住 友克
3年 天野 琴美
3年 小原 皇
3年 齋藤 世奈
3年 高橋 亜萌
3年 野田 采里
4年 車田 悠汰
4年 齋藤 桃花
4年 長谷川 勇將
4年 古内 和心

茨城県

夏の月きれいな黄色さわれそう
おばあちゃんもらった手紙秋のこと
外に出て命感じるほたるがり
ひきがえるげんかん入りひと休み
夏の風みんながわらう大声よ
かえるさんびよこんとすわり熱い視線

4年 山本 結月
4年 渡邊 南
5年 荒木 晴瑠
5年 土田 奈央
5年 長谷川 練実
6年 大塚 侑希

なつやすみうちわでそらのたんけん
じつとしてあせもしたるバツタとり
あんまんをほおばり想う雪の那須
夏の川ういてブクブク空を見る
こばえさんほこりのように飛びまわる
登りがまムクムクムクと夏の雲
海に行きはまぐり取れたよ一個だけ
バツタ行くめざすは海だボンネット

4歳 稲葉 冴空
1年 久保田 煌大
3年 片岡 一貴
3年 松本 佳大
4年 桑山 奈子
4年 藤本 瑚乎
5年 坂本 逢翔
5年 藁谷 昊輝

群馬県

サイネリアむらさきいろのプリンス
カナブンもまっかなトマトのしんだ
水草にかくれて泳ぐメダカたち

1年 西村衣緒梨
4年 鈴木 裕太
5年 秋山 唯斗

埼玉県

あさがおのラッパみたいなのはな九こ

1年 相部 ゆりか

かきごおりおばけになったほくのべろ	1年	榎本 煌	夏の空ピーマンすくすくそだつて	2年	水野 那萌
とんでいけほくのきもちとしゃてきだま	1年	関 龍澄	ミニトマトくきのねもとがちがういろ	2年	吉田 凜菜
あさがおがぜんぶしほんでひろぐも	1年	久住 莉都	かみなりがおうちに入るねられない	2年	渡辺 瑛太
あさがおのいろみず氷にかけたいな	1年	駒宮 稜悟	こいのぼり自由になったらどこへいく	3年	中西龍之介
もふもふとにゆうどうぐもがうまれてる	1年	常法 陸人	ひやけしてまつ黒の顔見合わせる	3年	秋山 結奏
さびしさにみんなにあえるあきをまつ	1年	関口 絢斗	カランコロと夏の夕ぐれラムネ色	3年	江利川 滯
せのびしてぎゅっととったさくらんぼ	1年	高良 周	わたしの声てんまでとどけはかまいり	3年	大貝 袖沙
帰り道犬われ先にかげさがす	1年	竹谷 海音	すなはまをほりつづけるとカニがいる	3年	加藤 愛莉
うんどうかいたくさんげてあかいたま	1年	戸ヶ崎悠真	春の鳥子ねこを見つげにげていく	3年	金澤 紫乃
あさがおのかおにながれるあさつゆが	1年	長崎 大翔	動物の親子がみんなで冬じたく	3年	酒巻 智衣
はまぐりがあみのぶたいでおどつてた	1年	日野 遥翔	はじめてのプールで泳げた5メートル	3年	常法 陽奈
ぼうぼうと雨ざめざめと糸電話	1年	藤井 正明	さくらんぼふたりでごつんいたそうだ	3年	戸森 陽菜
ミニトマトはっぱにしくネックス	2年	飯島 咲	エイサーでたいこたたいて風あつし	3年	中島 康汰
はるあらしつよくおされるおにごっこ	2年	大木 秀都	さくらの木わたあめみたいきれいだな	3年	中島 駿平
ひろいうみあおいひかりがひびくなか	2年	木村 彩乃	弟がおち葉で遊ぶ秋が来た	3年	中出水 祐
あつすぎていつもひまわりおじぎする	2年	栗原 怜央	こいのぼりかぞくみんなでおでかけだ	3年	能登谷めい
ミニトマトこすつてみたらやわらかい	2年	酒巻 凜歌	青空で泳ぎたくなるとこまでも	3年	増田 祥大
けしごむがやわらかくなるあたたかし	2年	須藤 志帆	流れ星ねがいをかなえるすごい星	3年	渡邊 仁哉
ふわふわのクッションみたいしゃぼん玉	2年	竹村 璃々	ゆきがとけふくたびかぜがあたたかい	3年	渡会 恋奏
かぶとむしえさをあげるとあるいてる	2年	長谷川伶奈	ピザ作り手にくつついた夏休み	4年	石塚 玲那
せみのからさかさにしてもおちないよ	2年	蛭田 晴仁	プールはね虫でもだれでもはいれるね	4年	内田 彩
夏の海いしのおしろを作ったよ	2年	蛭間 夏希	せん風機どうしてあっちむいちゃうの	4年	大川 昂生
ゆかたきてくつにひっかけころびそう	2年	福島 颯菜	夏祭り店の灯りに人の波	4年	大田 美華
春の夕日丸くてとてもきれいだ	2年	ほこ田みさき	息白みんなの顔がくもの中	4年	大谷 美緒

あせのたまじめんにおちてきえていく	4年	加藤 瑛斗	冬至なりたくさん遊ぶ子どもたち	6年	笠原 りお
夏の海しずかにのびる月の道	4年	金子 彩花	かたつむりゆつくりみんなと登校中	6年	金井明日美
ありたちが行列作り店びらき	4年	光山 里桜	雨がふるそつときいたらきれいな音	6年	小林 芽衣
雪の山シロップかけて色づいた	4年	鹿倉 歩花	七夕で叶わなかった願い事	6年	佐藤 結琉
ナスの葉の日かげですずむかえるたち	4年	高橋 昂星	のんびりと歩いていたら虹が出た	6年	佐藤 由苺
ひさしぶりいとこに会っててれる夏	4年	竹田 心温	花火果て空のたちまちみづみづし	6年	塩野 由麻
かくれんぼ見つからないよ夏服が	4年	深澤ひなた	ふり向くと顔の大きさはしゃぼん玉	6年	須藤 美月
台風 の 巨 大 な 戦 力 天 下 一	4年	細田 大晴	夕立に空にとどろく黄色の矢	6年	高橋 宇靖
しゃぼん玉ふたつくつき落ちていく	5年	青木 唯夏	たんぽみちゆつくりあるくなつやすみ	6年	天間 美桜
蚊の勝利足に無数の負けの跡	5年	石原光太郎	夏の風暑さはまるでドライヤー	6年	野村佳乃子
田を植えて何どうえてもたおれゆく	5年	井上 凜香	涼風が母の手のようほほなでる	6年	橋本 瞳美
夏休みらくだみたいにくつくりだ	5年	今西 真由	お花見で花びら落ちる紙コップ	6年	長谷川凜空
いまのセミななねんのときやつとでた	5年	大柴 千昂	夕焼けのやさしい光町包む	6年	平間 暖
田植えして足のつめには黒い虫	5年	木村 一聖	虫の声夜中になると数増える	6年	広瀬 政紀
炭酸水見て見て泡の流れ星	5年	肥沼志緒莉	夏の夜外から聞こえる子守歌	6年	山口 廉仁
風鈴の音色と友に風が吹く	5年	佐々木花音	千葉県		
田んぼの中スライムみたいだよ田植え	5年	杉田 大成			
海の中魚見ながら水になる	5年	中当 琉奈			
夏休みたいくつそうだランドセル	5年	野崎 芽依			
野菜たち日光不足で首かしげ	5年	望月 圭太			
耳もとにゆつくりくるよ春の風	5年	渡邊ひなの	じゅうたいのまどからみえるひつじ雲	2年	小泉 柚葉
夏休みあいたくないよ先生と	6年	青木 隆人	岩の下もぐって見つけたタコの家	3年	石崎泰之佑
すいか割り周りのかけ声うそだらけ	6年	阿部美優羽	ひやけたばくの手オセロできるかな	3年	西村 周伍
ばっさりと髪切りし姉夏が来る	6年	大川 珈葉	夏の雲 私と同じ反抗期	4年	久保木心優

お年玉中をチラッと見てしまう	4年	坂田 美羽	かたつむりはっぱのおとをきいている	1年	山本 陽葵
カブト虫さがす私もまっ黒け	4年	茶珍 桜音	きょうりゅうのほねがそろった夏休み	2年	安東 奏音
欠けていく月といっしょに夏おわる	4年	福田 景都	ブルーベリーたべたら口がま女の色	2年	磯 瑠美奈奈
真夏のプールサイドはフライパン	4年	森下 愛華	はちがつのひかりかがやくゆうだちよ	2年	岩井明日香
むかえぼん初めてすったマッチの火	5年	泉 結芽	ラムネ玉宝にしたい子どもたち	2年	岩間 優衣
スイカわりどかんと一本ホームラン	5年	氏家 琉惺	十センチのバツたぼうしでつかまえた	2年	遠藤 岳久
セミの 声原爆ドームじつと立つ	5年	豊田 陽大	夕やけはどんどんしずむしまへとね	2年	奥野 成美
きんちようだ手には豆ありたいこ打つ	5年	西野 真帆	妹とながれるプールで手をつなぐ	2年	狩野 珠里
弟とチキンかた手で見る花火	6年	加藤 祐理	ソーダ水しずくがおちる雨の風	2年	河原林灯里
夕立でかさがぶつかる下校中	6年	小林さくら	ハンモックゆらゆらゆれるおどつてね	2年	ズンボカントー
おうえんをみみでききとりスイカわる	6年	中橋 香奏	はらじゆくで人がいっばいあきあつし	2年	齋藤 愛純

東京都

あゆつかみあばれすぎだよてのなかで	6歳	荒川 瑞樹	かんらん車から町が見えたよ夏休み	2年	曽根原莉乃
みつけたらかならずさわるだんごむし	6歳	亀山 久美	ほたるがりがかわべにつどうひかりたち	2年	高久 由瑠
たいふうがはっぱでらくがきペランダに	1年	井岬 多聞	つくしはねいつもほそくてすぐとれる	2年	西山 賢英
あさがおのつるがくるくるぼくのかみ	1年	石田旋十郎	うでのばしラジオにあわせてせみも鳴く	2年	橋本奈那子
なつやすみかぬうでみずをけりとばす	1年	井出 辰飛	ちよつとなみにさらわれないもうとの夏	2年	藤井 未来
七五三ははのきものでうれしいな	1年	片岡 咲恵	青森でズルズルキーとねぷたひく	2年	増田真生亜
いえでするながしそうめんゆめなのに	1年	金井 理美	とれたてのウニがまないたさんぼする	2年	村田 忠謙
あさがおのちゃいろいろいたねからくろいつぶ	1年	桑原 環太	うんどう会白ぐみまけた五てんさだ	2年	山中 諒
いつのひかねぼうしたいよあさがおも	1年	佐藤 凜叶	さがしだせたからのきゅうりはぬかの中	2年	吉永 礼
はなびみてみんなのえがおぱつとさく	1年	馬場 悠真	あきあつしかいだんのぼつてあと一歩	2年	李 子萱
ぐるぐるととびらのまえでせみまわる	1年	宮川 遼	クワガタとじゃんけんしたよグーだした	3年	石井孝太郎

パールシャ湾泳いでみるとおんせんだ	3年	石井 宏幸	夏の空ゴールネットを照らしてる	4年	池田 空大
レプリカのきょうりゅうの爪夏休み	3年	石原 湊介	そうめんをお家にかえて食べようよ	4年	池田 和花
ねつききゅう入道雲をとびこえろ	3年	泉 友翔	ひややつこわたしのはしとおにごっこ	4年	石原 蒼良
かきごおりおさらのうえでゆきがふる	3年	片桐 悠人	つばめの巣あちらこちらで建設中	4年	井上 晃希
かたすぎるだれもわれないすいかわり	3年	甲谷 碧乃	かさのいろにじといっしょの七色だ	4年	大和久月花
ベトナムのおいしいごはん夏休み	3年	小林 叶和	水たまり夕焼けうつり光りゆく	4年	小野澤葉奈
夏の日に花かんむりで王様ごっこ	3年	斉藤 彩奈	ほんおどりみんなおどって花火になる	4年	佐久間洵奈
あげはちようたまごをうむよしんみように	3年	菅 翔海	母さんの麦わら帽子かりて行く	4年	櫻井 里緒
おにごっこゆかたがじゃまで走れない	3年	田子森心実	しゃぼん玉きえるなずっと飛んでいろ	4年	関口まる絵
消えちゃった花火のけむりもきれいだな	3年	田中 哲太	夏林ザクザクザクと草の 声	4年	高田 美咲
町じゅうが一つを見つめる花火のわ	3年	田中 音羽	うすれゆく一しゅうかんでセミのおと	4年	高橋 利宇
青い空入道雲が歩いてる	3年	田中ひらり	夏の雲ポップコーンみたいはじけそう	4年	武井 篤紀
スイカわりまん中あてたよおいしいな	3年	塚本 健太	サングラスたいようさんもかけたそう	4年	武田 隼門
秋の風かえつたらすぐならいごと	3年	幅田望乃子	ねこの子が人の上に乗るまるくなる	4年	千葉 右楽
すいかわり目かくししたらさあいくぞ	3年	早川 慧人	夏の山 大きい山は雪の こり	4年	中西 快
バラの花いつもぶんぶんおこってる	3年	原田 陽代	木のえだをたたくとおちるくわがた虫	4年	額賀 奏多
あみのなかセミがバタバタさわれない	3年	兵頭勘太郎	けんどう後アイスクリームいきかえる	4年	平川 主真
コインなげあせかく人でぎゅうぎゅうだ	3年	平山 遙夏	暗い夜たくさんの星夏をよぶ	4年	平田菜乃子
秋の朝ヒラタクワガタゆうきまんまん	3年	本間 義阜	さくら貝ながされてなお光ってる	4年	水野 紗希
おかえりと冷えた麦茶がまつている	3年	水間 健輔	みずあそびかぞくみんなでぬれあいだ	4年	三石 陽士
みずでつぼうの中には思い出まつてる	3年	吉高 一輝	海の中もぐってみると貝の穴	4年	村井ひろの
セミ休むゴーヤのゆりかごゆらゆらり	4年	桐山 悠磨	花火みに近くに行ったらカスがふる	4年	結城 陽斗
お祭りでたいこの音がつきささる	4年	青木芽依菜	軽井沢夏の鳥たち歌合戦	4年	湯川 和夫
ハイキングゲガしたトンボぼうしのる	4年	荒岡 瞭汰	山のおく遊びまくって月を見る	5年	市川 智啓

夕立ちや雨粒の音傘たたく	5年	吾妻 実歩	トンボがねプールに残す子供たち	6年	井上 心結
春雨が野原にふりつつしみわたる	5年	飯田 結那	夏まつり浴衣についたシミとれず	6年	江原 鈴衣
時刻表じつとにらんで汗流す	5年	一宮 湧太	散歩道左右を見れば春がいる	6年	大島 健司
剣道で汗がしたたるのどかわく	5年	川原 諒	土筆手に空に絵をかく子供たち	6年	岡部綾及衣
夏の浜一步ふみ入れとびあがる	5年	久玉 夏美	塾塾塾塾で勉強夏やすみ	6年	小川 璃子
カヌーのりあたまのうえにベニトンボ	5年	小林 海	夏の川キラキラ光るアユのはら	6年	加藤 幸太
海青く紅葉にそまる鳥居かな	5年	小松澤拓登	ドア開けてせみと目が合い後ずさり	6年	川名 和桜
夏休みあめ玉みたいにすぐおわる	5年	清水 結翔	室温を二度下げる午後夏期講習	6年	栗原 怜央
スイカ割り甘いばくだんはじけだす	5年	嶋村 蓮吾	告白しふられた日の空夕焼だ	6年	栗山 悠佑
窓開ける八月の風ふいてくる	5年	蔣 家澄	ゴルフ中クラブに止まる赤トンボ	6年	後藤 拓哉
おとされてだれかがひろう夏ぼう子	5年	鈴木琥太郎	かたつむりからだをくねらせ一歩ずつ	6年	坂本 祭鈴
白球の芯をねらって大空に	5年	齋藤シヅレ	夏休み三十二日なぜないの	6年	佐々木リナ
ひまわりや異常気象に首かしげ	5年	徳永 大樹	蛍火がこだまに揺られ飛んでいく	6年	佐藤 智一
夏休み最後の夕日かなしいな	5年	沼尾 杏樹	夏の空ふうりんの中に入ってる	6年	高田 愛理
アジサイが鎌倉からのプレゼント	5年	野呂瀬圭右	通学路残暑の風がシャツ通る	6年	高田 結衣
夏休みたまには休んでお母さん	5年	芳賀 一眞	里帰り帰った先はムカデ付き	6年	田中 彩愛
つゆあけてほのかにかぜがふいている	5年	深堀 美南	ブランコと麦わらぼうし風に浮く	6年	谷口 莉菜
千年のみどり深める夕立の露	5年	福田 怜	秋桜の見上げた空は深い青	6年	辻澤 朋弘
サイダーのしずくのように汗ひかる	5年	藤村明日歌	夜の庭雪だるま一人さびしそう	6年	土屋 茉央
ひまわりをぎらぎらにらむ日のひかり	5年	別当 美優	宿題めアイスみたいにとけちゃえば	6年	中村 衣吹
波は来る魚は追うと逃げてゆく	5年	三田新九郎	水そうの金魚たちと泳ぎたい	6年	日下野遙香
牧草地かたつむりまたかたつむり	5年	森岡 のの	きもだめしおばけ役で虫さされ	6年	福屋 紗良
病院の屋上で上がったミニ花火	5年	横山 奈央	すいか割り直撃したのはダンボール	6年	三谷 咲良
西瓜割り飛んだ果汁に蟻集い	6年	安藤 優	イワシ雲焼いて食べたらいしそう	6年	盛田 友佳

夕立ちにたたずむぼくと笑う傘
僕のととは違う地図持つ渡り鳥

顔洗うことの楽しさ初夏の朝
金閣寺美しすぎてせみ鳴かぬ
シーグラス波にはこぼれやつてきた
夏祭り笑顔が映るりんご飴

神奈川県

新潟県

安村 明花

およいでるジンベイザメがつめたそう

祖父の畑くの字のオクラしゅうかくだ

さくらよりやつぱりほくはさめがすき

石田 夢桜

チューリップひっくり返すと銀のすず

小林 晟也

水の中ポイからにげる金魚たち

鷺尾 永聖

カマキリににまれ止まるぼくと犬

驚尾 永聖

マンゴーの味思ひ出す日焼けあと

驚尾 永聖

サンダルがプカプカうかぶ浜辺かな

三谷 悠太

夕立が白くかすんでふつてきた

川端 陽葵

山のおく打ち上げ花火うかんでる

北川那由多

怒られて机の下に虫の声

立野 優

夏空にブランコこいでかけあがる

林 千之助

パレットに山の緑は出せるかな

速水 希

夏合宿ラケット振ると汗も飛ぶ

満田 瑛太

花火見て君が好きだと気づいたんだ

吉川 仁瑚

ザリガニを手づかみしてる男の子

魚川 実莉

校庭の桜がちつてくつにのる

窪田 成泰

ロマンスカーあゆ祭りの横かけぬける

小森 康輔

窓からの夏風感じる将棋盤

坂中 絢音

セミの口食べ物とり込むすべり台

松野 晃大

筆箱の上に一つのからすうり

松野 晃大

富山県

入選

杉本 佳穂

ももがりの十日目まだまだ食べられる

夏の海力あわせて地引きあみ	4年	浦 彩華
たんぼぼのわた毛しずかにゆれる夜	4年	北川 結
水やりのけさは実が出たミニトマト	4年	坂 凌平
鼻ツーンプール遊びの水かけあい	4年	柴田あかり
カブトムシおまえのつので決めてやれ	4年	常木 翔太
はらみせしせみのふるればとびたちぬ	4年	寺崎詠二朗
よそみしてふんづけちゃった雪だるま	4年	谷内山 弘
二げん目のテスト耳にはせみの声	5年	大島 碧暖
太陽に負けてひまわりかた落とす	5年	窪田 菜琉
妹とみつけた犬の夏の雲	5年	鶴谷 和奈
流れ星一人だけ見る友の父	5年	林 一花
母にたれつけてる夏のバーベキュー	5年	牧野 了
宿題に首ふるぼくとせんぷうき	5年	吉岡 壮祐
夏の風共にとびこすハードル走	6年	岡田 玲那
つゆの雨メガネに水がまたついた	6年	國谷 喜一
あせたれてどんどんこくなる服の色	6年	森 愛音

石川県

あいたいなそらのじいちゃんおぼんだよ	1年	亀井 温仁
なつぞらにひかつてはねるみずたまり	1年	仲谷 祐輝
雨晴れて水しよう玉はの上に	2年	どうがき海せい
入道雲何に見えるか空見上げ	4年	堂ヶ崎巧海
ひぐらしが帰りの合図また明日	6年	茶畑凌太郎
台風 ^{かぜ} すぎて土手に転がるかぼちゃかな	6年	畠中 徹平

福井県

ゆうすずみわたがしたべてとけちゃった	1年	稲葉 仁菜
たかがいるなをみているききたいな	1年	角井 亮太
たんじょうびはただでホタルキラキラと	2年	藤本 莉璃
田うえきがきれいな線をうえていく	3年	橋本幸乃輔
すすきかなかせいっぱいにおよいでる	3年	三原 栞怜
波をけりテトラポッドまで泳いでく	4年	坂下 夕歩
夕やけの美しい色残る月	5年	稲葉ひかる
川の中夜空うつして蛍飛ぶ	5年	角井 睦未
お盆来てみんな集まり似た笑顔	6年	横井瞭太郎

山梨県

なつのかぜぼうしとばされふじの山	2年	清水 太智
------------------	----	-------

長野県

なつまつりあかりがともるあさみだい	4年	椎名 有紗
昼下がりがページをめくる夏の風	5年	角田 水稀
P K を外して涙青い芝	5年	西野入泉吹
手の上でオタマジャクシが困ってる	5年	宮澤 希成
夏の夜空泣くたびにまどしめる	6年	赤羽歩乃香
夏休みえーつと今日は何曜日	6年	塚田 紗矢

岐阜県

よじかんめぶうるのしゃわーにじかかる	1年	伊藤 幹太
--------------------	----	-------

入 選

りよこうでねほてるのぷうるみつけたよ	1年	今井 朱里
あさがおははつばがちくちくおおいな	1年	太田 梁介
たなばたにほしのクッキーたべたんだ	1年	河端 希那
あさがおのぺっとほとるのみずをくむ	1年	清水結依菜
はのうえでありがいっぱいけんかする	1年	鈴木 晟吾
だんこむしぐるぐるにげてまるくなる	1年	安田 詠喜
すべりだいあついよゆびがちんちんだ	2年	今川 ゆい
とりのこえきれいになくよなつのそら	2年	中島 衣登
たい風で川のながれがチーターだ	2年	山口かいあ
うみのなかさかながどいてと足つつく	2年	山口けい大
それおどれソーランぶしをきびきびと	3年	笠井莉緒那
かえるはねうさぎのようにはねてゆく	3年	喜久生健悟
ひまわりがのびて大きなかげできた	3年	佐久間悠太
つゆの風わたしの心すきとおる	3年	佐藤菜々花
ほんおどりゆかたまくてげたならす	3年	三島 隆輝
夏の海なみがゆらゆら海の中	3年	村山 来夢
夏休み雲といっしょにきえてった	4年	小島 心菜
母の日にゆっくりしないお母さん	4年	須甲 瑞希
水そうにとびだしそうなのねったい魚	4年	福田 崇心
夏空へさいごの一球ホームラン	4年	元田 憂人
夏つばめ自転車の子に追われてる	5年	太田 琴羽
夏の風少女のかみをなびかせる	5年	神川 憂香
水そうの底でメダカがしずんでた	5年	藤田 翔瑠
かがり火がアユをてらすと火花ちる	5年	渡辺 恭典

なみ激し夏の海へと泳ぎだす	6年	青木 柚葉
夏の夜空が日本をてらしてる	6年	上村 優希
こもれびをあつく感じて立夏かな	6年	奥田ひいな
かぶと虫しずかにねむる夜の森	6年	小栗 清夏
君とぼく心通わす水鉄砲	6年	川合 翔歩
ウグイスがまどの外から呼びかける	6年	神原 凜心
金色に秋の田光る帰り道	6年	清水 夢叶
スイカ割り自分の足をたたく君	6年	松本 佳那
目に映る今日だけの空夕日見て	6年	安田 捺羽

静岡県

せんそうをはじめてしったなつやすみ	1年	杉田兎次朗
ふりかえるにゆうどうぐもがこんにちは	2年	天野 響
夏休みあたらしいはがはえてきた	2年	原野 伊吹
とびのりたいこびとになって風船に	3年	加美 聡果
広い海くらげはみんなのお月さま	3年	酒井 彩羽
南風たまには向きをかえようか	4年	山田 夏希
真夏日に景色をゆらす日の光	5年	石埜 圭人
おいっこのめんどろみてるなつやすみ	6年	黒石 彩
川とんぼ川のまわりでまいごかな	6年	福室 柚羽
夏休み長女が一番大変だ	6年	本田 芽生

愛知県

サンタさん見たいその目が閉じていく	4年	坂部 遥香
-------------------	----	-------

かぶと虫角でおしのけひとりじめ
にわのいぬほえてしらせるなつのあさ
春風やショーウインドウのワンピース
次の日は家出をしてる雪だるま
5年 浅井 若菜
6年 浅井 良太
6年 河合祐貴子
6年 山尾 優歩

滋賀県

うんどうかいアクセルあるよぼくの足
たんぼぼのわた毛あたってこしよばいな
扇風機姉がこつちと向き変える
5歳 瀬戸山 棕
3年 山本 寧莉
6年 野本 大智

京都府

北の国草木をゆらす雪がふる
そらのいろほほえんでいるせみのこえ
あいけんにおもいをよせる送り火だ
森の中ぼくからにげたカブトムシ
夏の空姉の気持ちと同化する
満月か塾の帰りにふと気づく
雨上がりふと窓の外虹二つ
4年 小池 侑万
4年 駒野 亮
4年 松井 佑磨
6年 小倉 修翔
6年 長尾 桂一
6年 橋場遼太郎
6年 原 天音

大阪府

夏の日に大そうじするよびかびかに
木の下でやすんでいると春のかぜ
川遊びがけからとんで鳥になる
気付いたらUFO飛んでる秋のくれ
2年 吉田 咲南
4年 坪倉 由依
5年 牧之瀬颯太
6年 伊藤 壱喜

兵庫県

せみは木でおよめをまっくらしてる
すいちよくに天にむかつてオクラのみ
シュートして点を決めたぜおれの夏
夏祭り帯の苦しさがまんする
夏終わるえんぴつけずりの音ばかり
よくやけた私のはだはかりんとう
大根はおこっているとき辛いのか
倒れてる自転車たちも熱中症
背からのびてははのゆかたがびったりだ
胸の内話して解けるかき氷
2年 嶋本 真秀
2年 南野 翠
3年 増田 叶
4年 岡本 百加
6年 大山 凜菜
6年 小出さくら
6年 藤濤 拓郎
6年 細見 梨恋
6年 松谷 結々
6年 松本 美咲

奈良県

いこまやまにゆうどうぐもとせいくらべ
あつつばめ指差し見上げ同じ顔
1年 奥田 龍太
4年 茨木隆之介

岡山県

夏の空動かない雲ぼくみたい
桜散る制服を着て歩きだす
6年 居福涼太郎
6年 妹尾 大弥

広島県

せんぶうきまわるとみんなよろこぶよ
さんまがねこげてるところかりかりだ
ほしがふるキャンプカレーのかくしあじ
1年 岡本 琴葉
1年 小川 綸
1年 亀谷 優

とびなさいくるまがくるよかまきりさん	1年	木島 菜月	ゆきだるまつくったかおがわらつて	2年	高 端 稜
おうごんのいなほとおどるかかしさん	1年	日下部なつめ	ひこうきが空のチャックをしめていく	2年	田 口 流星
とべばったかたあしなくてもげんきだな	1年	久保華夢射	妹とおなじ色のゆかたきる	2年	タナヅキヤキヲ
なつやすみじかんいっぱいほんをよむ	1年	後藤 久乃	なぜだろうにゆうどうぐもむれになり	2年	長川陽南子
ゆかたきてきれいなわたしなつまつり	1年	小林 梨桜	かめれおんみたいなおちばおもしろい	2年	栗田 奏汰
うみのなかみずくさあしにからまった	1年	瀬尾ひなた	ひまわりにじつと見られてきんちようだ	2年	二井野楓花
はがぬけたとうもろこしでまたぬけた	1年	高尾くるみ	なつがきたつめたいうみがかがやくよ	2年	橋本 瞭
すいかわりかたくつめたいすいかだぞ	1年	高山 想太	あきの風はだの中へとはいってく	2年	樋口 穂香
なつやすみみずぎのぼくはあまがえる	1年	玉木 郁	さくらの花おにぎりにのるうれしいな	2年	前 畠 健成
せんせいとあえないなつはさみしいな	1年	藤井 志帆	よるのうみきらきらひかりさかなとぶ	2年	松野 彩未
なつやすみパパとばいくでかぜをきる	1年	三浦 優月	すいかわりばくだんみたいとびちった	2年	松本 利希
おはかまいりもういちどだけあいたいな	1年	山口 瑛士	海の上にゆうどうぐものおはなし会	2年	村上咲優莉
とびはねるぼくはここだよあまがえる	1年	吉田 慧悟	なかなかおり二人でたべるさくらんぼ	2年	森谷 汐那
クラゲと魚とぼくとおよぐ海	2年	天方 佑省	すなあそびみんなでやるとこうじだね	2年	安原 柚菜
さとがえりひめぼたるたちほしのよう	2年	池田 愛葵	ひまわりがあたまをさげて子どもうむ	2年	横山真由子
じいちゃんのアジがするんだこのトマト	2年	市原 優大	おまつりはちようちんたててはじまるよ	2年	吉岡 心音
ゆきだるまふゆになつたらせいれつだ	2年	伊藤 昊	ひまわりがわたしを見てるまだ見てる	3年	青木 結愛
口の中つぶつぶとぶよいちじくが	2年	江草莉依颯	くもだけどかわいかったなあのことり	3年	浅野 颯我
かかしの手とんぼとまるねまほうかな	2年	大元 雅功	なつのむししばふのなかでおにごっこ	3年	石木 智彩
たべるときトウモロコシのハーモニカ	2年	緒方 陽和	ランドセルなつやすみはねたいくつだ	3年	井上 優奈
もぎたてのブルーベリーは夏のあじ	2年	岡本 侑樹	おいかけろぼくたちめがけ太ようが	3年	植木 悠太
スイカわりわたしわるからまかせてね	2年	藏田 緒美	魚がねこしよこしよするよぼくのあし	3年	グレイモリア
夏休み少しあえない友だちと	2年	小林 蒼空	ブロッコリーびよういんでパーマした	3年	小森 美空
おとうこのうきわをひいておよぎだす	2年	高澤 千晴	お手つだいあつときでも姉だから	3年	佐々木優月

合しようでがんばり歌うあせがた	3年	佐藤 衣都	新学きあくびがでるなバスの中	4年	原田 理来
海の中動物園にきたみたい	3年	佐藤 優衣	昼下がりにセミの広場に人見え	4年	平嶋かえで
びっちゃこになつてもやめない水鉄砲	3年	清水 暖	ビオトープ草ばさばさにちようのかげ	4年	廣岡 諒
どんぐりがさか道ころんでうんどう会	3年	寺岡 優月	カブト虫今日からほくがおせわする	4年	福田 玲央
夏が来たくらげがいっぱいほくをよぶ	3年	豊永 大地	そうめんがはしのトンネルくぐって	4年	福本 奈美
スイカわり赤じゃなかった中黄色	3年	西村 怜香	かき氷食えば太陽西へ去る	4年	藤原 和海
あさがおはまんなかにほしふしぎだな	3年	花岡 玲奈	水たまりうつたビルを飛びこえた	4年	松尾 小雪
夏祭りおぼんの海の音がなる	3年	福原 暖人	トウモロコシぬけた歯のあとつめてみる	5年	大西真太郎
せん風きようふくひらひら泳がせる	3年	藤巴 汐里	新学期かかとがあまり白いくつ	5年	小川 乃愛
かしわもち葉っぱのおふとんきもちいい	3年	三高 紗奈	車の中気持ちがいしむ水の音	5年	加藤 星菜
秋の夜さんまのけむりながれつつ	3年	矢澤 虎大	夏空にひびかすような鳥の声	5年	貫地谷結里
うみのおとザーっとひびくみみのおく	3年	安田 莉子	まんたんのプールの水がわらってる	5年	神鳥 大貴
ふうりんを作ってくれたよお兄ちゃん	3年	山中 千尋	味わうよ曾祖父が作る最後の米	5年	久保 寿人
夏祭りぴちゃつと金魚がとびはねる	4年	河田 優衣	広がって町を見下ろす入道雲	5年	齊藤くらら
夏祭りポップコーンがはねていた	4年	佐々木 凜	せのびしてうち上げ花火見てたよる	5年	貞信 優奈
ばらの花くるくる夢をいだいてる	4年	清水緋菜子	スイカの時期売場のスイカいたそう	5年	澁谷 貴志
かき氷とけかけてすう思い出よ	4年	清水迫拓真	なつになりみんながみずともだちに	5年	清水 文瑠
冬よりもつめたさ感じるあさのかお	4年	杉原 瑛人	油ぜみ見つかるものかと息をとめ	5年	下廣 海渡
ざっ草と暑い日差しがボクシング	4年	高岡 夕愛	顔を出す水一かきでかベタツチ	5年	住田 真央
たまねぎはナイフで切る時ピリピリだ	4年	高橋 一生	さおのさきまだかまだかとヤマメ待つ	5年	中須賀 心
春風にさそわれてゆく自分の声	4年	高橋 涼寧	口の中トマトのしるがばくはつだ	5年	鍋島 寛暁
すいかわりいたりきたりの大メイロ	4年	高原 沙耶	いわし雲今日のごはんは何だろう	5年	二藤 里緒
うみびらさかなとわたしこんにちは	4年	高山 結愛	ほうアイス食べられながら汗をかく	5年	濱田 奈都
太陽が空にのぼって母の声	4年	鳥原 珠樹	カブトムシいっぽんぜおいきんメダル	5年	古屋 舞帆

入 選

空見上げきゆうりのつるとせい比べ	5年	三好 佳奈
さあ行くぞうきわにのって海の旅	5年	村上ひなた
雨の日は水が水を追いかける	5年	柳原 仁花
かるたとりさいごの一枚もえている	5年	山手 駿
頭出しアスパラガスが前ならえ	5年	山成 花凜
夏の朝波がまだかとほくを待つ	5年	山原 大輝
目の前で転んでしまふ冬の道	5年	山部 莉可
夏がきた海がざわざわ日がのぼる	5年	和田 陸杜
夏風がまた来年とほほなでる	6年	池田結愛羽
響くのは朝礼台のぼくの声	6年	植木 創士
稲そよぐ思い出すのは波の音	6年	大田 天
一輪で誰を待つのか曼珠沙華	6年	大林 若葉
みこしひくぼくの体は岩のよう	6年	岡本 彼方
するところつ祖母から届いたぶどうたち	6年	桐谷奈那美
おしゃべりも少し長めの夏至の夕	6年	倉田 瑠衣
暗い中一人飛び起き耳すます	6年	児玉帆乃夏
妹の手をひき泳ぐ夏の海	6年	坂井 草太
家を出て涼しき音を探す旅	6年	鷺見 一葉
ナズナふりあぜ道を行く親子かな	6年	曾川 侑来
太陽と向き合いながら育つ花	6年	高橋 絢愛
おじぎ草だれに向かっておじぎする	6年	高橋 美柚
浴衣からぐんとはみ出す両手足	6年	山崎 茉奈
家族より台数多い扇風機	6年	山村 凜桜
雨続き山にはきりのスカーフが	6年	山本 絵美

徳島県

シュートうちきめてえ顔のあせひかる	3年	加島 颯介
せんぷうきうちゅうじんがかくれている	4年	青田 芽依
自転車で夏に向かって走るぼく	6年	賀永 璃王

愛媛県

あさ一ばんすずめがうたうなつやすみ	1年	櫻井 蓮
ばあちゃんがほくよりでかいすいかたべ	1年	竹場 涼馬
よるになりカサカサうごくかぶとむし	1年	山久保璃皇
こいつかみばしゃばしゃにげるなつの風	2年	竹場 春道
夏まつりおぼけとあくしゅまたしたい	2年	水野 祐輝
ことわざを八つおぼえた春の午後	3年	二宮 麻綾
ひまわりとぼくの妹いいえ顔	3年	森岡 源志
蜘蛛がいた時計の右下たいじせず	4年	鬼塚 吏玖

高知県

しゃぼん玉おもくなつたよ雪の中	3年	市原 颯馬
いいにおいせなかおしてる春のかぜ	3年	佐々木はる
ブランコでテストのことを考える	3年	徳弘 竜也
台風であまどだらけのいえになる	4年	白石 凌愛
まどの外のぞいてみたら花の雨	4年	鈴木 彩菜
あじさいはみんなのいかりとつていく	5年	尾崎 朱里
美しいにじの下には町がある	5年	藤岡 愛乃
帰り道一人ぼっちのチューリップ	6年	尾崎亜椰奈

選 入 福岡県

かぶとむしなつがだいすきほくもすき	1年	下村 暁史
げんかんをでるとわしわしせみのこえ	1年	原口日菜子
さよならのあとにたまごだカブトムシ	2年	古柳 貴築
たけのこがのびたら会える一年生	4年	大矢 昊
夏の空打てるといいなホームラン	4年	原田 恒陽
いねのほが前後にゆれてヨガレックスン	5年	伊藤利花子
夕焼けが一瞬見せるなみだかな	5年	太田 鮎里
こおろぎさんしいたけ傘であまやどり	5年	門田ゆりの
夏の空かがやく星に手をのばす	5年	黒木 嘉仁
初ぼんに帰ってきたんだおばあちゃん	5年	内藤 隼人
夏祭りめだかすくいにはしゃぐ父	5年	中島 捺葵

佐賀県

カブトムシかったはいいがさわれない	1年	みはらなおき
-------------------	----	--------

長崎県

おにぎりをぶーるのあとでたべたんだ	5歳	立木しゅのん
うんどうかいままのおにぎりえねるぎい	1年	石川 爽翔
びいまんはごつごつしてるいしみたい	1年	かい じょうたろう
らむねはねびいだまおちてふんすいに	1年	郡家 葵
あじさいさんみずいろのはこのつみきみたい	1年	迫 千菜乃
はやすぎるなつをいきるよかぶとむし	1年	高橋 由帆
さつきみたきゅうりがつりざおににてるよね	1年	とき けんしん

熊本県

きょうとれたつるはしのようなきゅうり	2年	くにち出さう志
しそのはのにおいがするよきようしつで	2年	たていし しゃ
きゅうりのねかたちはまがりぼくみたい	2年	野田はるき
夏のよるホラーえいがのゆめを見る	3年	小原 大和
目が光る色とりどりの花火見て	3年	松本 果穂
教室をまちがえちゃった春の朝	3年	山内 結月
くわがたに指をはさまれ夏のあと	3年	山崎 奏介
ゴーグルの先に見えたぞタコクラゲ	4年	木田 和聡
百キロ徒歩みんな完歩で顔涼し	4年	本田 龍
初めてのせみ見てわらうあかちゃんや	5年	繁光 聡志
かぶと虫夏の信長これにあり	6年	今泉 陽
原爆忌両手あわせる祖父母かな	6年	織田 朋
泳ぎたいビーチで目だけ泳いでる	6年	河野 旭

大分県

夏の日やかわいた風が中庭に	5年	若山健太郎
夏の海きみの帽子はきれいだよ	6年	川田原奈音
帰り道かみなりなつてみな走る	6年	川邊翔七陸
かき氷夜空の下で食べようよ	6年	吉田 紗夢
キャンパスに輝く青空進む筆	6年	青木さくら

宮崎県

ペンギンもすべりたくなるかきごおり	1年	山崎 惣士
人の声川に入ると水の声	5年	福家 蛍雪
夏祭りママのスカート目立ちすぎ	5年	渡邊 和
竹刀もつ手に汗にぎる一回戦	6年	黒田 紗良

鹿児島県

くわがたがはさんでなげててきたおす	1年	安藤 慎之助
さくらんぼほんぽんぽんぶつかって	1年	和田 あかり
あまやどりかさにうつつたいなびかり	2年	東村 妃乃
さわるなとざりがにあげた大はさみ	3年	上村 柚葵
つばめの子食事をしながら歌うたう	4年	山下 大輝
入道雲大きくなれよとぼくを見る	5年	田口 幸輝
カブトムシ昼はごろごろ私のように	6年	佐野 うらら

沖縄県

ハムスターばくばく食べる落花生	3年	金城 愛来
-----------------	----	-------

俳句

中学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

選者のことば

結晶の輝き

堀本 裕樹



堀本 裕樹
ほりもと ゆうき
昭和四十九年和歌山県生れ。
「蒼海」主宰。

たくさんの方の俳句をお送りくださりありがとうございました。
今回、特選に選んだ俳句をあらためて見渡してみると、それぞれバラエティに富んだ内容であることに気づかされます。

俳句は世界一短い詩型ですが、短いからこそさまざまな風景や出来事をぎゅっと凝縮させて詠むことができます、言葉の優れた結晶でもあるのです。

「光よりタダタと落ちる男滝かな」は、滝の風景を捉えながら、その音で迫力を伝えています。男滝を眼と耳で感じ取っていますね。

「偏差値よ線香花火の火の玉よ」は、進学の一つの目安となる「偏差値」という言葉を俳句に取り入れています。俳句は自然ばかりではなく、勉強という学生にとっての日常をもこういうふうに詠めるのです。また「偏差値」に夏の季語「線香花火」を取り合わせたことが、この句の手柄となっています。

「八月やひらたくねむるハムスター」は、動物を詠んでいます。ペットとして飼われているハムスターでしょう。家族の一員でもあるハムスターの寝姿を一句にした心優しさが伝わってきます。

「転校した友に顔似る案山子かな」は、友達のことを詠んでいます。転校していった友人を思い遣って、秋の季語「案山子」にその面影を見出しているのです。俳句では身近な人物も詠むことができるのです。

「薫風やただひたむきにバトンパス」は、リレーの光景を詠んでいます。俳句ではスポーツの一場面も描くことができます。この句は青春の一場面と言い換えてもいいかもしれません。

このように特選の句を分類的に少し鑑賞しただけでも、俳句はいろんな場面や事柄を詠むことができるのだと、その十七音の器の大きさに気づかれますね。

十七音の言葉に凝縮する作業は、なかなか骨の折れることですが、出来上がってみると、こんな魅力的に輝く結晶はありません。これから自分が興味を引かれた風景や出来事を積極的に素直に詠んでほしいと思います。

◆ 特選

堀本裕樹選

せみの声目の前の木がゆれている

埼玉県 北本市立東中学校 1年 石川 愛梨

夕風や墓石に蟻のはいまわる

神奈川県 関東学院中学校 1年 森 諒

夏祭りあふれる人と動かぬ木

東京都 海城中学校 2年 住谷 拓明

偏差値よ線香花火の火の玉よ

埼玉県 北本市立東中学校 3年 山田 広基

蟬の声の聴覚から木の揺れという視覚的な描写に移るところがおもしろい。目の前の木には多くの蟬が鳴いているのだろう。蟬の声では木は揺れないが、あまりの大声に眩暈のような揺れを感じたのだ。

海が見える墓地なのだろう。暮れゆく海原は風いている。一方、墓石には蟻が這い回っているのだ。一匹ではなく、墓に供えられた食べ物に群がっているのかもしれない。静かな海と動き回る蟻の対比。

夏祭りの風景を「あふれる人と動かぬ木」という描写で明確に捉えた句。人の「動」と木の「静」が対照的に詠まれている。鎮守の杜の大木だろうか。人と木が共生しながら受け継がれてきた祭りだ。

「偏差値よ」と詠嘆しつつ、その数値に対して複雑な思いを表している。そして線香花火の儚い散り際を描いた。火の玉はすぐにポトリと落ちるが、偏差値の数値は如何に。「よ」のリフレインが切実。

光よりダダダと落ちる男滝かな

東京都 海城中学校 3年 村上 蒼梧

八月やひらたくねむるハムスター

東京都 海城中学校 3年 関口 快成

夏祭り母を急かして帯結ぶ

愛知県 岡崎市立葵中学校 3年 喜多 茜音

ガタガタの草道進む夏の空

広島県 福山暁の星女子中学校 3年 梅田 絢惺

薫風やただひたむきにバトンパス

広島県 庄原市立庄原中学校 3年 児玉 成輝

転校した友に顔似る案山子かな

山口県 岩国市立玖珂中学校 3年 武舎 海碧

一対の滝で大きい方を男滝というが、この句はその水の勢いを真つ直ぐに詠んでいる。滝の水が流れ落ちてくる上の方を「光」と捉え、「ダダダ」と擬音語で一気呵成に水音を表現したところが爽やか。

ケージでハムスターを飼っているのだが、八月の暑さにバテている様子が「ひらたくねむるハムスター」に見て取れる。眠っている姿が可愛くて哀れでもある。「八」の字もひらたく眠る姿に重なる。

祭りに行くために母に手伝ってもらい浴衣を着ている。恋人か友人との約束があるのだろう。「早く早く」と母を急かして仕上げの帯に取りかかっているのだ。母と子のやり取りが眼に浮かんでくる。

むかしは「ガタガタの草道」は今よりもっと多かったように思う。まだ舗装されていない田舎道や畦道であろう。夏空の下、徒歩か自転車に進んでいるのだ。土と草の香りが立ち上ってくる懐かしい道。

リレーの練習か本番か。とにかく「ただひたむきにバトンパス」しながら、アンカーに託す光景が見えてくる。そのバトンパスを後押しするように薫風が吹いている。リレーメンバーの一通な姿がいい。

田んぼの中の案山子に眼を遣ると、転校した友の顔に似ていることに気づいた。案山子に友の顔を重ねて見ることは、まだその姿が忘れられないのだ。友を思う気持ちがさりげなく案山子に見出された。

◆ 秀作 堀本裕樹選

ひまわりや祖父の退院にぎやかに

岩手県 盛岡市立仙北中学校 1年 米倉 吟

テニスコートさびた蛇口をひねる夏

埼玉県 朝霞市立朝霞第二中学校 1年 吉田 琳

つゆの夜は半透明のゼリーのよう

東京都 杉並区立西宮中学校 1年 窪田 有夏

蝸牛青葉の海に身を沈め

東京都 杉並区立西宮中学校 1年 宮崎 奏怜

ばあちゃんと通う駄菓子屋夏休み

東京都 杉並区立西宮中学校 1年 柴田 崇平

弟もまた開けている冷蔵庫

東京都 大田区立大森第六中学校 1年 大橋 悠斗

セミよりも大きな声で「面」を打つ

神奈川県 関東学院中学校 1年 芝垣 陽平

春風にファイトファイトの声のせて

大阪府 東大阪市立石切中学校 1年 栗本 祐志

朝起きてドアを開けたら雪だるま

島根県 飯南町立頼原中学校 1年 藤原 拓大

さくらんぼ食べながら見る桜の木

埼玉県 川越市立福原中学校 2年 齊藤 莉子

白銀の楽器に光る真夏の陽

東京都 多摩市立和田中学校 2年 寺橋 奈月

黒塀に眼玉くぼんだ蟬のから

神奈川県 川崎市立宮崎中学校 2年 井上 泰然

隙間から蛇がにょろにょろまた君か

山口県 山口県立高森みどり中学校 2年 松本 哲也

黄金虫蒼い背中に風を抱き

岩手県 久慈市立山形中学校 3年 大上 利孝

夕焼けにホームベースが残される

秋田県 由利本荘市立由利中学校 3年 横山 里嘉

朝顔のつる巻きつけてすべり台

茨城県 那珂市立瓜連中学校 3年 先崎 祐理

カーネーション一輪握ってキッチンへ

群馬県 太田市立太田中学校 3年 磯 優衣

冷房室参考書だって震えてる

埼玉県 北本市立東中学校 3年 廣岡迪智子

向日葵の高さ毎日計りけり

埼玉県 川越市立福原中学校 3年 遠藤 梨乃

ポケットに一輪の花秋の空

埼玉県 川越市立福原中学校 3年 嶋田 美咲

初めてのカーテンコール風光る

千葉県 専修大学松戸中学校 3年 阿部亜理沙

日焼けした父の背中が四角形

東京都 多摩市立諏訪中学校 3年 高橋 陽

仏壇に温^{ぬる}き西瓜の匂ひかな

東京都 海城中学校 3年 橋田 結人

兜虫死して兜の重さかな

東京都 海城中学校 3年 尾崎 貫太

母の姿をひぐらしの鳴く道に

東京都 海城中学校 3年 阿部 瑛士

おじいちゃん金魚を素手でつかまえた

東京都 練馬区立開進第二中学校 3年 高橋 奏海

夏帽子飛んでゆきたる墓域かな

東京都 海城中学校 3年 三浦 志優

柚色の服を着た君雪の上

山梨県 駿台甲府中学校 3年 青木 颯香

掃除機で吸いこんでいる羽蟻かな

山口県 岩国市立玖珂中学校 3年 小川 隼空

背のびして本に届かぬ梅雨曇り

山口県 岩国市立玖珂中学校 3年 佛圓 日菜

万緑を真っ二つにし湖青し

福岡県 筑紫野市立筑紫野南中学校 3年 森高 壮介

風車百年迎えまた廻る

沖縄県 金武町立金武中学校 3年 安富祖勇樹

入 選 北海道

夏の山曲がりくねったへびのよう	1年	伊藤 雄飛
曹達水ガラスに映った祖父の顔	1年	大友 然
水ヨーヨー透けて見える夜の灯	1年	柴田 陽子
盆唄に慌て輪の中友探す	1年	堀 響太
台風が日本縦断ひとり旅	2年	荒関 翔太
苦手でもちよつと飲みたいソーダ水	2年	斉藤 真尋
カブト虫頭の角は他の希望	2年	杉崎 芽依
落ちば踏み新たな音が生まれだす	2年	松原 花那
城の塀桜で埋まる水面かな	3年	川本 美羽
甲子園二番草とつて暇つぶし	3年	木下 猛嗣
三日月の明かりに照らされ夢を見る	3年	小谷 和大
秋風が近づく音はヒグマのよう	3年	佐藤 夕斗
見下ろすと木々からもれる夏の海	3年	野崎 潤也
元氣だせ聞こえた声は銀河から	3年	薬師 瞭
雪解けとわずかに残るさびしさと	3年	山田 子竜

青森県

冷たいな右手のシッブが雪よりも	2年	松澤 空摩
息白し櫂も心も繋ぎけり	3年	岩谷 茉莉
福来たる祖母からもうお年玉	3年	葛西 萌
自転車に乗ってくる友海水浴	3年	川口 泰知
山眠る白い布団をかぶりつつ	3年	木村 結乃
うぐいすの声援を背に初勝利	3年	齊藤 伶香

夜越えて初鳥呼びし日の光	3年	田中 慶裕
ふれてみる雪だるまの手冷え冷えと	3年	中野 優奈
あじさいやしずく色づく紫に	3年	福井 未来

岩手県

出来るなら入道雲で眠りたい	1年	近江 桜奈
たけのこが押し上げている青い空	1年	長岡 青空
打ち水や水面が歌う水蒸気	1年	松井 佑大
ひまわりの見上げる空はただ青く	2年	久保 沙千
マフラーのアレンジ悩む女子高生	3年	伊藤 里桜
葉桜に余滴残りて午後三時	3年	川原 凜乃
陰一つ夕焼の中のしずかさや	3年	佐々木海人

宮城県

大の字にねっころがればせみの声	1年	長谷川大樹
十月の大きな夕日に伸びる影	2年	佐藤 小卷
陽炎に大きな背中隠れてる	3年	菊池 莉空

秋田県

空蟬と戯れし風は何処へ行く	3年	二見 幸成
---------------	----	-------

福島県

友達と紫陽花と雨と静けさと	3年	五十島暖人
台風の波がとどろく日本海	3年	加藤 翔貴

射法八節猛暑も受験も呼吸の中
僕の目にそうだいに降る雪あられ

村上綺愛羅
山本 皓星

茨城県

向日葵が狼の真似一輪で

小沼 直也

縁側で鳴るは風鈴祖母の声

加瀬 柚妃

祖母の手とヨーヨー握る夏祭り

川瀬 日菜

ただ泳ぐ世界を知らぬ金魚たち

柴山 優果

いつまでも思い出のせるかたつむり

杉森 明奈

花火みてふつと感じたせつなさや

瀬畑 凜果

盆休みテールランプは大蛇かな

高木 皓冬

いきいきとぼんりよくのなかはしるむし

高野 裕貴

ひまわりにぶつかり落ちる夕陽かな

西野和香菜

奏で合う文字書く音と蟬の声

萩野谷 茜

ヒューヒララ水面で遊ぶ紅葉かな

藤枝 葉菜

海を見る君の横顔淡い夏

藤田 葵

夏終わりしぼんだ浮き輪なつかしく

龍崎 和真

群馬県

赤とんぼ真っ赤な夕日に包まれる

島田 悠平

埼玉県

うれし泣き雪解けの顔光さす

関口 蒼唯

朝起きてかたがいたいぞ日焼かな

飯田 彩斗

一日の短き蟬に似ていたり	2年	櫻井八空雲	音だけの見えない花火自習室	3年	蓮池 未澄
せみが鳴く大会の日はうれし泣き	2年	佐藤菜々夏	山の中光とせみのミュージカル	3年	馬場 慶斗
コンクール雨の向こうに虹が出る	2年	田中 美桃	彼岸花夕焼色に染まりけり	3年	濱田 美佑
爽やかな空を見上げた田んぼ道	2年	仁村 玲哉	残暑にも負けるなゾウの鼻シャワー	3年	久永 志帆
秋桜がゆれて我が心もゆれる	2年	福田 雪乃	賑やかに玄関先の雀の子	3年	森谷 美月
ひまわりが日の号令で前ならえ	2年	見澤鼓太郎	千葉県		
山の中草木がゆれるかぶと虫	2年	山崎 華伶			
帰り道だいたい色の夕立や	3年	新井 歩典		1年	石田 智哉
夏の山白く見ゆるは山の息	3年	石田倫太郎		2年	鶴澤 律輝
菜の花や水面にうつる城下町	3年	岩崎 蓮太		2年	土肥 睦稀
ラムネビン中をのぞくと昨日と今日	3年	大片 美桜		3年	味香 美慧
梅の花ひとりぼっちの三角州	3年	岡元 祐樹		3年	荒木 颯明
大木に命轟く蟬の声	3年	尾身 優菜		3年	鹿川 悠太
胸さわぎネズミ花火のような夏	3年	金崎 愛未		3年	黒澤 勇翔
金木犀丘にポツンと一本美しきかな	3年	木田 大登		3年	小出 悠斗
トンボ玉もよう選びになやむ夏	3年	黒田 麻緒	風涼し友の背中と銀閣と	3年	國分 萌
扇風機やる気の風を運んでる	3年	小平 咲妃	陽炎を追いかけて走る青春か	3年	佐伯英莉衣
花火見てまた来れたねと母の涙	3年	酒井 美玖	夜桜よ舞えや踊れや闇の夜に	3年	佐々木陽香
墓参り小さい頃を思い出す	3年	鷺山 空良	紫陽花の落ちる雨音スタッカート	3年	芝田 涼輔
空見上げ時よ止まれと願う夏	3年	下館 綾菜	汗落ちる黒光りする瓦屋根	3年	竹内 冬真
夏期講習通う足取りかたつむり	3年	須藤 千陽	走る坂風鈴鳴れば我戻る	3年	竹田 菜々
胸が鳴るそれは花火と君のせい	3年	武井 琴花	向日葵と同じ方向く私かな	3年	田中 明穂
五月雨や黒板のまだ消えぬ傷	3年	中山友里奈	鈴虫のその声一つで風がふく	3年	中村麻衣里
空蟬や風に揺られて見え隠れ	3年	西澤 知依	雨あがり大きな足をおろす虹	3年	中村 美優

水打ちの音をたよりに進みけり	3年	野本 優羽	水たまりどれものぞくと梅雨の空	1年	園田 茉悠
夕焼けに皆の背中しみじみと	3年	馬場隆之介	ふうりんがなるたびかんじるかぜのこえ	1年	竹上 愛梨
炎天や光り輝く金閣寺	3年	樋口 瑞樹	風が吹きページのよう過ぎる夏	1年	橘 胡桃
参拝の始まりかける日向水	3年	平井 紅葉	梅雨時の校庭につくみな足あと	1年	寺本 理咲
蜜柑むく祖母の背少し曲がりけり	3年	増田 百花	紫陽花や去年を思ふ背くらべ	1年	中野 珠実
京の川光り輝く青葉かな	3年	松戸 梨花	夜の灯に浴衣姿の君がいる	1年	西ノ園心哉
川下り赤ちゃんの鹿突然に	3年	本井 寛大	日を浴びてびかぴか光る葛饅頭	1年	藤井 凜
冬月夜猫のぬくもり感じねる	3年	山内 威人	夏色に染まる私はカメレオン	1年	藤田 佳月
銀閣寺歩を進めれば苔の花	3年	山崎 奏	帰り道急ぐ私に祭 笛	1年	松井 絵磨
泳ぐ雲空のラムネの瓶ふたつ	3年	龍 湖雪	原爆忌火傷を負った写真の子	1年	三浦 聖央
海水浴足に違和感ナマコかな	3年	若林 美来	夏の匂いしげった青葉ころろづく	1年	三崎 莉愛
夏の朝四人そろってねぼうする	3年	若生 晴香	道ばたにころろと落ちてるかたつむり	1年	宮崎 暖日
走りだす風のおいに春一色	3年	渡邊 咲美	この耳に花火の音がはなれない	1年	山下 鼓夏
東京都					
せん風機大きな夢をかき回す	1年	岩崎 桜子	せみしぐれハンカチを手をパスを待つ	2年	青木 俊太
川の瀬に銀河をつくる蛍かな	1年	大竹未来隼	虫の音や夜の静けさ光らせる	2年	赤井 日咲
腕まくり線香花火対決だ	1年	大竹 好咲	塾のドア子の溢れ出る夏の夕	2年	赤羽 真祐
夕立で散歩に行けない犬の顔	1年	岡村まどか	夏がきた私の体はまっくらだ	2年	阿久津心菜
見上げれば無数の星が思い出に	1年	河原 空良	能登の海水面にうつる月明かり	2年	植木 楓也
線香の風が抜けるよ竹まくら	1年	高 寿理	建物の影に隠れる百合の花	2年	植竹 莉未
打ち上げ花火音につられて指揮をする	1年	塩澤 里美	ひつついて足の抜けないアブラゼミ	2年	大熊潤之介
僕はここ生きる証を鳴らす蟬	1年	陣野涼々葉	山風にドローンの如く落葉舞う	2年	大野 勇一
夏休み旅行する人しない人	1年	鈴木 実結	僕らへ青春おとしてゆく花火	2年	川口 颯汰
			夏の風海をほえさせ吹きぬける	2年	北原 脩佑
			手を広げ「今年は着れる？」母の浴衣	2年	久賀谷聡美

しのびよる家の明りにやもりかな	2年	佐藤 志保	残雪の隙からのぞくアスファルト	2年	毛利 一仁
手を撫でてするりと零れる夏の海	2年	佐藤 未来	夏休み汗の分だけ強くなる	2年	森 和浩
イヤホンの音色をかき消す蟬時雨	2年	清水 智治	しゃぼん玉夢ふくらませ光りけり	2年	山越 雅行
高速路車窓に月の走りけり	2年	徐マイケル	もういいかい夏の返事はまあだだよ	2年	山中 美樹
蟬の音木陰にひそむ夜の熱	2年	鈴木 愛衣	ただいまと同時に飲み干す麦茶かな	2年	山本 若菜
月の夜華を咲かせて会いに行く	2年	高津 光来	そびえたつ青さが盛る夏山や	2年	横田 雄飛
黒部ダム水がかき消し蟬の声	2年	竹内 柊	静寂や夕日に染まる蟬の羽	2年	吉田 陸人
ペランダがせんこう花火に照らされる	2年	田中 慈央	ひまわりや廃線沿いのラーメン屋	2年	吉田 蓮生
向日葵が真上を向いて花咲かす	2年	田中 千晴	暑い中一心不乱竹刀振る	2年	渡邊 智
闇破る打ち上げ花火の矢継ぎばや	2年	田原帆乃佳	「見て！虹だ!!」皆空を見るそれが好き	3年	白鳥 はる
夏休み世界を横目にひと眠り	2年	千葉柚都花	その青さ恥じることなく竜舌蘭	3年	高岸 快慈
さらば夏ぬるいサイダー飲みほした	2年	中里龍之介	ちっぽけな自分見つめる冬銀河	3年	相賀 芽衣
校門を出た瞬間にサングラス	2年	中島 丞偉	過去帳の安政の文字送り盆	3年	相川 泰輝
コンピニで友達とまつ雷雨かな	2年	西村 和真	夏祭りラムネに頬でキスをする	3年	明石 英里
七月の裸足の爪は赤く塗り	2年	仁宮 花歌	送り火が灯る我が家に祖母の涙	3年	浅沼 渚紬
夏の夜セミが助けを求めてる	2年	馬場 智也	春の陽に時計輝く新人類	3年	阿部 叶夢
梅雨開けて空にふくらむ亭午かな	2年	原田 銀十	夏休み強くなるため汗をかく	3年	有澤 真里
揚花火空一面を焦がすごと	2年	平林 大知	滝の音は響き続ける永久の空	3年	安藤 國臣
夏が来た僕の心も熱くなれ	2年	廣瀬 樟大	衣更新たな希望湧き上がる	3年	石原 大
ひぐらしや木から落ちゆく夢半ば	2年	福島 光起	馬生れて豪雨びたりと止みにけり	3年	一井駿之介
夏思いいつかは忘れるせつなさや	2年	古川 友弥	行水に悟りを開く陸上部	3年	伊藤 隆臣
汗ぬぐい子供に囲まれボランティア	2年	古田千咲子	ホームラン遥か彼方に夏の雲	3年	今村 友美
炎天下シューズの音が鳴り響く	2年	堀江 美亜	夕焼けを背負った雲が一ついる	3年	梅園 友理
流ればし後ろ姿に髪飾り	2年	村田 匠	泣く夜の雷を背に母一人	3年	大石 尊裕

入 選

君想い薄まってゆくアイスティー	3年	大野 瑞葵	ちつていく打ち上げ花火と私の恋	3年	副島 美奈
夕焼に僕らの面影残してく	3年	尾形 優模	雲海に一つ浮き出る夏みかん	3年	高野 耕陽
髪洗う明日の私に出会うため	3年	加藤 千春	セミの声ペンの音にかき消され	3年	瀧澤莉々咲
盆の墓祖母の歩幅が挟くなる	3年	金光 賢門	トンボ舞いデッキブラシの影伸びて	3年	玉井 菜々
宿題やラムネの泡を愛でながら	3年	川崎 碧	向日葵のように顔上げ上目指す	3年	中井 美咲
地蔵盆家引きこもる子供かな	3年	岸 凜太郎	涼風を感じるままにホヤ食す	3年	中川 暖菜
お花見か花見る自分を見てるのか	3年	北川 隼輔	靈天の黄色になりて湖西線	3年	中島 千尋
ひとけない水辺に映る花火かな	3年	木村 理緒	小牡鹿の見上げた先は赤いかな	3年	中西 理
夏空に響く声たち懐かしく	3年	金田一光春	雷や受験勉強音もなく	3年	中村 理仁
放課後の鴉の森と十葉と	3年	久住 和輝	潮風と共に去りゆく夏休み	3年	西口 琉久
靴汚し練習続行夕立晴	3年	久利 綾乃	金魚みて悲しい別れ思い出す	3年	二村乃絵花
グラウンドセミと勝負か応援歌	3年	黒川日向子	衰えぬ蟬の魂降りそそぐ	3年	根岸 明美
バラ園や昼の空にも星あまた	3年	黒瀬 隼吾	初田植えやって分かったつめ切るわ	3年	野口 遼
頭には単語しかない夏期講習	3年	小池 青龍	通学路金木犀が壁となる	3年	朴 世実
向日葵が見上げる空は無限大	3年	古賀 太智	息を吸い全身巡る夏の風	3年	橋本 実咲
信号機ハンカチ持つてまっている	3年	古源 文	梅雨空を見上げて思う進路先	3年	秦 大貴
原爆忌一筋風にゆられけり	3年	古宮 祥太	からっぽのただただ青い夏の空	3年	林 絢音
ラムネ買いその顔を見て笑い合う	3年	小宮山力樹	店内の賑わい乗せて夏暖簾	3年	日比野文音
背中にはお疲れ様の汗のあと	3年	齋藤 彩花	戦争の最中も蟬はただなくの	3年	深見 啓太
浴衣着た幼なじみに染まる頬	3年	佐伯 美結	鉢の中巨都を見わたす金魚の目	3年	前田 絢香
女子たちで看板作り風薫る	3年	下田 実璃	目をとじて花火の光のこりけり	3年	水本 華
青春の空に流れるしゃぼん玉	3年	関根 侑生	夜が明けてすずめが一人ささやいた	3年	三谷真貴香
決選の前に一口氷水	3年	関本 珊瑚	売れ残るレモンを買いし原爆忌	3年	光武総一郎
太陽に負けじとひかる私の汗	3年	千田 泰聖	息潜め影さえ見せず岩魚釣り	3年	三原 諒也

走り出す積乱雲の根元へと
この音が心に響く花火かな
夕立や駆け込む茶屋の抹茶ラテ
慎重に歩む浴衣のうしろつき
せみしぐれイヤホン越しに鳴り響く
月の上嬉しくもがく金魚の夜

草むしり軍手に染みた玉の汗
たんぽぽの中にカエルの飛びにけり
向日葵がリンと咲いてる帰り道
五月雨が私の視界に線描く
蓮の葉と水面に浮かぶ金閣寺
薫風の静けさ満ちる龍安寺
五月雨の窓に響くはシヨパンかな
青々と茂る畑とえぞ富士と
国宝にいくつかあった蜘蛛の巣が
金魚鉢思い出だけが泳いでる
銀閣をひきたてている夏木立
甲子園バットで酷暑を打ち放つ
夕焼けに光沢のあるみみずくや
雲海の広がる下は異国かな
五月晴伏見大社がそびえ立つ
万緑に少し隠れる銀閣寺
しゃぼん玉ほっぺのようにやわらかい
竹林を南風がカラコロ過ぎていく
赤色の鳥居と青葉どこまでも
浴衣着ていつもと違うりんごあめ
万緑や千本鳥居の赤光る
奈良公園歩けば欲しい夏帽子
夏の夜新幹線がよく見える
夕焼けにむかってあるくかえり道

神奈川県

散る花火心の中でまだ照らす
夏の空私の心と同じ色
夏の夜昼とは違うオルゴール
夏休み家で一人の勉強会
ふうりんにキレイなかがあたりゆく
陽炎でゴールラインが動いてる
風鈴が風と一緒に歌いだす
ひまわりの強さが欲しい登校日
せせらぎの中に冷えたる西瓜かな
朝顔が朝が来たよとラッパ吹く
いらつしやいのれんがわりに藤の花
白南風やみなの声援大空へ
あじさいの葉につく雫光る朝
風をきる新幹線にさす西日
神様がたくさん泣いた今年の梅雨
興福寺夏の足音告げる鐘

井尻 有紀
中能 梨里
仲松 真弥
芳賀 大飛
古屋 陽香
室田 晃
山田 愛菜
渡部 司
矢森 奏多
桂川 知大
青木紀里香
赤池 弥生
赤荻 一輝
池村 剛一
石渡 茉帆
磯口 礼斗

葉桜の黒き日蔭に入りけり 3年 平松 聖
 蟬時雨なぜだかいつも懐しい 3年 松下 花葉
 緑陰の湖面にゆれる金閣寺 3年 松本 蓮史
 薫風の流れをたどる枯山水 3年 宮岡 優羽
 初夏のバス耳をすませば京言葉 3年 宮崎優光奈
 授業 中入道雲と夢の中 3年 百瀬 創弥
 亡き祖父の笑顔重なる大花火 3年 山口 一心

新潟県

炎天下三冠目指して駆けぬけろ 1年 遠藤ましろ
 風鈴が思い出させる祖母の顔 1年 本間 七海
 こいのぼり泳ぎ青空きらめかす 2年 秦 八雲
 見上げても変わらぬ気持ち花曇り 2年 本間 愛梨
 山々に夕日が浮かぶ秋の風 2年 村山 啓成
 夏のカレー少し辛めが祖母の味 3年 大岩 柚実
 次の夏が来てもとなりに君はいない 3年 久保田 渚
 亡き祖父の残してくれた梅ジュース 3年 小林かな
 セミが鳴きいいよ今年も合唱祭 3年 高橋 拓也

富山県

セミの声走る私の応援歌 1年 小川 愛純
 夏終盤平等院だらけの財布 3年 大平 風蓮

山梨県

参道で出会ったカブト子に譲る 3年 井出 美優
 春の日に遠く見つめて友を待つ 3年 小佐野愛美
 桜咲く木の下で俺恋をした 3年 小泉 椋平

長野県

軒下と同じ顔したつばめの子 2年 林 真奈美
 卒業生広い世界へ歩きだす 3年 大倉 駿介
 逢いたいと胸でふくらむ祖父の百合 3年 金子 詞音
 扇風機前はゆずらぬ父と犬 3年 紫芝 亜月
 梅雨雲の低く垂れこむ山野かな 3年 中嶋 翔太
 寂しげな姿は見せず雨蛙 3年 原山 怜
 夏霧に隠れ輝く緑かな 3年 柳澤 智

岐阜県

白帯をきつく結んだ秋の空 2年 河井 咲良
 夏帽子ばあちゃんの顔よみがえる 2年 竹腰 澄泉
 夏服を着て派手に吹くトランペット 2年 柳生 美紀
 数学のxとy汗だくだ 3年 犬飼 彩月
 夏空に響け私のトランペット 3年 宮川 莓花

静岡県

中庭でブランコに乗り夕涼み 1年 伏見梨華子
 縁側で見える若竹祭の音 2年 米本 烈

アスファルト夏の光を全身に	3年	青木 裕壯	あじさいに大きなパールひとしずく	3年	伊藤 綾乃
太陽が照らし輝く空蟬や	3年	朝井 菜月	のんびりと生きて夢みる海月かな	3年	伊藤 壮
父母と川の字で寝る熱帯夜	3年	内田小百合	流れくる風に誘われまた昼寝	3年	上新 大雅
泣きながら母を探した夏祭り	3年	榎本さくら	くつしたをひきあげ今日は入学式	3年	植田 瑠果
テキストが真つ赤に染まり夏終わる	3年	大石 梨乃	春風におされて最後の通学路	3年	上村 杏
涼風や足音たてぬ二年坂	3年	大場 脩	テレビ見て食べる大きな冷奴	3年	押田 圭人
現実と蜻蛉に追われ走り出す	3年	北村 なな	日照らす氷のようなせみの羽	3年	小野 未来
本番前楽器が照らす光る汗	3年	久保池和娃	暗闇や微かに抜けるは避暑の風	3年	加藤 賢斗
夏の雲机に置かれた白い紙	3年	小長井涼華	梅雨が来て大きな窓が自由帳	3年	川本 レイ
卓上のノートに一つ汗光る	3年	館岡 岬	炎天下平和の炎見つめる目	3年	北川 雄基
新緑の香り立ち行く東福寺	3年	洞口 祐	東光寺暑気照り返す鬼瓦	3年	栗林 和輝
入梅や御所の赤松手にやさし	3年	松村 春軌	シャボン玉未来に向かつてとんでゆく	3年	小林 悠香
入道雲消す勢いでラッパ吹く	3年	望月 優	白蛇よその赤い眼で何を問ふ	3年	駒澤 柁
新緑と共に輝く渡月橋	3年	吉永 花葉	夏の空肩をならべて見上げてる	3年	五味優唯奈
噛み締める青春色の夏の空	3年	渡邊 萌香	幕末の志士達眠る夏の萩	3年	境 悠太郎
愛知県					
ひとつずつ線香花火が終わるまで	1年	尾羽 柚姫	あの制服着たくて頑張る夏休み	3年	三治里穂子
旅行先大きい鮎にかぶりつく	1年	眞野 日鞠	花曇りその向こうにはあなたの手	3年	鈴木優里菜
紅い帯なびかせ踊る祭りかな	2年	加藤 玲奈	登山する大きな虫も一休み	3年	高野 孝太
自己ベスト絶対出すぞ夏休み	2年	寺田果菜乃	汗拭うスパイクの跡校庭に	3年	武野 透和
夏終わりとつさみしき体育館	2年	本田 望紘	夕焼はすぐきれいで君のよう	3年	寺内 絢音
熱帯夜地球のお熱いつ治る	3年	阿知葉月愛	蟬の声大工の動き鈍くなる	3年	中川 心晴
桜散る別れを告げた吾のように	3年	アリゴレスキー	砂の上大玉すいか真つ二つ	3年	西尾 藍人
			目を覚まし向こうの家の屋根の雪	3年	西田俊太郎

おはようと空を押し上げなつみかん 3年 西原 大基

麦茶飲みまた麦茶飲み勉強中 3年 原 亜沙希

思い出す葡萄をくれた歩けた祖母 3年 原田 昌明

炎天下大地をけつて球を追う 3年 福島 芭菜

水無月や瀬戸大橋にかかる虹 3年 馬淵 浩結

梅雨の中大きなつぶが僕を射す 3年 光岡 大晴

ヒロシマの夏の青空にぎりけり 3年 山田 和輝

天の川相對するは最上川 3年 山本 宗

夏の日のサーブ打つ時光の矢 3年 山本 大悟

水筒の水ぶつかる夏の音 3年 渡邊こはる

梨の皮私のそばかすおそろいね 3年 渡邊 真吟

三重県

夕立の泥にまみれたユニフォーム 3年 赤池 真空

雪汚す君とは会えず年の暮 3年 浜口 拓己

雨蛙 住まいは青か紫か 3年 原田 湮玖

あきのよるちいさきもののうたひびく 3年 山田 龍桜

滋賀県

縁側で犬とならんで花火待つ 1年 勝見 理

精霊舟弾ける音とかやくの香 2年 松田佳央理

朝露が葉からぼとぼと落ちてくる 3年 片山 未奈

アスファルト陽炎ゆれる川へ行こう 3年 川畑 千優

炎天下最後の一球あきらめず 3年 岸 咲月

暑い夏試験に向けて走り出す 3年 田中 伴祈

大阪府

寝坊して遅れて急ぐ入学式 1年 姫野シェイン

潮風に揺られながらも漕ぐ手に汗 1年 青木愛咲花

青々と輝きはなつ山若葉 1年 上杉 百音

心の声歌っておくれ鶯や 1年 金森 汐

息合わせ飛ぶ大縄にはねる汗 1年 河智 茉耶

海の中海月と共にボートこぐ 1年 高田 悠真

汗ぬぐいボートをこぐ手まめだらけ 1年 竹谷 月姫

あぐらかき静けさの中初夏の風 1年 成瀬 茉央

鶯の鳴き声響く校庭に 1年 樋口 柚郁

登校中歩いて行くとつばめ鳴く 1年 藤本 柊楓

入学式リボンを結び会場へ 1年 武藤 杏奈

桜の木終わりの始めもそばにいる 1年 村上ののか

初夏の寺耳に残るは喝の音 1年 吉住 可穂

大きめの学ランを着て入学だ 1年 和喜 昂空

春風と不安をまとい進みゆく 1年 渡辺 健太

僕たちをやさしく見守る桃の花 2年 浅原 陸

入学児昔の自分と重ね見る 2年 石塚 大智

春の風未知の世界に吹いてゆく 2年 加治屋竜誠

下町の景色を変えた斑雪 2年 楠田 凌矢

残雪が不安とともに消えていく 2年 櫻井 柁輝

春が来る新しい友が待っている 2年 神藤 康平

祖母の家裏庭で鳴く鶯よ	2年	田邊 裕獅
桜咲き遠くで暮らす兄思う	2年	深井 涼香
生駒山辺り一面桃の花	2年	前堀 大貴
ハンモック雲の隙間に光る星	2年	前山 奈月
汗ばんだはちまきが風になびいてく	2年	松中 彩菜
桜咲くバドミントンの羽根白し	2年	松本 晴愛
柔道着春風とともに背負い投げ	2年	毛利 柚妃
飼い猫の窓越しの恋微笑まし	2年	横山 葵子
夏の海友とかぞえる星の数	3年	石橋 芽衣
さざ波の美しき声島の夏	3年	井戸木夕陽
五月闇ものさびしげなブランコや	3年	岩本 風汰
夏の空平和感じる風たちよ	3年	宇都 遥香
大山の大地彩る夏の色	3年	門田 優希
祖母の声思いうかべし盃蘭盆会	3年	坂原 樹
手をのばし桜の花びらつかまえた	3年	塩見 朋
春風に背中をおされ胸をはる	3年	嶋田あゆな
切りぬいて持ち帰りたい夏の月	3年	徳永 凜歌
ラジオから流れる歌もうららかに	3年	西側 未唯
鍵盤の音を奏でる春の雨	3年	富士原佳那
祖母想い汗拭いつつ草をぬく	3年	山本 颯空
糸の家小さい蜘蛛の子いそがしい	3年	高吉 義人

奈良県

夕焼けをじつとながめる金剛山	1年	植田 歩美
梅雨空とクラリネットの七連符	1年	窪上 裕太
あと五分十分十五分の冬	1年	澤井 紗良
新緑の長い坂道ベダルこぐ	1年	澤井 佑樹
烏瓜中に眠りし大黒天	1年	本田 滉太
ひな人形仕事をおえてどこへいく	3年	梅本 茜
くつひもを解く間もおしくソーダ水	3年	曾我 響月
採りたての真つ赤なトマトがぶりつく	3年	于 風梅

和歌山県

夏空にいろんな未来映っている	1年	川村 綾菜
----------------	----	-------

島根県

冬の暮ホルンが山に響きけり	3年	石飛 里菜
百日紅枝を撫でれば木が笑う	3年	今若 優子
燕の子「おかえりなさい」と顔ゆるむ	3年	内田 風香
部活帰りやさしく包む雪あかり	3年	梶谷 侑香
梅の花ぼつとこころに咲く花だ	3年	吉川 晃正
サンダルの三人姉弟影法師	3年	児玉 朱音
墓参り桶の水面に映る祖父	3年	原 永佳
秋の庭赤に黄色に色がふる	3年	森山 苺珂
春深し奉納絵画入選す	3年	米山 凌雅

岡山県

冬の夜ぬくもりくれる家の中	3年	明石凜太郎
イノシシは夏バテ知らず今日も来る	3年	大賀 裕介
帰り道不意に飛び立つ稲すずめ	3年	小比賀淳太
真新しい夢をまとった春の朝	3年	久戸瀬未優
日の盛不安な世界を照らしてる	3年	津田菜々子
初桜みんな楽しいお弁当	3年	中野 美優
下向くなひまわりのように前を向け	3年	西野 蘭
目が合って火照るからだにソーダ水	3年	三宅 美桂
葉の裏でひそかに生きてるかたつむり	3年	山中 大聖

広島県

夏の空雲の形で夢を見る	2年	岩田 三鈴
他の人が大きく見える夏の午後	2年	高嶋 菜智
おにごっこふぶきのなかで鬼がくる	2年	谷本 菜瑠
粉雪に孤独をつつみ目を閉じる	2年	寺本 美海
祖母の背に薫る線香花菜漬	3年	天羽 壮馬
渡り鳥窓から見えた新幹線	3年	石倉 結
受験生切羽つまって空を見る	3年	井上 智也
体育祭暑さに負けずくらいいつく	3年	上杉 蒼空
いつになく心とゆれる青葉かな	3年	奥井 彩乃
日の盛木影追いかけて帰る道	3年	笠原 海香
告白を桜の木だけがきいていた	3年	片山雄一朗
授業中ウトウトこっくり木の芽風	3年	佐々木郁穂

コマ回る軸はぶれずに我が道を

せいくらべ美し垂氷に手をのばす	3年	嶋崎 美月
新緑を輝かす陽は白く照る	3年	鈴川 沙都
消えてゆく命もなんの蟬時雨	3年	高橋 霞
日差し浴び輝く金の麦藁帽	3年	田中美和子
ブランコを立ちこぎしつ散る桜	3年	田邊 大智
卓球場夕立聞こえぬ熱気かな	3年	谷本 瑛菜
バスケットコートの中で蟬しぐれ	3年	中谷ともみ
チューリップ君の笑顔もいろとりどり	3年	西原 拓海
扇風機青いビー玉まわるまわる	3年	野津 聖吾
幼子にぱちんとはじけるしゃぼん玉	3年	畑山 美空
秋涼しピアノの音色響かせる	3年	藤田 彩加
ひまわりが照らしてくれる洗濯物	3年	藤原 希星
五月雨や忙しく動く人の影	3年	前田 彩花
春愁や壁を隔てて友の声	3年	松田 靖香
背中押す友達の声 初桜	3年	三浦 莉紗
赤んぼやいずれ綺麗なちようになれ	3年	向井ひなの
	3年	森本 夏海

山口県

ひまわりの涙の種が落ちている	1年	藤井 琴子
朝顔に名前をつけておはようと	1年	冬廣明日夏
失恋の姉と無口のかき氷	2年	金井つぐみ
赤や黄の紅葉の水私はすくう	2年	桐田倅之介
冷蔵庫西瓜とお茶が陣取った	2年	高須 琉乃

手を触れしドアノブに夏兆しけり	2年	中井 七海	草がめよ石の登山が好きなのか	2年	梶 晶佳子
手袋の指の間に白い雲	2年	中村 花菜	夜が明けて黄金輝く菊の花	2年	山川 慶翔
向日葵が日光すいとり消化中	2年	村上 愛梨	大会の悔し涙よセミの声	3年	池田 愛美
五月雨の中に浮かんだなぞの塔	3年	井上 純	衣更えオセロのようだ教室が	3年	尾神 唯
背番号外して終わる夏休み	3年	河村 諒大	神立に三千メートル走りきる	3年	楠 悠真
かゆくなる蚊が飛ぶ音を聞くだけで	3年	窪田 皓	さえずりや朝なぎの浜何話す	3年	久保田嘉伸
五月晴自分でつかむと決めた夢	3年	重政 月渚	夕立や水面に映る友の影	3年	栗田みずき
受験生一度未来を見てみたい	3年	鈴木 優	黒猫の毛の色光る月明り	3年	中嶋 榊
チューニング終えて舞台に挑む夏	3年	ソリアノ瑠大	春さきに目がさめて熊大あくび	3年	西岡 海空
蚊をたたく真剣な顔武者のよう	3年	辰岡 友恵	自転車で見わたす限り田植かな	3年	古河 政樹
祖母からのトマトできゅうくつ冷蔵庫	3年	津々木美結	子どもの日出てきた大きなオムライス	3年	村上 理子
噴水や寄っては逃げる園児たち	3年	橋本 沙紀	福岡県		
積み上げた宿題を見てサンガラス	3年	平林 遼大			
幼子が水面のぞきて緋鯉去る	3年	福重 桃華			
ひまわりを撮るふりをして君を撮る	3年	藤本 笑穂			
ドア開けて顔で感じた春の風	3年	舟井 巧美			
げた鳴らし町練り歩く夏祭り	3年	松本 歩紀			
応援の声吸いこまれ夏空へ	3年	宮内ひとみ			
授業中はえの動きを追う目線	3年	村岡 珠美			
愛媛県					
ヒグラシやシュート一本決めてやる	1年	瀧岡 暉斗	xの値と進路に悩む夏	2年	新原 杏音
うぐいすは友達呼んで悩み相談	2年	井上美沙姫	おやすみとメールをしたが夏の夜	2年	高野 欧祐
土手の上火花が映る白い靴	2年	大本 晴香	金魚柄の甚平はおる妹や	2年	田河 心遥

入選

水族館白い海月が光ってる	2年	田淵 煌征
オリオン座君は僕の夏のはじまり	2年	津城 希
夏祭り遠くに見つけた君の顔	2年	松田 真実
境内の風鈴ゆらす千の風	2年	松本 咲菜
かたつむり世界の果てまで突き進め	3年	宮崎 春陽
釣り人に近づく光る目は子猫	3年	上野 裕峰
川の中夏の日差しがすきとおる	3年	上妻 洋翔
夕焼けのバス停ひとり影が立つ	3年	柴田 知歩
かまきりやバッタを追ってはかぶりつく	3年	下川 綾
夕立や八の字眉と腕時計	3年	高瀬 颯斗
雪の中一羽のからす空を見る	3年	高野 初菜
砂の上ギリリと光るサングラス	3年	平松 旭礼
ゲレンデは私の大きなすべり台	3年	藤永 阿美
朝顔の雫の先の青い空	3年	増田 祥大
打ち上がる花火がかざるコンサート	3年	油布 凌菜
受験生花火に合わせて丸つける	3年	吉田 萌恵
		渡邊ゆきな
佐賀県		
はなびみてばとおどろくきみのかお	1年	大石 玲於
さらさらと稲の海原話す声	2年	白武 実聖
灯籠の光を胸に願ういま	3年	池田和香奈
晴れ渡る残暑の空に手を振った	3年	梅畠 爽太
サンダルのまま足洗う夏の川	3年	江口 栞奈

うぐいすの音色と共に君の声	3年	川口 瑠斗
ボール投げ見上げた空には続く虹	3年	川原 夕佳
夏休み部活動へと走る君	3年	草場 弘夢
張りついた前髪はがす扇風機	3年	杉光 咲彩
赤蜻蛉迷い迷いて飛ぶ日かな	3年	鷹巢 凌
霜柱踏めば鳴るなり旅の途中	3年	武富 友希
盆が来てふと思ひ出す祖父の笑み	3年	中村 陽斗
蝸牛雨止むまでに帰宅せよ	3年	引田 伊織
かぶと虫あつい戦い始まった	3年	福川 琉衣
おとなしい視線の先には窓の虹	3年	古川 優衣
白い息みんな喋ればけむりかな	3年	前田 胡奈
おだやかな風にゆらめくさくらそう	3年	松尾 海渡
そうそうと夜風が涼し川べりの	3年	室永 周里
静けさが紅葉とともに舞い落ちる	3年	山中 更紗
帰り道我が肩ぬらす時雨かな	3年	山本こころ
長崎県		
お墓へと花火手に持ちかけてゆく	2年	中村 莉万
落ちてゆく線香花火とときめきと	3年	永野 桃花
熊本県		
砂浜で方程式を解いた夏	3年	池田 楽
新緑の中にこぎ出すペダルかな	3年	佐合 紬
春雨のさたさたとふる温かく	3年	藤本 大世

ふり下ろすぼうしの中に赤蜻蛉 3年 森田 大樹

鹿児島県

もやもやの十四の心いわし雲 2年 青木丈一郎

さそり座が大きく見える夏の空 2年 石神 悠大

けがをして思い出がない夏休み 2年 上窪 樹莉

朝起きて五月雨の運んできた頭痛 2年 田代 宗伸

時止まれ忘れたくない花火かな 2年 鶴田 晃士

一本の花火片手に向かい合う 2年 中野 愛葉

夏祭り君を待ってる五分前 2年 久永 綾乃

青空にくもの糸かな飛行機雲 2年 二見真璃歌

炎天下これは「晴天」で済まされない 2年 脇田龍之介

太陽を飲みこんでいく夏の海 3年 荒木 太智

行く春や全てがラスト十五歳 3年 甲斐 楓

夕焼けの空に落書き飛行機雲 3年 中村 巧真

どこへ行く私を待たない入道雲 3年 西屋敷華琳

夕虹を二人見ているベンチかな 3年 和田見遼馬

見上げると清々しいほど風薫る 3年 塩浦 颯也

沖縄県

カマキリも恋をするほど切なくて 3年 大城 強輔

夏休みみんなで飛ぶよ海の中 3年 大城 楓斗

君想う私の心雲の峰 3年 嘉陽田蓮翔

悠々と空を泳ぎし渡り鳥 3年 高嶺 星弥

一粒の汗が楽器に垂れ落ちる 3年 武田ひまり
虫の声合唱並みの響きかな 3年 前田 旺輝
風鈴と私の思い揺れ動く 3年 宮城 歩楓

● 選考について ●

今年度のNHK全国短歌・俳句大会ジュニアの部には、多くの作品のご応募がありました。

短歌大会には、一四、一四五首（幼児・小学生三、一〇一首、中学生一一、〇四四首）。俳句大会には、三六、六六七句（幼児二九五句、小学生一九、九六八句、中学生二六、四〇四句）もの投稿をいただきました。第一次審査を、九月二十一日にNHK学園にて行いました。その結果の入選作品を本選に送りました。

短歌では、東 直子先生、大松達知先生、俳句では、阪西敦子先生、堀本裕樹先生が、選考にあたりました。

学校全体で取り組み、応募率及び、入選率が高い学校・団体へ学校大賞、学校優秀賞を、また、小規模校等で独自の取り組みが見られた学校・団体へ特別賞をお贈りいたしました。

短歌、俳句ともに、選者特選、秀作入賞作品には賞状をお贈りいたします。

なお次回から幼児・小学生・中学生を対象としたジュニアの部は、一般の部と統合することいたしました。

全国から年齢を問わない老若男女の作品が一堂に会する広がりのある大会となるよう、引き続き尽力してまいります。

令和二年一月吉日

NHK全国短歌・俳句大会ジュニアの部事務局

一次審査会選者名 (五十音順)

短歌

大西 淳子 (コスモス)

佐佐木定綱 (心の花)

高島 裕 (未来)

花山 周子 (塔)

水上 芙季 (コスモス)

岡崎裕美子 (未来)

関谷 啓子 (短歌人)

富田 睦子 (まひる野)

法橋ひらく (かばん)

山内 頌子 (塔)

俳句

池田 瑠那 (澤)

川田由美子 (俳句十代・海原)

高勢 祥子 (街)

名取 里美 (藍生)

宮崎 斗士 (海原)

石 嵩 岳 (嘉祥・樵・雪解)

久野真喜恵 (麦)

田口 茉於 (若竹)

広渡 詩乃 (桜)

村上 鞆彦 (南風)

受賞作品が決まるまで

①作品募集



②一次審査



③本選



入選決定

④最終選考会



特別賞決定

⑤発表 (大会当日)

● 学校の取組み ●

応募時に記載いただいた「学校の取組み」から抜粋させていただきます。

☆毎月、児童全員が俳句や短歌を作る。月1回、朝会で発表者が発表する（各学年3〜4名程度）。発表作品は校長室前の掲示板に貼って鑑賞できるようにしている。「ことは通信」にも掲載する（毎月）。

（八王子市立鹿島小学校 源田佐知子）

☆3年生から6年生まで全校9人、複式学級2つの小さな学校です。担任も二人しかいないので、出張で留守のときなどに、書写担当の教員が代わりに入り、短歌や詩の授業をして、その時に作りました。

（倉敷市立琴浦北小学校 大月洋子）

☆本校では、春、梅雨、夏、秋、冬、早春と折々に俳句を作っています。1年生から取り組んでいるので、感じたことを俳句として表現することが楽しみの1つとなっています。高学年では品評会をし俳句作りに熱心に取り組んでいます。

（品川区立京陽小学校 杉本陽子）

☆生徒会の活動として、月に1度、短歌・俳句をつくり、地元の新聞社に送っています。

（新上五島町立奈良尾中学校 浦田淳子）

☆月1回の朝の活動で「俳句タイム」を行っています。また、田植えなどの学校行事の際、俳句を詠んでいます。

（南九州市立九玉小学校 田中幸代）

☆中学2年生の国語の授業で、「短歌を楽しむ」という題材にとり組んだ際につくった短歌です。想像力がふくらむ短歌を目指してつくりました。

（庄原市立庄原中学校 田中丸人文）

☆毎月、全校で俳句づくりに取り組んでいます。月に1回俳句集会を行い、各学年の代表児童が俳句を発表し、意見や感想を交流し合います。

（鬼北町立泉小学校 大塚淳子）

☆沼津が特区になっている言語科の3年生の授業で取り組みました。若山牧水記念館が市内にあり、毎年短歌コンクールにも応募しています。

（沼津市立第一中学校 小野山雅子）

☆本校では、子どもたちに「豊かな感性を」と、今年で26年目の取り組みをしています。行事ごとに俳句指導を行っています。

（東大阪市立石切中学校 山本篤志）

☆中2で相聞歌を、また中1から百人一首かるたを中心に学習し、表現を学習する指導として継続しています。

（春日部市立江戸川小中学校 加納幸江）

☆中学2年生の国語の教科書に「短歌」について学ぶ單元があるので、近代の短歌の魅力について学習したあと、自分でも少しでも歌人に近づこうような、想いをのせた短歌をつ

くってみるといふ授業を行っており、2年生全員の作品を出品しています。
(中頓別町立中頓別中学校 武山亮子)

☆高森みどり中学校は、3年前から、高校進学後の俳句甲子園全国大会出場を目指して、俳句学習に取り組んでいます。今回の応募は、夏休みの課題として作句したものです。全校生徒で応募しました。

(山口県立高森みどり中学校 中本昌恵)

☆国語「言葉を選んで短歌を作ろう」で、江戸時代の歌人橘曙覧さんのように「たのしみは」で始まる短歌に初挑戦しました。
(長野市立三本柳小学校 小林小有里)

☆長期休業後や行事・宿泊学習の折に全校、または学年で取り組み、〇〇先生賞などの表彰を行っています。

(北本市立北本中学校 小越美恵子)

☆2年生の校外学習(長野県戸狩)の事後学習として、国語科の短歌学習の後に2学年全員で取り組んでいます。

(横浜市立上郷中学校 小松崎幸子)

☆国語の中で俳句づくりに取り組むこともあります、伝統文化学習の中で年間二、三時間全体で取り組んでいます。

(ぎんがの郷小学校 山本洋子)

☆短歌の鑑賞の授業の後に、読み手に伝わる短歌を詠む工夫を指導し、創作しています。

(平塚市立山城中学校 浅野剛伸)

☆本校では、月に1度作った俳句を掲示したり、優秀作品を紹介したりするなど、全校で俳句づくりに取り組んでいます。廊下に有名な俳句や季語、俳句クイズ等を掲示して、俳句に親しむコーナーを作り、俳句づくりに生かしています。

(東広島市立東西条小学校 西條香織)

☆年に4回、全校児童が季節の俳句を作り、掲示。優秀作品を表彰している。

(渋谷区立神宮前小学校 吉田智美)

☆2年生以上の児童が、四季の俳句を作っています。季節ごとに、校内掲示をし、他学年の俳句をいつも見られるようにしています。また、近くのコミュニティや、銀行にも掲示していただいています。

(江戸川区立西一之江小学校 星野加代子)

☆毎年、5、6年生は夏休み前に俳句の基本的なづくり方を確認して、夏休みの間に材料集めをします。友達と読み合いながら、2学期に俳句づくりを楽しんでいます。日々の日記の中で、俳句づくりに挑戦する子もいます。宿泊の思い出を、杉板に俳句で表現する活動も行っています。

(カリタス小学校 安藤 翠)

☆全校児童が俳句手帳を持ち一年を通して取り組んでいる。地域の先生と連携を取り俳句道場などを行っている。本校の特色ある活動の一つとなっている。

(八峰町立峰浜小学校 川村明美)

第21回NHK全国短歌・俳句大会 ジュニアの部参加校名・団体一覧 (都道府県内順不同)

北海道

遠別町立遠別小学校 (俳句)
小樽市立潮見台小学校 (俳句)
共和町立北辰小学校 (俳句)
美唄市立中央小学校 (短歌)
富良野市立布部小学校 (短歌 俳句)
札幌市立明園中学校 (短歌 俳句)
札幌光星中学校 (短歌 俳句)
当麻町立当麻中学校 (俳句)
洞爺湖町立虻田中学校 (俳句)
中頓別町立中頓別中学校 (短歌)
七飯町立大中山中学校 (短歌 俳句)

青森

黒石市立中郷小学校 (短歌 俳句)
十和田市立高清水小学校 (俳句)
南部町立福地小学校 (俳句)
三沢市立おおぞら小学校 (俳句)
三沢市立木崎野小学校 (短歌)
六ヶ所村立尾駈小学校 (短歌 俳句)
鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校 (短歌 俳句)
五所川原市立五所川原第四中学校 (短歌 俳句)
平内町立東平内中学校 (短歌 俳句)
弘前市立第二中学校 (俳句)
弘前市立新和中学校 (短歌)
藤崎町立明德中学校 (短歌 俳句)
三沢市立堀口中学校 (短歌)
岩手
奥州市立岩谷堂小学校 (俳句)

岩手

軽米町立軽米小学校 (俳句)
一関市立大原中学校 (短歌 俳句)
岩手県立盛岡青松支援学校中等部 (俳句)
岩手大学教育学部附属中学校 (俳句)
岩手町立一方井中学校 (短歌 俳句)
岩手町立川口中学校 (短歌 俳句)
奥州市立江刺南中学校 (短歌)
釜石市立唐丹中学校 (短歌 俳句)
久慈市立山形中学校 (短歌 俳句)
西和賀町立沢内中学校 (短歌 俳句)
花巻市立南城中学校 (短歌 俳句)
洋野町立宿戸中学校 (短歌 俳句)
宮古市立重茂中学校 (俳句)
盛岡市立河南中学校 (短歌)
盛岡市立仙北中学校 (俳句)

宮城

石巻市立蛇田小学校 (短歌 俳句)
聖ドミニコ学院小学校 (短歌 俳句)
仙台白百合学園小学校 (俳句)
利府町立利府第三小学校 (俳句)
栗原市立栗駒中学校 (短歌)
仙台市立高森中学校 (短歌 俳句)
仙台市立六郷中学校 (俳句)
秋田
八峰町立峰浜小学校 (俳句)
秋田市立岩見三内中学校 (短歌 俳句)
秋田市立桜中学校 (俳句)
北秋田市立合川中学校 (俳句)

秋田

大仙市立仙北中学校 (短歌 俳句)
湯沢市立湯沢南中学校 (俳句)
由利本荘市立由利中学校 (俳句)
山形
愛真こども園 (俳句)
よつばこども園 (俳句)
酒田市立新堀小学校 (短歌 俳句)
米沢市立六郷小学校 (短歌 俳句)
鶴岡市立鶴岡第三中学校 (俳句)
南陽市立赤湯中学校 (短歌)

福島

会津若松市立一箕小学校 (俳句)
郡山市立穂積小学校 (短歌 俳句)
桜の聖母学院小学校 (短歌 俳句)
須賀川市立阿武隈小学校 (俳句)
会津若松市立一箕中学校 (短歌 俳句)
いわき市立玉川中学校 (短歌 俳句)
いわき市立中央台南中学校 (短歌)
いわき市立勿来第二中学校 (短歌)
白河市立五箇中学校 (短歌)
須賀川市立第三中学校 (短歌)
只見町立只見中学校 (俳句)
天栄村立天栄中学校 (短歌)
ひらた清風中学校 (短歌 俳句)
福島市立立子山中学校 (俳句)
茨城
真壁保育園 (俳句)

稲敷市立古渡小学校

(俳句)

リリーベル小学校

(短歌俳句)

江戸川学園取手中学校

(短歌俳句)

常総学院中学校

(短歌)

那珂市立瓜連中学校

(短歌俳句)

水戸市立第四中学校

(短歌俳句)

栃木

作新学院小学部

(俳句)

宇都宮短期大学附属中学校

(短歌俳句)

群馬

伊勢崎市立あずま北小学校

(短歌俳句)

太田市立尾島小学校

(短歌俳句)

東吾妻町立岩島小学校

(短歌俳句)

前橋市立東小学校

(短歌)

太田市立太田中学校

(短歌俳句)

吉岡町立吉岡中学校

(短歌俳句)

埼玉

朝霞市立朝霞第十小学校

(俳句)

春日部市立小淵小学校

(俳句)

春日部市立中野小学校

(短歌俳句)

春日部市立藤塚小学校

(俳句)

加須市立鴻荃小学校

(短歌俳句)

加須市立高柳小学校

(俳句)

加須市立花崎北小学校

(俳句)

久喜市立江面第一小学校

(俳句)

さいたま市立田島小学校

(短歌俳句)

西武学園文理小学校

(短歌俳句)

草加市立川柳小学校

(俳句)

所沢市立北秋津小学校

(俳句)

所沢市立安松小学校

(俳句)

新座市立東北小学校

(短歌俳句)

羽生市立羽生南小学校

(俳句)

日高市立高根小学校

(短歌俳句)

本庄市立藤田小学校

(俳句)

宮代町立笠原小学校

(俳句)

宮代町立百間小学校

(俳句)

朝霞市立朝霞第二中学校

(短歌俳句)

入間市立黒須中学校

(短歌俳句)

入間市立東金子中学校

(短歌俳句)

桶川市立桶川東中学校

(短歌俳句)

春日部市立中野中学校

(俳句)

春日部市立江戸川中学校

(短歌俳句)

春日部市立大沼中学校

(短歌俳句)

上里町立上里北中学校

(俳句)

川越市立寺尾中学校

(俳句)

川越市立福原中学校

(俳句)

北本市立北本中学校

(俳句)

北本市立東中学校

(俳句)

さいたま市立宮原中学校

(短歌俳句)

狭山市立中央中学校

(俳句)

鶴ヶ島市立藤中学校

(短歌)

所沢市立北野中学校

(短歌俳句)

所沢市立柳瀬中学校

(短歌俳句)

千葉

花見川さくら学園

(俳句)

我孫子市立新木小学校

(短歌俳句)

我孫子市立高野山小学校

(俳句)

鎌ヶ谷市立中部小学校

(短歌俳句)

千葉市立扇田小学校

(短歌俳句)

千葉市立幕張小学校

(俳句)

千葉市立源小学校

(短歌俳句)

成田市立本城小学校

(短歌俳句)

船橋市立二宮小学校

(俳句)

船橋市立法典西小学校

(短歌俳句)

船橋市立法典東小学校

(短歌俳句)

松戸市立松飛台小学校

(短歌俳句)

いすみ市立岬中学校

(短歌)

市川市立第一中学校

(俳句)

市川市立東国分中学校

(俳句)

柏市立中原中学校

(短歌)

専修大学松戸中学校

(短歌俳句)

千葉市立花園中学校

(短歌俳句)

千葉市立緑が丘中学校

(短歌俳句)

松戸市立旭町中学校

(短歌俳句)

松戸市立和名ヶ谷中学校

(短歌)

睦沢町立睦沢中学校

(短歌俳句)

茂原市立富士見中学校

(短歌俳句)

東京

みのり幼稚園

(俳句)

荒川区立第四峡田小学校

(俳句)

江戸川区立篠崎小学校

(短歌俳句)

江戸川区立西一之江小学校

(俳句)

葛飾区立こすげ小学校

(俳句)

葛飾区立新宿小学校

(短歌俳句)

江東区立越中島小学校

(俳句)

江東区立豊洲北小学校

(俳句)

江東区立南砂小学校

(俳句)

小平市立小平第七小学校

(俳句)

品川区立京陽小学校

(俳句)

渋谷区立神宮前小学校

(俳句)

新宿区立落合第四小学校

(俳句)

新宿区立戸塚第一小学校

(俳句)

杉並区立杉並第二小学校

(短歌俳句)

墨田区立第三吾嬬小学校

(短歌俳句)

中央区立月島第一小学校

(短歌俳句)

調布市立若葉小学校

(俳句)

トキワ松学園小学校

(俳句)

豊島区立巢鴨小学校

(俳句)

にしみたか学園三鷹市立井口小学校

(短歌俳句)

練馬区立北原小学校

(俳句)

八王子市立鹿島小学校

(短歌俳句)

檜原村立檜原学園檜原小学校

(俳句)

文京区立明化小学校

(俳句)

町田市立町田第四小学校

(俳句)

武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校

(俳句)

足立区立入谷南中学校

(短歌)

荒川区立第四中学校

(短歌俳句)

板橋区立高島第三中学校

(短歌俳句)

江戸川区立瑞江第三中学校

(短歌)

大田区立大森第六中学校

(短歌俳句)

海城中学校

(短歌俳句)

学習院女子中等科

(俳句)

葛飾区立金町中学校

(短歌俳句)

葛飾区立亀有中学校

(俳句)

共立女子中学校

(短歌)

国立市立国立第一中学校 (短歌・俳句)
江東区立深川第五中学校 (短歌・俳句)
杉並区立西宮中学校 (短歌・俳句)
台東区立駒形中学校 (俳句)
多摩市立諏訪中学校 (俳句)
多摩市立和田中学校 (俳句)
東京朝鮮第一初中級学校 (短歌・俳句)
東京朝鮮第五初中級学校 (短歌・俳句)
練馬区立開進第二中学校 (俳句)
練馬区立豊浜中学校 (短歌・俳句)
八王子市立第四中学校 (短歌・俳句)
八丈町立富士中学校 (短歌・俳句)
富士見丘中学校 (短歌・俳句)
三鷹市立第一中学校 (短歌・俳句)
武蔵村山市立第四中学校 (短歌・俳句)
目黒区立第七中学校 (俳句)
目黒星美学園中学校 (短歌・俳句)

神奈川

カリタス小学校 (短歌・俳句)
寒川神社小年館 (俳句)
洗足学園小学校 (短歌・俳句)
横須賀学院小学校 (短歌・俳句)
横浜市立鶴ヶ峰諸学校 (俳句)
伊勢原市立山王中学校 (短歌・俳句)
川崎市立野川中学校 (短歌・俳句)
川崎市立宮崎中学校 (俳句)
関東学院中学校 (短歌・俳句)
平塚市立山城中学校 (短歌・俳句)
藤沢市立善行中学校 (俳句)

三浦市立三崎中学校 (俳句)
横浜市立あかね台中学校 (俳句)
横浜市立岩井原中学校 (俳句)
横浜市立上郷中学校 (短歌・俳句)
横浜市立上白根中学校 (俳句)
横浜市立豊田中学校 (短歌・俳句)
横浜市立西金沢義務教育学校 (俳句)
横浜市立日野南中学校 (俳句)
横浜市立六浦中学校 (短歌・俳句)
横浜翠陵中学校 (短歌・俳句)

新潟

佐渡市立南佐渡中学校 (短歌・俳句)
十日町市立中里中学校 (短歌・俳句)
長岡市立栖吉中学校 (短歌・俳句)
新潟市立白南中学校 (短歌・俳句)
巻サミト教室 (短歌・俳句)

富山

高岡市立東五位小学校 (俳句)
高岡市立伏木小学校 (俳句)
富山市立堀川小学校 (短歌・俳句)
高岡市立国吉中学校 (短歌・俳句)
富山市立奥田中学校 (短歌・俳句)
南砺市立井口中学校 (短歌・俳句)

石川

中能登町立鹿島小学校 (俳句)
中能登町立鳥屋小学校 (短歌・俳句)
中能登町立中能登中学校 (俳句)

北陸学院中学校 (俳句)
丸内中学校 (短歌・俳句)
福井
池田町立池田小学校 (俳句)
永平寺町吉野小学校吉野児童クラブ (俳句)
御陵小学校 (俳句)
坂井市立三国西小学校 (俳句)
鯖江市惜陰小学校 (短歌・俳句)

山梨

駿台甲府中学校 (短歌・俳句)

長野

上田市立塩尻小学校 (俳句)
長野市立三本柳小学校 (短歌・俳句)
長野市立南部小学校 (短歌・俳句)
長野市立湯谷小学校 (短歌・俳句)
飯島町立飯島中学校 (俳句)
伊那市立高遠中学校 (短歌・俳句)
塩尻市立広陵中学校 (短歌・俳句)
塩尻市立塩尻中学校 (短歌・俳句)
長野市立中条中学校 (俳句)
長野市立中条中学校 (俳句)
長野市立中条中学校 (俳句)
長野市立中条中学校 (俳句)
長野市立中条中学校 (俳句)
長野市立中条中学校 (俳句)

岐阜

揖斐川町立谷汲小学校 (俳句)
大垣市立墨俣小学校 (俳句)
岐阜市立長森西小学校 (俳句)
岐阜市立三輪北小学校 (俳句)

郡上市立那留小学校 (短歌・俳句)
郡上市立大和第一北小学校 (短歌・俳句)
郡上市立大和西小学校 (短歌・俳句)
郡上市立大和南小学校 (短歌・俳句)
関市立倉知小学校 (俳句)
山県市立大桑小学校 (俳句)
郡上市立大和中学校 (短歌・俳句)
下呂市立竹原中学校 (俳句)
多治見市立北稜中学校 (俳句)
多治見市立南姫中学校 (俳句)
飛騨市立山之村中学校 (俳句)

静岡

静岡大学教育学部附属浜松小学校 (短歌・俳句)
袋井市立山名小学校 (俳句)
静岡市立賤機中学校 (俳句)
静岡市立清水小島中学校 (短歌・俳句)
静岡市立豊田中学校 (俳句)
静岡市立由比中学校 (短歌・俳句)
沼津市立第一中学校 (短歌・俳句)
浜松市立北浜中学校 (短歌・俳句)
袋井市立周南中学校 (短歌・俳句)

愛知

新城市立新城小学校 (俳句)
東海市教育委員会 (俳句)
西尾市立西野町小学校 (俳句)
愛知教育大学附属岡崎中学校 (短歌・俳句)
岡崎市立葵中学校 (俳句)
岡崎市立北中学校 (俳句)

刈谷市立刈谷東中学校

(俳句)

幸田町立南部中学校

(俳句)

小牧市立北里中学校

(短歌俳句)

新城市立東郷中学校

(短歌俳句)

東海学園東海中学校

(短歌俳句)

豊橋市立青陵中学校

(短歌俳句)

豊橋市立南陽中学校

(俳句)

長久手市立北中学校

(短歌俳句)

名古屋市立駒方中学校

(短歌俳句)

名古屋市立桜丘中学校

(俳句)

名古屋市立城山中学校

(短歌俳句)

名古屋市立鳴海中学校

(短歌俳句)

名古屋市立萩山中学校

(短歌俳句)

西尾市立西尾中学校

(俳句)

三重

亀山市立中部中学校

(短歌俳句)

津市立みさとの丘学園

(短歌)

滋賀

草津市立老上小学校

(短歌俳句)

草津市立洪川小学校

(俳句)

草津市立山田小学校

(俳句)

草津市立新堂中学校

(短歌俳句)

長浜市立余呉小中学校

(俳句)

京都

京都文教短期大学付属小学校

(短歌俳句)

ノートルダム学院小学校

(短歌俳句)

大阪

大阪府立生野聴覚支援学校

(俳句)

堺市立深井西小学校

(短歌俳句)

高槻市立樫田小学校

(短歌俳句)

大阪府立大正中央学校

(俳句)

大阪府立長吉六反中学校

(短歌俳句)

東大阪市立石切中学校

(俳句)

兵庫

明石市立明石小学校

(短歌俳句)

小林立聖心女子学院小学校

(短歌俳句)

雲雀丘学園中学校

(短歌)

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

(俳句)

奈良

三郷町立三郷北小学校

(短歌俳句)

帝塚山小学校

(短歌俳句)

奈良市立椿井小学校

(短歌)

明日香村立聖徳中学校

(俳句)

宇陀市立室生中学校

(俳句)

香芝市立香芝東中学校

(短歌)

上牧町立上牧中学校

(俳句)

五條市立五條東中学校

(俳句)

奈良市立春日中学校夜間学級

(俳句)

大和郡山市立片桐中学校

(俳句)

和歌山

印南町立印南中学校

(短歌俳句)

鳥取

鳥取市立神戸小学校

(短歌俳句)

日野町立日野中学校

(短歌俳句)

島根

飯南町立頼原中学校

(短歌俳句)

出雲市立向陽中学校

(短歌俳句)

出雲市立湖陵中学校

(短歌俳句)

奥出雲町立仁多中学校

(短歌俳句)

松江市立鹿島中学校

(俳句)

岡山

倉敷市立琴浦北小学校

(短歌)

倉敷市立連島南小学校

(短歌俳句)

倉敷市立南浦小学校

(短歌)

新見市立野馳小学校

(短歌)

岡山市立岡北中学校

(短歌)

岡山市立桑田中学校

(俳句)

玉野市立八浜中学校

(俳句)

玉野市立日比中学校

(短歌俳句)

広島

尾道市立吉和小学校

(俳句)

ぎんがの郷小学校

(短歌俳句)

庄原市立比和小学校

(短歌俳句)

なぎさ公園小学校

(俳句)

東広島市立寺西小学校

(俳句)

東広島市立入野小学校

(短歌俳句)

東広島市立東西条小学校

(俳句)

東広島市立三ツ城小学校

(俳句)

福山市立広瀬小学校

(俳句)

福山市立御幸小学校

(俳句)

府中市立栗生小学校

(俳句)

安田学園安田小学校

(俳句)

安芸高田市立向原中学校

(短歌俳句)

呉市立倉橋中学校

(短歌俳句)

呉市立郷原中学校

(短歌俳句)

呉市立豊浜中学校

(俳句)

呉市立立豊浜中学校

(俳句)

庄原市立庄原中学校

(短歌俳句)

東京学習社

(俳句)

廿日市市立廿日市中学校

(短歌俳句)

広島市立阿戸中学校

(短歌俳句)

広島市立大洲中学校

(短歌俳句)

広島市立観音中学校

(俳句)

広島市立城北山北中学校

(短歌)

福山曉の星女子中学校

(俳句)

福山市立立瀬中学校

(俳句)

福山市立福山中学校

(短歌)

福山市立松永中学校

(短歌俳句)

三原市立第五中学校

(俳句)

三次市立布野中学校

(短歌)

山口

岩国市立玖珂中学校

(短歌俳句)

岩国市立麻里布中学校

(短歌俳句)

周南市立和田中学校

(俳句)

美祿市立豊田前中学校

(俳句)

柳井市立箭内西中学校

(俳句)

山口県立岩国総合支援学校

(短歌俳句)

山口県立高森みどり中学校

(短歌俳句)

山口市立湯田中学校

(短歌)

徳島

牟岐町立牟岐小学校

(俳句)

愛媛

鬼北町立泉小学校

(俳句)

伊方町立伊方中学校

(短歌 俳句)

今治市立北郷中学校

(短歌 俳句)

大洲市立新谷中学校

(短歌 俳句)

四国中央市立新宮中学校

(俳句)

砥部町立砥部中学校

(短歌)

松山市立垣生中学校

(俳句)

高知

土佐市立高岡第一小学校

(短歌 俳句)

南国市立大篠小学校

(短歌 俳句)

高知市立朝倉中学校

(俳句)

福岡

麻生学園小学校

(短歌 俳句)

大任町立今任小学校

(俳句)

筑紫野市立筑紫野東小学校

(短歌 俳句)

福岡雙葉小学校

(俳句)

飯塚市立幸袋中学校

(短歌 俳句)

糸島市立前原中学校

(短歌)

大野城市立大野東中学校

(短歌 俳句)

大牟田市立松原中学校

(俳句)

小郡市立大原中学校

(短歌)

春日北中学校

(俳句)

香春町立香春中学校

(短歌 俳句)

北九州市立大谷中学校

(俳句)

北九州市立曾根中学校

(短歌 俳句)

北九州市立南曾根中学校

(短歌 俳句)

小竹町立小竹中学校

(俳句)

新宮町立新宮中学校相島分校

(短歌 俳句)

筑紫野市立筑紫野南中学校

(短歌 俳句)

直方市立直方第三中学校

(俳句)

福岡県久留米聴覚特別支援学校

(短歌 俳句)

福岡県立嘉穂高等学校附属中学校

(短歌 俳句)

福岡市立老司中学校

(俳句)

八女市立星野中学校

(短歌 俳句)

行橋市立長峽中学校

(俳句)

佐賀

鹿島市立鹿島小学校

(短歌 俳句)

鹿島市立古枝小学校

(短歌 俳句)

白石町立北明小学校

(短歌 俳句)

有田町立有田中学校

(俳句)

玄海みらい学園

(俳句)

佐賀県立金立特別支援学校中学部

(短歌)

佐賀県立武雄青陵中学校

(短歌 俳句)

太良町立多良中学校

(短歌 俳句)

早稲田佐賀中学校

(俳句)

長崎

中村グループ

(俳句)

長崎市立西北小学校

(俳句)

中村グループ

(俳句)

西海市立鶴雪浦小学校

(俳句)

諫早市立長田中学校

(短歌 俳句)

新上五島町立奈良尾中学校

(短歌 俳句)

熊本

大津町立美咲野小学校

(俳句)

大津町立大津南小学校

(俳句)

熊本市立西原中学校

(短歌 俳句)

大分

津久見市立青江小学校

(短歌 俳句)

佐伯市立鶴見中学校

(短歌 俳句)

宮崎

日向市立坪谷小学校

(短歌 俳句)

宮崎大学教育学部附属小学校

(短歌 俳句)

大淀学園 鵬翔中学校

(俳句)

西米良村立西米良中学校

(俳句)

鹿児島

曾於市立高岡小学校

(短歌 俳句)

垂水市立柊原小学校

(俳句)

南九州市立九玉小学校

(俳句)

南さつま市立益山小学校

(短歌 俳句)

鹿児島市立鴨池中学校

(短歌 俳句)

鹿児島市立喜入中学校

(俳句)

鹿児島市立坂元中学校

(短歌 俳句)

鹿児島市立吉田北中学校

(短歌 俳句)

肝付町立岸良中学校

(短歌 俳句)

長島町立鷹巣中学校

(短歌 俳句)

長島町立長島中学校

(短歌 俳句)

西之表市立種子島中学校

(短歌 俳句)

日置市立土橋中学校

(短歌 俳句)

湧水町立栗野中学校

(短歌 俳句)

沖縄

那覇市立開南小学校

(短歌 俳句)

石垣市立川平中学校

(短歌 俳句)

北中城村立北中城中学校

(俳句)

金武町立金武中学校

(俳句)

名護市立名護中学校

(俳句)

那覇市立神原中学校

(短歌 俳句)

宮古島市立砂川中学校

(俳句)

海外

ワシントン日本語学校

(短歌 俳句)

第21回

●NHK全国短歌・俳句大会—ジュニアの部—

入選作品集

令和2年1月25日 発行

編集／発行 NHK全国短歌・俳句大会事務局

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 NHK学園内

電話 042-572-3151(代) ホームページ <https://www.n-gaku.jp>

印刷／藤原印刷株式会社

© 2020 NHK・NHK学園

作品集の作成にあたっては、あきらかな誤字・脱字以外は、原作のまま掲載いたしました。

誤植など不備な点がございましたらお許してください。

また落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

表紙デザイン／菊地信義

表紙写真／新井正道「うわぁ！大変だー！」

(第29回NHK学園生涯学習写真展「入選」)

N H K 番 組 情 報

NHK

それでも、この仁なき世を愛せるか。

大河ドラマ

麒麟がくる

主演 長谷川博己
作 池端俊策 音楽 ジョン・グラム 語り 市川海老蔵
2020年1月19日(日)スタート 総合テレビ 日曜午後8時 / BSプレミアム 日曜午後6時 / BS4K 日曜午前9時



Eテレ

日曜日 午前6:00~6:25
火曜日 午後3:00~3:25 (再)

短歌選者



江戸 雪 佐佐木 頼綱 大辻 隆弘 星野 真里 司会 有森 也実



Eテレ

日曜日 午前6:35~7:00
水曜日 午後3:00~3:25 (再)

司会

俳句選者



宇多 喜代子 長嶋 有 井上 弘美 小林 聡美 岸本 葉子 戸田 菜穂

毎月第4日曜は初心者向け短歌・俳句番組をお送りしています。



Eテレ

第4日曜 午前6:00~6:25
翌週火曜 午後3:00~3:25 (再)
選者：佐伯 裕子 出演：スピードワゴン ほか



Eテレ

第4日曜 午前6:35~7:00
翌週水曜 午後3:00~3:25 (再)
選者：堀本 裕樹 出演：武井 壮、加藤 諒、酒井 敏也 ほか





N学で

マイスタイル OK!!

N学の
ここが魅力!

NHK学園は‘新しい学び’を提供する、伝統ある広域通信制高等学校です。
創立57周年！ 卒業生は、76,000人余りとなりました。

- ① インターネットを利用した、最先端の双方向学習で
‘わかる・できる’を実感。
- ② テレビ・ラジオの「NHK高校講座」が授業。インターネットの利用で
何度でもくり返し学習できるから、自分のペースで学べます。
- ③ 不登校生徒のための「ネット学習Do itコース」は文部科学省認定。
N学でしかできない独自のカリキュラムで3年間で卒業できます。
- ④ 面接指導会場は、全国に40か所。日本全国から入学できます。
入学のための筆記試験はありません。
- ⑤ 海外在住のまま高校を卒業できる「ネット学習海外コース」が
あり、世界中から入学できます。
- ⑥ 前籍校の修得単位をいかして転入学・編入学ができます。
高い進学実績も特長です。
- ⑦ 東京校は週3日登校して、キャンパスライフを
充実させる「登校コース」があります。
- ⑧ 学費も安心！保護者の経済的負担も少なくできます。



まずはお電話を！

広域通信制・単位制
普通科



0120-451-424

NHK学園高等学校

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 (東京本校)

●資料請求・入学相談・説明会のお問い合わせ先

☎ 0120-451-424 FAX: 042-572-3332

ホームページ <https://www.n-gaku.jp/sch>

※入学案内と願書はホームページからダウンロードもできます。

●出願期間

2020年度

新入学(推薦)	1/15～1/24
新入学(一般)	1/25～4/30
編入学	1/25～4/30
転入学	3/1～随時

※詳しくはお問い合わせ下さい。

※登校コースは募集要項をご請求下さい。

●学校説明会・個別相談会

全国各地で開催予定。詳しくは
ホームページまたは、お電話にて
ご確認下さい。

(ネット学習Do itコース、
ベーシックコース、
ネット学習コース)

永田和宏のはじめての短歌 講座

●受講期間／6か月 ●添削／5回

短歌が作れる工夫満載のテキストと問題集！

短歌の基本を5回に分けてわかりやすく解説したテキストで段階的に学びます。

ノート形式のレポートで5回分の添削記録が一冊に！

添削講師は、前回までの作品やのアドバイスをふまえて、わかりやすく添削しますので、進度が一目でわかります。

※より力をつける **入門コース** **実作コース**、「かなづかい」や「文法」を学ぶ **短歌 文法のツボ**、作品づくりに役立つ表現テクニックを学ぶ **短歌 表現のコツ** もあります。



小島健のはじめての俳句 講座

●受講期間／6か月 ●添削／5回

わかりやすいドリル式テキスト

テキストで五七五のリズムや季語、歳時記のことなど、俳句の基本が章ごとにわかりやすく整理されています。

間違いやすいポイントを重点的に指導！

音数の数え方や季語の分類など、間違いやすい点をレポート課題を通じてアドバイスします。

※より力をつける **入門コース** **実作コース**、「かなづかい」や「文法」を学ぶ **俳句 文法のツボ**、作品づくりに役立つ表現テクニックを学ぶ **俳句 表現のコツ** もあります。



基本から学ぶ。わかりやすいテキストと練習問題で無理なくマスター。

学校の授業に役立てる 自分の趣味を増やすなどNHK学園がお手伝いします。

詳しい案内書を無料でお送りします。

☎ 0120-06-8881

NHK学園

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 6B18係

ホームページ <https://www.n-gaku.jp/life> FAX.042-574-1006 TEL.042-572-3151(代)

希望講座名
郵便番号
住所 氏名
電話番号

☑ 郵便はがき
〒186-8001
国立市富士見台
NHK学園
6B18係

おいしいパンと 暮らしていますか。

窓にそそぐ柔らかな日差しと爽やかな風。

お気に入りの曲をかけながら作るサラダ。

トーストの焼ける芳ばしい香り。

そんな何でもない時間の

かけがえのないやさしさ。

おいしいパンと暮らしていますか。

パンにはきっと、

毎日をやさしく豊かにする力がある。

私たちはそう信じています。



心の風景を、書きとめよう。

伊藤園

新俳句大賞 作品募集中!

日本のお茶

お〜お茶

第三十二回

新俳句フォト部門を
新設しました

新俳句と写真を組み合わせて、日常生活を表現
してもらう部門です。

Twitterで「#新俳句フォト
#お〜お茶」をつけて、
俳句と画像を
投稿しよう!

詳しくはこちらから▶



入賞作品
2,000句は
お〜お茶
パッケージに
掲載されます。



第三十回 文部科学大臣賞 受賞作品
猫の載る ヘルスメーター 文化の日

お〜お茶
新俳句大賞
審査員の方々

※敬称略 五十音順

日本語俳句の部



浅井 慎平
(写真家)



安西 篤
(俳人)



いとうせいこう
(作家・クリエイター)



金田 一秀穂
(日本語学者)



黒田 杏子
(俳人)



夏井 いつき
(俳人)



宮部 みゆき
(作家)



村治 佳織
(ギタリスト)



吉行 和子
(女優)



アーサー・ビナード
(詩人)



星野 恒彦
(俳人)

英語俳句の部

テーマ

テーマは自由。自分で感じたこと、思ったことを季語や定型にこだわることなく、
五・七・五のリズムにのせて、のびのびと表現してください。

応募方法

ハガキ、FAX(A4サイズ)、インターネットのいずれかの方法で、ご応募いただけます。「応募部門と作品」「郵便番号」「住所」
「氏名」「年齢」「電話番号」「Eメールアドレス」所属されている場合のみ「句会、学校名、サークル名」を明記してください。

応募締切

2020年2月29日(土) 当日消印/送信有効 ※団体応募締切:2020年2月12日(水) 必着

※個人情報の取り扱いについて…ご応募いただいた方の個人情報は、応募者ご本人、または応募者ご本人が中学生以下の場合はその保護者の許可なく業務委託先以外の
第三者に個人情報を開示することはありません。入賞・入選作品につきましては、発表のために、作者名・年齢・都道府県・市区町村名を公表させていただきます。

応募宛先

「伊藤園 お〜お茶 新俳句大賞」係まで

ハガキ

〒102-8553 東京都千代田区紀尾井町 3-23

FAX

03-3263-5668

インターネット

<https://itoen-shinhaiku.jp>



お問い合わせ先：伊藤園新俳句大賞事務局 TEL 03-3264-4050 10時〜18時(土日祝日・年末年始を除く)

詳しくは伊藤園ホームページまたは上記お問い合わせ先にご確認ください。

第21回 **NHK** *Junior* ジュニアの部
全国短歌俳句大会
NHK Zenkoku Tanka Haiku taikai
入選作品集

第21回 NHK全国短歌俳句大会ジュニアの部

日時：2020年1月25日・26日 午後1時～4時

会場：NHKホール

主催：NHK・NHK学園

後援：文化庁・東京都

〈短歌〉現代歌人協会・日本歌人クラブ

〈俳句〉公益社団法人俳人協会・現代俳句協会・

公益社団法人日本伝統俳句協会・国際俳句交流協会

協力：NHKエデュケーショナル・NHK出版

協賛：〈短歌〉山崎製パン株式会社 〈俳句〉伊藤園